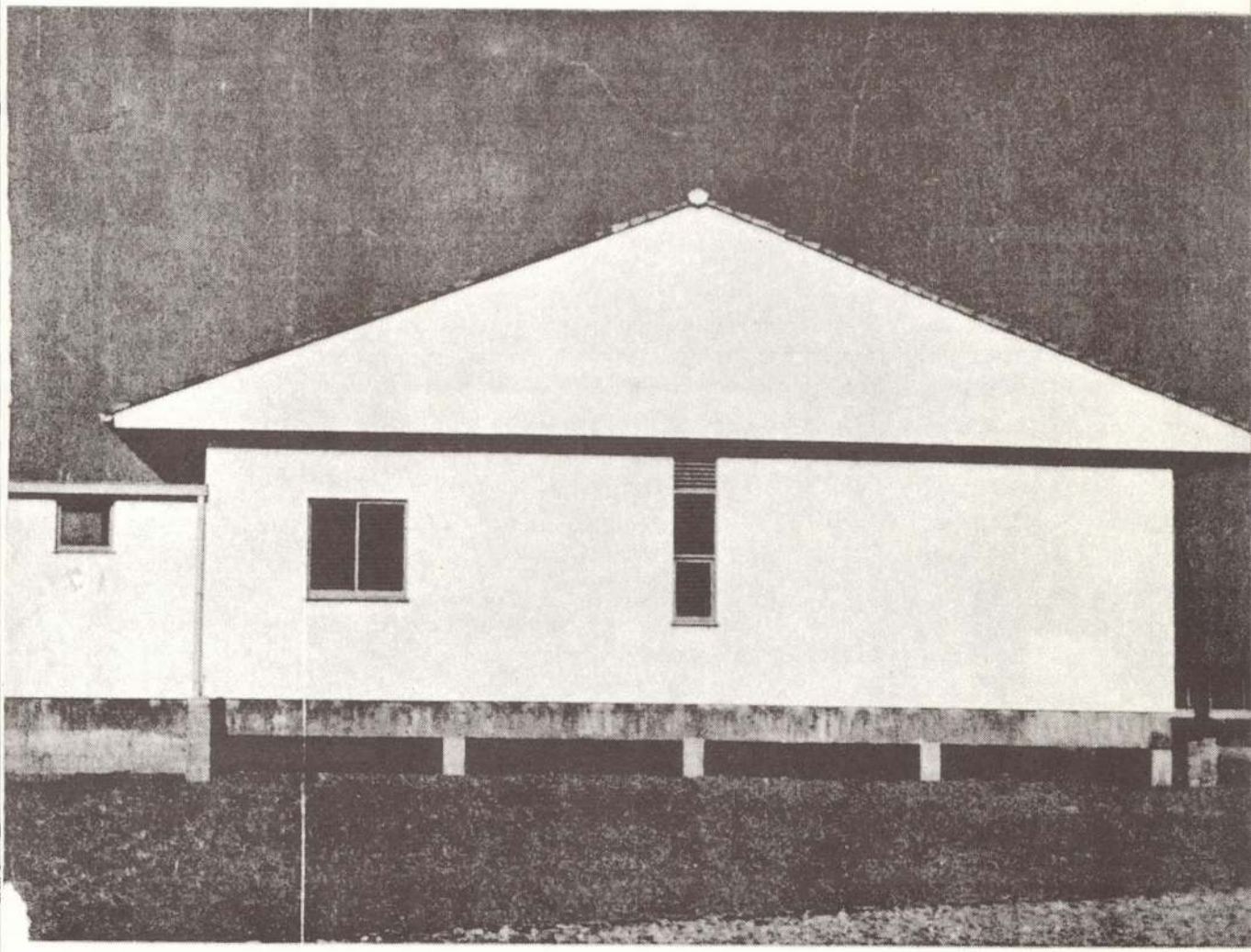
昭和24年3月19日第3種郵便物認可昭和29年5月25日印刷昭和29年6月1日發行

建築と社會

青年建築家特集



日本建築協会

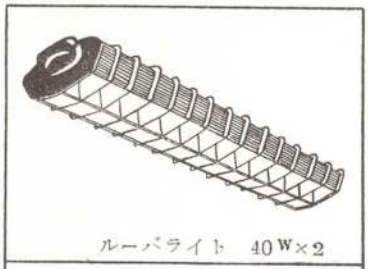
THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN VOL-35 6 1954

近代的な照明だ！

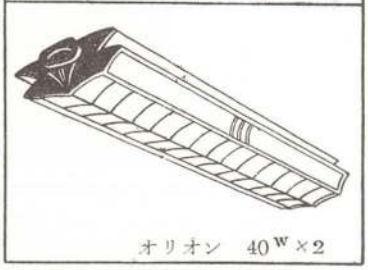
新製品発売

マツダ

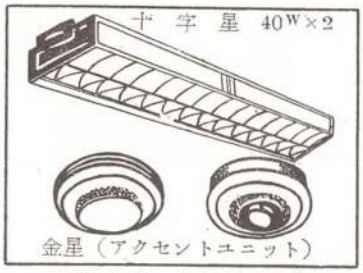
東芝 デイブライト照明器具



ルーバライト 40W×2



オリオン 40W×2



十字星 40W×2

金星（アクセントユニット）

明星
銀河
北斗星

Toshiba
DAY-BRITE

東芝商事株式会社大阪支店 （大阪市北区堂島浜通1～15）

TRADE MARK



DOG

メンブレン式 防水

の補強材料は30年の経厂を誇る

ドッグ印で!!

ドッグ印	アスファルトルーフィング
〃	アスファルトフエルト
〃	キンマレアタィト（高級瀝青金麻布）
〃	ヘツシヤンファブリック（瀝青黄麻布）
〃	コツトンファブリック（瀝青綿布）
〃	白麻ファブリック（瀝青苧麻布）
〃	ゲオンタイト（伸縮目地板）

地下鉄道、高架鉄道の如き激しい震動箇所でも弊社製品は完璧の防水効果を発揮して居ります

型録・見本・仕様書
御報呈上

日本工業規格表示許可工場

株式会社 工英社

大阪市西成区橋通9丁目24番地 電話天下茶屋㊸4628番

1954年6月

社団法人 日本建築協会

大阪市北区中之島3-3朝日ビル 電北浜㉓1334-9

会員名簿（1955年版）業界案内欄の広告掲載御依頼について

本会はこの度、戦後2回目の名簿を今秋11月に発行すべく目下編集中であります。この名簿は建築界に活躍される会員についての現況を紹介するばかりでなく、官公庁、学校、団体一覧の外、建築関係者が日常業務上必要とする「建築事務所」「建設業」「建築材料・設備関係・各種附帯工事業」等の営業案内欄を設けて、一層実用に供するため、各業界における著名業者に洩れなく御掲載を御依頼致したいと存じます。

就ては日常座右に備えかつ長期に亘つて利用度の高い、この名簿案内欄に何卒（下記概要参照の上）御申込み下さる様御願い申上げます。

案内欄掲載規定

1. 原稿は別紙原稿用紙に明瞭に記入の上**7月20日**迄に申込みのこと。
1. 記載字数は裏面組見本参照の上換算字数程度、文字、数字に限る。マーク図案等は用いない。倘字数が枠内に収らないときは略記することもある。**掲載順序はすべて50音順とする。**
1. 掲載料は**1小間 1.000円**（1頁12小間）**建築事務所**のみ**1小間800円**（1頁14小間）とし**前金払込み**のこと。同封の振替用紙御利用願います。
1. 掲載先には1小間に1冊の割で無料呈上する。

1955年版会員名簿

1. 大さ体裁　A5版　約300頁　中質紙　フアイバー装幀
1. 頒布方法　全会員並広告掲載先一部に限り無料配布　その他　有料
1. 頒布価予定　特価250円　（送料共）

●業者案内欄組見本裏面参照●

日本建築協会名簿案内欄組見本

建築事務所

所名	所長	所在地	電話
関東建築事務所	藤井愛司	東京都中央区槇町1-5 関東ビル	京橋 5571 (56)
近畿建築事務所	吉間太郎	大阪市東区今橋5-1 近畿ビル	北浜 5505 (23)
株式会社 兵庫設計事務所	社長 兵庫 一造 専務 橋上 一	東京都千代田区丸内28丁仲12号館6号 仙台支社・仙台市同心町通28 大阪出張所・大阪市東区高麗橋2-9 野村ビル6階 日本建機内	丸ノ内(23) 1506 3668 4665 仙台 3309 土佐堀(44) 1112

1小間

建設業

名称	営業所	電話
京建築株式会社	本店・京都市左京区吉田本町 出張所・神奈川. 岡山. 福島. 広島. 富山. 長野	吉田 0051
日本建築工業株式会社	本店・大阪市東区京橋 2-75	東 861-6
	東京支店・東京都千代田区丸ノ内1-2	丸ノ内 3421-7
	大阪支店・大阪市東区京橋 3-75	東 861-6
	東京支店・東京都千代田区丸ノ内1-2	丸ノ内 3421-7
	名古屋支店・名古屋市中区広小路通 4-8	本局 927-9
	福岡支店・福岡市大名町 105	西 861-4
	京都支店・京都市中京区室町通四条上	本局 336-7
	仙台支店・仙台市東三番町 130	仙台 726
	横浜支店・横浜市中区港町 4-16	長者町 3623
	札幌支店・札幌市北一条西 2-9	札幌 4235
	広島支店・広島市平田屋町 7	西 4691-2
	岡山支店・岡山市上石井 208	岡山 2511-2
	神戸出張所・神戸市生田区栄町通 2-47	元町 2435
	高松出張所・高松市旅籠町 45-1	高松 4325
	金沢出張所・金沢市野田寺町 5-16	金沢 1454

3小間

建築材料業・設備関係業・各種工事業

名称	営業種目	営業所	電話
株式会社 M.O工業所	セメント急結防水剤製造発売 M.O式セメント防水工事施工請負	本社・京都市下京区西九條池の内町1 営業所・東京都品川区平塚町 5-26 大阪市天王寺区生玉町71 名古屋市中区老松町213	下5 5515 荏原 5300 天王寺 0980 東 2154
白山建材株式会社	白印アスファルト・ルーフイング	本社・東京都千代田区神田小川町 1-5	神田 1549 1575
	白印アスファルト・フエルト	小台工場・東京都足立区小台町633	足立 2569
	白印砂付ルーフイング	神田営業所・東京都千代田区神田小川町1-6	神田 1549 1575
	白印パーマネントルーフイング	小台営業所・東京都足立区小台町633	王子 2300-3579 2570-5757 2681
	白印ター・フエルト		
	白印ルーフ・コーチング	大阪出張所・大阪市西区京町堀上通り1-3 京町堀ビル	1813
	板製造本社		

3小間

備考
1. 各業種別にA5判1頁12小間割
1. 建築事務所関係のみ1頁13小間割
1. 1店の所要小間数制限なし
1. 材料・設備関係は営業品種別索引を付ける

青年建築家特集

——建築と社会6月号——

目　次

表紙写真：松村慶三氏の作

青年建築家特集号に寄せて……中村　綱……1
青年建築家への挨拶……浦辺　鎭太郎……1
富家　宏泰
　作品：祇園「富美代」・旅館「大文字家」……2
坂田　美郎
　作品：岐阜縣立岐阜高等学校……5
　論說：機能主義と云う護符……52
今西　茂雄
　作品：尼崎文化会館計画案・千草グリル・他……6
　感想：建築開眼……6
三田　一男
　作品：古賀の井旅館・他……8
渡辺禎己外2名
　作品：相生住宅……10
　說明：相生住宅について……10
森下　裕良
　作品：帝國人絹絲株式会社名古屋工場講堂……12
　論說：建築に於ける構想力について……46
平生　舜一
　作品：丸善石油肥後橋給油所・他……14
　論說：無窓人工環境の事務所建築の可能性……50
長谷川元郎・吉田隆一
　作品：N社甲子園寮・他……16
　感想：感ありとせば・他……16
松村　慶三
　作品：倉敷レイヨン西条病院……18
　感想：四つの斷想……48
稻葉　歳明
　作品：羽衣展示住宅・芦屋Y氏邸……20
　說明：住宅二題……28
片山　光生
　作品：関西勞災病院……22
　說明：関西勞災病院に関係して……24
宮武　保義
　作品：ロビテル(熱海病院ホテル計画案)……29
　說明：ロビテルに就いて……29
小林　章
　論說：新しい世代の爲に……36
小林　盛太
　論說：新現実主義への試み(序論)……40
近藤　正志
　感想：懷疑……44
太田傳一郎……54
紫煙室
　法隆寺鴟尾問題と建築家の自覺……小山　連一……55
会報……57



会　　告

会員募集について

会勢委員会に於ては講演会，見学会等を催し，会員相互の親睦を計ると共に，その向上に平素努めて居りますが，一面皆様と共に会勢の発展を期したい念願であります。又新版会員名簿を発行するに伴い会員の倍加運動に着手しております。就きましては此際会員各位に新入会者を1名以上（新名簿発行原稿〆切7月20日迄）是非御紹介下さる様御協力御援助御願いいたします。

追而　会費は下記の通りでありますが，此の期間中（7月20日迄）は特に入会金を免除いたしております。又，ハガキにて入会申込のかたは**本号に挿入の郵税先払ハガキを**御利用下さい。

個人会費　　年額　1,200円（分割払可）
但し本部，支部に属しない地方個人会費は　年額　960円（分割払可）
准会員　　年額　720円（分割払可）
団体会費　　1口年額　2,000円（　〃　）可成2口以上希望

申込所　日本建築協会　大阪市北区中之島朝日ビル　電話北浜1334—9　振替大阪39975番
天神橋分室　大阪市東区天神橋詰　電話東861—6

日本建築協会表彰の件

5月3日憲法記念日に際し大阪府赤間知事より下記の通り表彰を受けた。

表　彰　状

社団法人　日本建築協会

建築行政に協力しその功績多大である。よつてこれを表彰する。

昭和29年5月3日　　大阪府知事　赤間文三

29年度役員当選に関する件

3月29日評議員会において会長，副会長並びに理事の選挙を執行いたしました結果，下記の通り夫々当選されました。（大林副会長外理事半数は留任）

会長　竹腰健造氏　　**副会長**　伊東五郎氏
監事　田辺信氏　中沢誠一郎氏
理事（50音順）
浅沼猪之吉氏　尾崎久助氏　栗原信虎氏　鴻池藤一氏
佐藤太氏　須賀豊治郎氏　東畑謙三氏　松村雄吉氏
浦辺鎭太郎氏　小早川美武氏　佐村木実氏　竹内成夫氏
波江貞夫氏　（以上）

理事会務分掌の件

理事の会務分掌につき下記の通り夫々互選されました。

主記　尾崎久助氏　中野順次郎氏　竹内成夫氏　竹中錬一氏
鴻池藤一氏　銭高輝之氏　浅沼猪之吉氏　佐藤太氏
尾亀清四郎氏　上西圭治氏　青木友一氏　山内嘉兵衛氏
主計　東畑謙三氏　岩崎甚太郎氏　松村雄吉氏　藤木正一氏
浅海治平氏　伴秀雄氏　佐村木実氏
編集　越田正勝氏　小泉昇氏　浦辺鎭太郎氏　波江貞夫氏
小栗賛吾氏　栗原信虎氏　須賀豊治郎氏　小早川美武氏

会　　告

ワルター・グロピウス博士講演会

国際文化会館の知的交流事業としての招きに応じられて，５月下旬既に来日され各方面で講演会が開催されております。そこで大阪においては，学会支部，協会，士会，朝日新聞社，国際文化会館の五団体共催の下に講演会を下記の通り開催いたします。

日　　時	６月22日（火）午後５時開場，開会５時半　終了　午後８時
会　　場	大阪ガスビル講演場
開会挨拶	国際文化会館　理事　ボールス
紹介講演	大阪市大教授　滝　沢　真　弓
講　　演	ワルター・グロピウス博士
演　　題	「社会生活と現代建築」（スライド使用）
閉会挨拶	学会近畿支部長　棚　橋　諒
会　　費	（入　場　無　料）

大阪第二船場電話局見学会

大阪のビジネスセンター堺筋の一角にその偉容を誇る標記電話局の見学会を株式会社大林組殿の御斡旋により下記の通り催します。奮つて御申込み下さい。

1. 日　　時　　**６月26日（土）午後１時（時間厳守）晴雨不論**
1. 集会場所　　**大阪第二船場電話局正面玄関附近**
（市内東区博労町２―50，但市電南久宝寺停留所，堺筋西側）
1. 会　　費　　**￥30.00**
1. 申込締切　　６月24日迄，但予定人員に達した時は先着締切ります。
1. 建物概記

設計監理　日本電信電話公社建築部
施　　工　株式会社　大　林　組
起　工　昭和27年３月　　竣　工　昭和28年９月　　開　局　昭和29年４月

規　　模　地下１階，地上６階，外に屋階２ヶ所，鉄骨鉄筋コンクリート造，東南面，西面１階分２丁掛タイル張，その他リシン仕上，南面窓上硝子ブロック貼り
地階１階 632.70坪（局内マンホール，受電，温調装置室）
１階 613坪（試験室，電力室，電池室）　**２階** 442坪（機械室）　**３階** 442坪（機械室）
４階 442坪（機械室）　**５階** 442坪（機械室）　**６階** 442坪（事務室）　**屋階** 22.30坪，総延坪 3,478坪

特　　徴　この大阪第二船場電話局は，加入者が密集し，電話需要が急増する地域で局舎に数局分（数万回線）の加入者収容設備を設け，電力装置や本配線盤等を共通に使用する方式（マルチユニット方式）を採り，東洋一を誇る規模と高性能の全自動制御式温湿度調整装置が設備され，年中室内は恒温，湿度に保たれている。

日本建築協会会勢委員長　藤　木　正　一

建設資料便覧頒布

予て発売中の上記1954年版便覧は本会35年記念事業特別出版のものであるが建設業者のカタログをかねた便利な参考図書として大方の好評を博している，尚若干の残本あり此際売切れぬ内建築関係者の座右にされんことを望んでいる。　**￥600.―送料実費**

会　　告

会員名簿発行予告

名簿の調整発行は多数会員を容する団体としては容易ならぬ難事業とされていますが，本会としては斯界の発展と共に会員各位の活躍移動も多々あり，加うるに新会員の数も漸次増加していますので，今般1955年版新名簿を本年度内に発行する事とし，着々と進捗いたしております。此度は一般の要望に応えて会員名簿の正確詳記を期するは勿論建設業に関連する各面に亘る案内欄をも多数に取入れ各位の用途に便ずる事と致しました。

調整内容は概ね下記の要項で発行は今年11月末日を期しております。

尚，お各会とも名簿は殆んど有料配布ですが，本会は万難を排して全会員に無料配布する計画であります。

就いては**本号挿入会員調査票の私製ハガキ（郵料受取人払）に所定事項御記入の上，折返し御送附下さい。**尚，此際新会員獲得に御援助下さいまして本会会勢発展に御協力下さる様切望します。

尚，業者案内欄の申込にも格別の御協力と御支援を御願い致します。

1955年（昭和30年版 日本建築協会会員名簿発行計画

大きさ体裁等　A5版，但し6号又は9ポ，版横組，用紙更上紙，約260頁。
発行部数　4000部<5000部予定。

編集内容　目次，凡例，定款，名誉顧問，役員，部会委員会，事務局，本文（正会員，団体会員，准会員）氏名，出身校，勤務先，職名，住所）官公庁，学校，団体，建築事務所，各業者案内，特別広告。

領布方法　全会員，広告主に一部限り無料配布。

発行期日　昭和30年11月末日の予定。

建築事務所、業者案内概要と掲載料金並一般広告料金

1. **建築事務所案内**　**1頁14欄（組見本参照）　1欄　800円**
2. **業者案内，綜合，電気，管工，建材其他の案内**　**1頁　12欄（組見本参照）　1欄　1000円**
   案内欄原稿は文字のみとし，マーク外写真凸版はお断り申上げます。一商社1欄を原則とするも支店，出張所，取扱品等詳記を御希望の向は3欄まで申込受けます。
3. **特別広告**　（建築材料の業）**1頁全段　15,000円**
   1頁広告は編集の都合上頁に制限がありますから多数の場合は先約順決定と致します。
4. **申込締切**　昭和29年7月末日
5. **建築事務所，業者案内及広告料金**　申込と同時に払込を願います。
6. **建築事務所，業者案内組見本**

〔建築事務所案内〕

店　名	所　在　地	電　話
東洋建築事務所	本　店　大阪市中之島朝日ビル 支　店　東京・名古屋・博多	北浜 {1045 4372

〔業者，綜合，電気，管工，建材其他業者案内〕

店　名	営業科目	所　在　地	電　話
朝日建材株式会社	スレート，瓦，防水工事，衛生，暖房，責任施行	本店　大阪市東区 支店　{神戸市生田町東町1丁目5	北浜 3151—2 元町　123—1

申込先　日本建築協会　大阪市北区中之島朝日ビル
電話北浜1334—9　振替大阪39975番
同上天神橋分室名簿発行係行　大阪市東区天神橋詰　電話東865番

社団法人　日本建築協会

昭和28年度建材優良証明発行一覧表

（●印は証明発行月日　☆印は「建築と社会」掲載輯・号
尚本証明書の有効期限は発行日より１ヶ年である。）

品名　キルコート（殺虫塗料）　製造社名　朝日産業株式会社
大阪市東区北久太郎町2—17　電話　船場（25）3998　●28・7・7　☆34・7

品名　東洋波形スレート　製造社名　東洋スレート株式会社
大阪市城東区放出町620　電話　城東（33）2072　●28・7・7　☆34・7

品名　門田緩止式ボールトナツト　製造社名　株式会社門田製作所
大阪市住吉区御崎町1—173　電話　住吉（67）4622　●28・7・7　☆34・7

品名　ホモゲンホルツ（人造木材）　製造社名　日興産業株式会社
東京都中央区晴海町2—1　電話　深川（74）1668—9　●28・8・13　☆34・10—11

品名　タクミ瓦（防風構造）　製造社名　立工産業株式会社
大阪市北区中之島2—61（近藤ビル）　電話　北浜（25）1740　●28・11・13　☆34・12

品名　金属タイル板　製造社名　株式会社佐渡島英祿商店
大阪市南区末吉橋通4　電話　船場（25）0855—9　●28・11・13　☆35・2

品名　ニュースタンダードメタル　製造社名　大島応用化学工業株式会社
大阪市城東区野江東之町4　電話　城東（33）4481　●28・12・10　☆35・3

品名　浅野網代板　製造社名　浅野スレート株式会社
支店　大阪市北区芝田町35　電話　福島（45）4674—6　●28・12・10　☆35・4

品名　浅野大波板　製造社名　浅野スレート株式会社
支店　大阪市北区芝田町35　電話　福島（46）4674—6　●28・12・10　☆35・4

品名　浅野小波板　製造社名　浅野スレート株式会社
支店　大阪市北区芝田町35　電話　福島（45）4674—6　●28・12・10　☆35・4

品名　日本スタツコ（壁材）　製造社名　日本スタツコ株式会社
滋賀県甲賀都石部町2476　電話　石部　65　●29・2・26　☆35・5

既往優良証明発行したものの内再審査受理し、有効期間延長を認め再発行したもの下記の通り。

品名　タイネン２号（防火塗料）　製造社名　関西ペイント株式会社
大阪市東区伏見町5—27　電話　北浜（23）8801—6　●28・7・7　☆34・8

品名　ナニワS瓦　製造社名　ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区元町1—742　電話　戎（64）5065　●28・7・7　☆34・8

品名　三星印石綿ルーフイング　製造社名　田島応用化工株式会社
出張所　大阪市西区京町堀上通1—14　電話土佐堀（44）0809-10　●28・7・7　☆34・8

品名　三星印アスファルトタイル　製造社名　田島応用化工株式会社
出張所　大阪市西区京町堀上通1—14　電話土佐堀（44）0809-10　●28・7・7　☆34・8

品名　サンウオール（琺瑯化粧板）　製造社名　サンエナメル工業株式会社
大阪市北区宗是町（大ビル）　電話土佐堀（44）1115

建設資材の審査について

本会内に建材審査委員会を設け建設に関係ある新旧資材審査を行つている。
之は建材の品質につき其良否を審査し需用者側の安心感を得ると共に斯界の向上発達を期せんとするものである。審査の結果優良と認めるものには会誌で報告する外設計施工面の主たる関係先に紹介している。
建材業者の受審申越を熱望すると共に会員各位並に大方の御支援により本委員会を利用される様御協力をお願申上げる。

青年建築家特集号に寄せて

編集委員長（28年度）中　村　　綱

青年は夢を持ち，若さを持ち，希望を持ち，純真性を持つている。しかし社会は青年のこの夢を実現させ若さを受入れ，希望をかなえ，純真性を育ててくれるであろうか。とくに建築界においてどうであろうか。多くの若き建築家は虹のような夢を持つけれど，現実は無残にもこれを踏みにじる。若き建築家はよいデザインを，すばらしい着想を，奇抜なセンスを抱くけれど、既成建築家であり，先輩であり，指導者であるかれらの雇主はこれを一片の空想と片づけてしまう。建築界のよりよき発展のためのあらゆる希望も打ちくだかれかれらの純真性は次第に濁りゆき，遂に生活に追われ，金儲けに汲々とする一介の社会人建築家となつてしまうおそれが多いのである。

青年は未完成であり，発展中途のものである。しかしそのアイディアやインスピレイションや創造は必ずしも未熟として退けるべきではない。時には素晴らしい要素や芽生を含んでいる。一般既成建築家はこれら青年のすばらしい要素や芽生をつみとることなくかえつて育てはぐくまねばならぬ。そうしてこそ建築界に青春の気をみなぎらせ，生気を与えるものである。

一方建築家の職場をみるとき，この社会にみなぎる封建制は若人の発育をさまたげている。たとえ青年建築家がよきデザインをものしたとしても，その骨子は使用主の作品として発表され，いつまでも下積みのまま埋れてしまう。

「建築と社会」は本特集号により，若い建築家を下積みでなく，ひかに社会に押出そうとするものである

本号に紹介された青年建築家は優秀な技術や感覚を持つているのであつて，未完成といわれる青年の作品につき御注目あらんことを祈る。またこのように青年建築家を推薦された既成建築家は青年に対して理解と同情をもつ尊敬すべき人々である。

本特集号が建築界に幾分でも生気を与え得れば，幸いこれに過ぎるものはないと思うものである。

青年建築家への挨拶

29年度編集委員長　浦　辺　鎮　太　郎

皆様はそれぞれのグループから第一回に青年建築家として選ばれた人でありまして，その優れた素質ならびに制作に対して深く敬意を表します。同時に皆様の周囲の凡ての青年建築家にも協会から御挨拶致したいと思います。

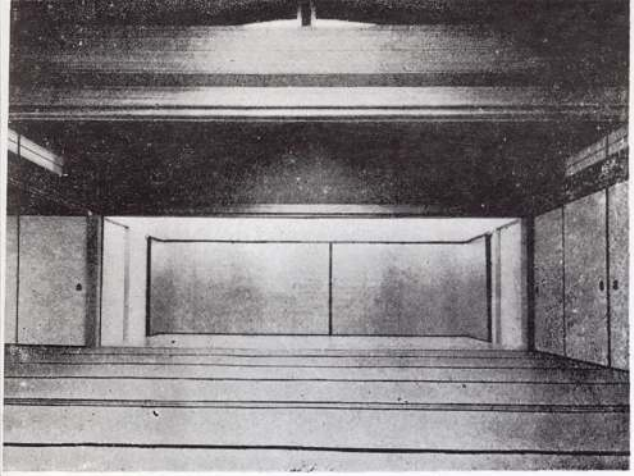
先日車中で坪井教授に東京には老大家が少くなつた事、大阪には老大家が健在であることの現象に就いて語りました。関西ではそれだけ青年建築家がいわゆる「下積み」になることもありませう。しかしながら建築家としては「下積み」に押さえつけられるのも苦しく「上積み」でさらされるのも苦しい次第だと思います。老大家といえども青年建築家としての下積み時代があつた事は確実でありますし，また皆様もいつか老大家と呼ばれる日が無いとは誰しも断言できません。協会は今迄三十五年の間にこのような事実を見て参つたのであります。

私も中年に達した心境として若い世代と古い世代とが交流すれば建築の歴史的発展と建築家の人間的成長とが可能となるのではないかと思うようになりました。私どもはその交流の橋となりたい事を願うのであります。そして賑やかに語つたり，しんみりと反省させられたりする同業の Human Relation（人間関係）の間にこの機関誌の使命をも遂行したいと考えております。旭丘中学事件ははなはだ例のすくないものの一つでありましようが，あのようなヒステリックな対立は共に人間性を傷つけるものだと考えます。

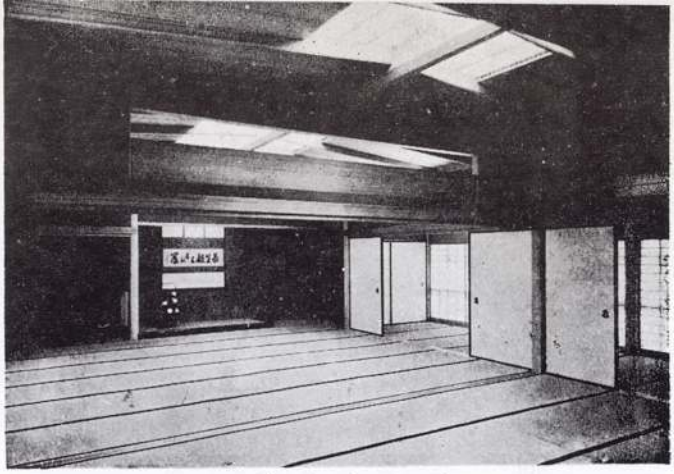
私はまた本特集号を企劃し実現された前編集委員長ならびに委員諸兄に最大の敬意と謝辞を呈します。この機会に青年建築家同士の交流がおこなわれます事を期待致しますと共に，また世代を超えた流れも一層盛大となるように努力致したいと存じます。

協会はたとへて見ますれば，一つのスキ焼鍋のような存在だと思います。我々は牛肉と野菜とを一つの鍋で煮るという独特の料理法に創意を感じます。それは二つの異質の材料の間に交流がおこなはれるからだと思います。そのような交流を起させてうまい味にするためには火加減が大切で火力がなくなればスキ焼もまた終りというものです。

青年建築家の皆様の御発展を心より御祈り致しますと共に，また協会のために今後共御協力戴けます事をお願い申上げたく存じます。（1954年5月）



1. 階上大広間　舞台
襖は片側に引込む，背後の屏風は臨時に取付けたもの



2. 階上大広間
天井赤杉合板

祇園「富美代」



富家宏泰

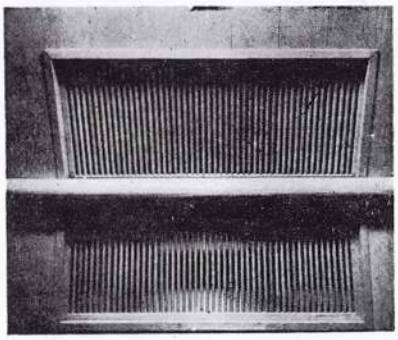
略歴：

昭和19年京都大学工学部建築学科卒業後，大学院に学び，棚橋諒先生，森田慶一先生，西山卯三先生から設計，構造，施工法等の主として建築の実施面について御指導をうけ，昭和27年まで京大講師を勤めました。27年10月，独立して京都に設計事務所を創立，現在に至りました。大学在職中から，二科会工芸部会員初瀬川松太郎氏について，和家具，数寄屋，茶屋等の勉強をしています。

すいせんのことば

和風建築の造型に新境地を開きつつある努力をみとめる。　（建築論懇談会・京都）

5．浴室
天井湯気抜き，強制換気



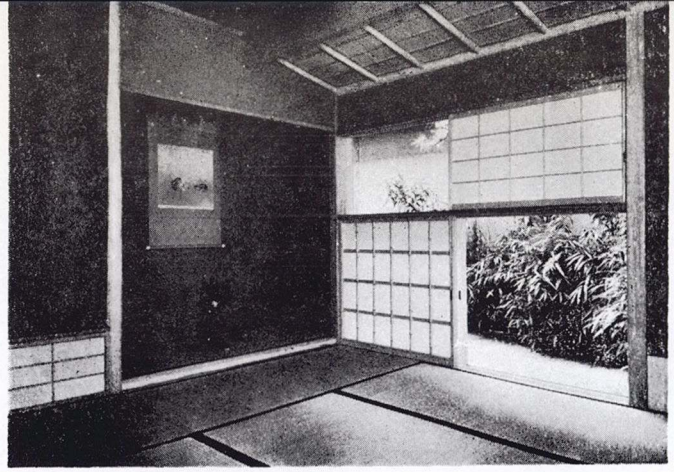
感想

旅館「大文字家」も，祇園の「富美代」も共に京都の古い家柄の店で，在来の部分はいづれも，京都風のすぐれた建物で，軽々しく改造設計を引受けられない程立派なものでした。時代の要求に迫られて両家とも店の使い勝手が変り，一部を増改築することになつたのですが，新築の場合より一入設計に苦労しました。現在未消化なままのモダン数寄屋が，料亭，旅館等に多数見うけられますが，これらの京都の古い家は，もつと厳しい，美くしい伝統の調和を部屋々々に止めて居り，それ等とマッチし乍ら新らしい用途に適したデザインを考えなければならないので，設計の主眼を在来の真壁構造の柱と壁と内法との厳しい調和に置いて考えました。

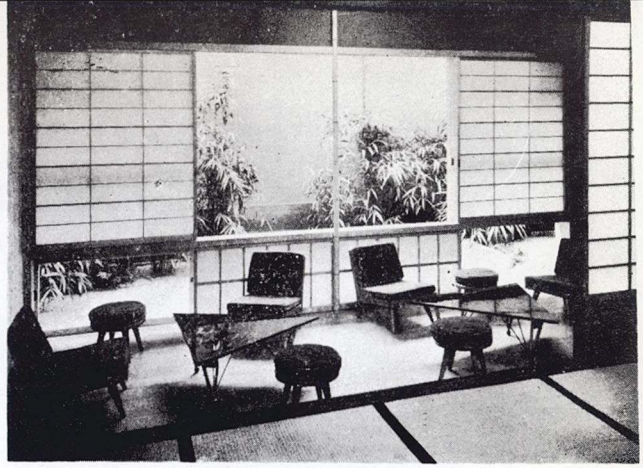
幸い京都には桂離宮をはじめ，すぐれた木造建築が数多く残つて居り，直線と面とが構成する美くしさには，しばしば驚嘆させられます。有名な何々席と言う茶室の中によりも，むしろ，名もない民家の様なものに，そんな調和を発見することがよくあります。私はまだまだまつすぐに，いわゆるモダン数寄屋に飛び込んで行けない古さを持つて居るのでしようか。

富家宏泰の作品

すいせん者：京都建築論懇談会

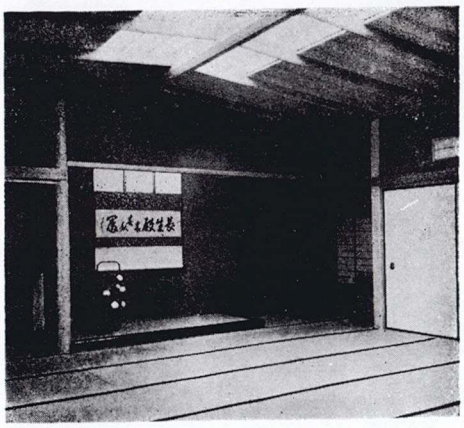


3. 階下客室八帖
左手小障子は冷暖房吹出口，冬はいろりを切る。



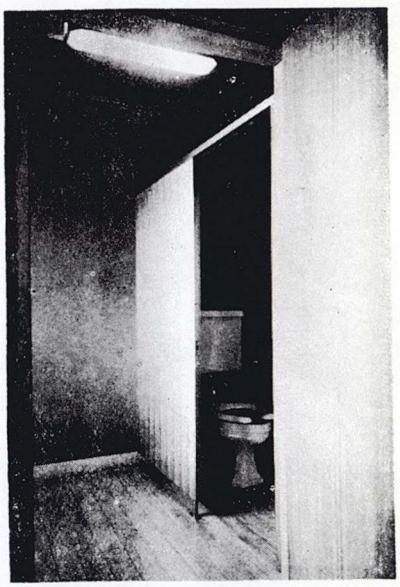
4. 階下待合室

祇園「富美代」



6. 階上大広間　書院地袋吹出口，天井グルリ吸込口，天井棟木赤杉合板

7. 階上広間
附属便所
赤杉両面フラッシュ間仕切



祇園「富美代」

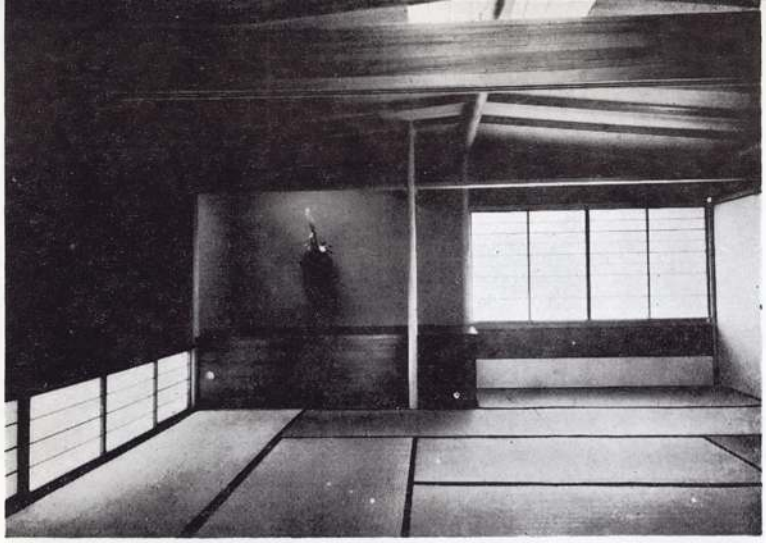
祇園一二を誇るお茶屋の奥二階広間の増改築。木造建築物で500m²を越えるため，渡り廊下部分を鉄筋コンクリート造とし，此処に階段室，便所，浴室等を設けた。女将の熱望により階下広間は在来のまま保存させたため，二階拡張は大変な困難をともなつた。

ダクトシステムによる冷暖房を全室に施こし，空気調整をはかつたため，開口部外部にはめ殺しガラスを入れた部分が多い。天井灯面グリルにスリットを設け吸込口とし，書院横等見え隠れヶ所に吹出口を設けた。

舞台廻り備州檜フラッシュ使用，舞台点燈と同時に客席の電圧を落して，舞踊の舞台効果をねらつたが之はある程度成功した。

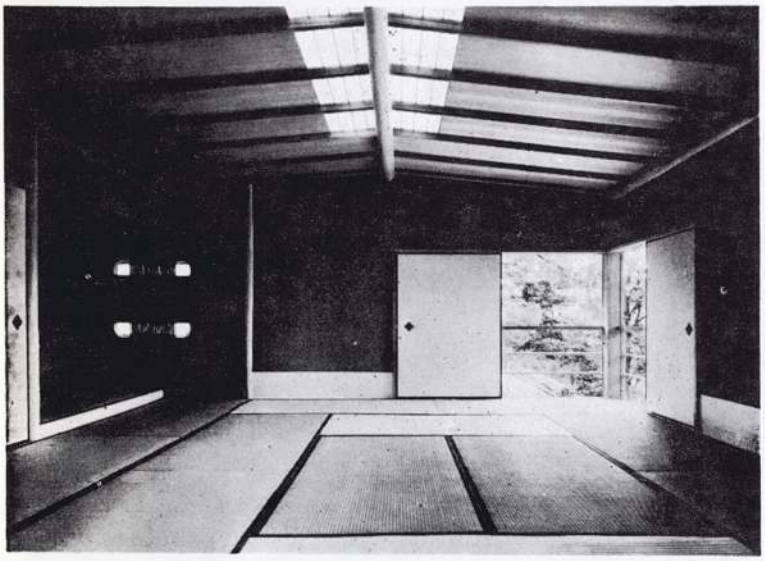
柱材栂，内法，長押，赤松使用，天井赤松フラッシュ天井灯は白熱普通電球を使用した。

両者とも，いわゆる数寄屋建築に見られる坪当り十数万円と言われる建築費をさけ，用材の使用，工法に特に留意し，合板を適所に使用する等コストの節約に努めたが，藤井組，竹中工務店の熱心な御協力により，其の目的を達したことを附記して，紙上をかりて謝意を表したい。



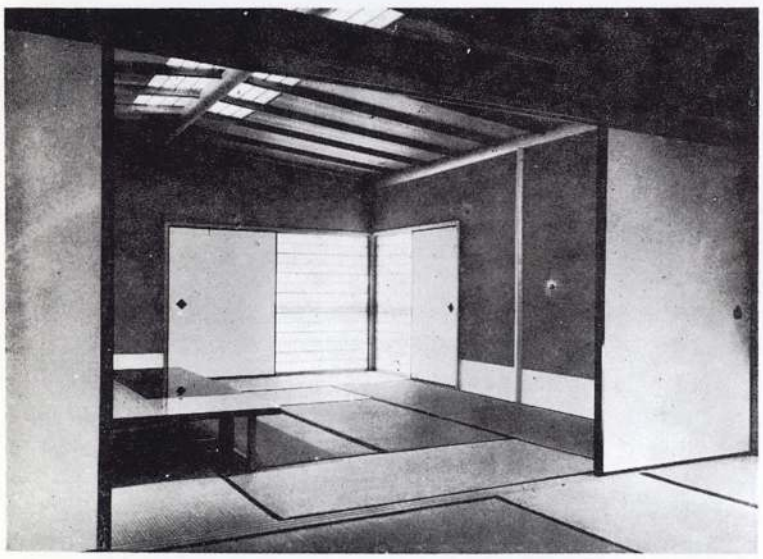
旅館「大文字家」

旅館の奥二階の一部改造工事，小宴会用の広間，便所を，小部屋との間にはさんで，此の部分に防音装置を設け，水洗便所の音ばかりでなく，宴会の騒音から，小部屋の宿泊客を隔離した。外廻りの内法寸法は天井高の関係から5尺におさえ，主として夜間使用するため，壁面を多くして，朝日，夕日を適当に遮蔽した。天井，赤杉フラッシュ，柱，廻縁北山丸太，内法材，赤杉。



↖階上主客室次の間

文人床床脇に電話，小椅子を収納

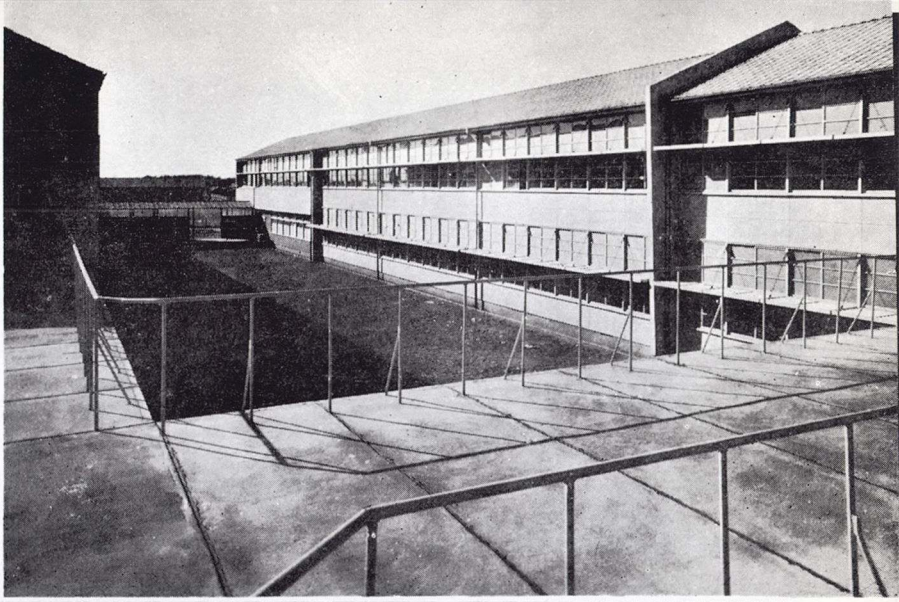


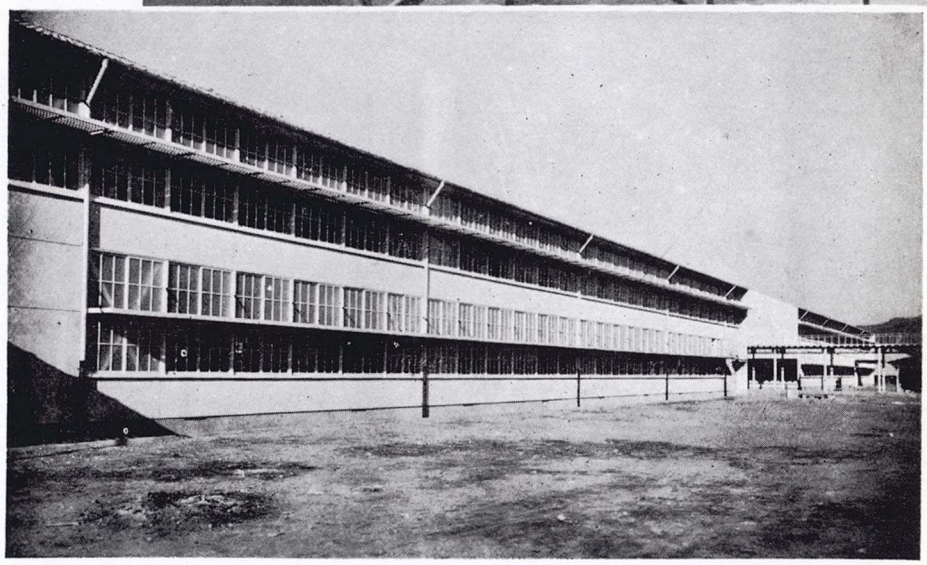
←階上主客室

隅開口部内法五尺，天井・螢光灯照明

←主　客　室

隅開口部，襖障子，ガラス障子，三枚建





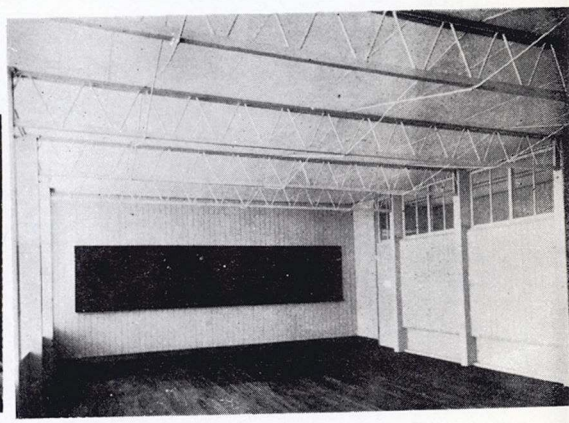
岐阜県立岐阜高等学校

坂田美郎略歴： 大正13年岐阜市にて出生
昭和13年京大建築科卒
現在岐阜県土木部建築課勤務

すいせんの ことば

公共建築のディザイナーとして，所与の条件の中で，堅実且つ意慾的な制作を一歩一歩きづきあげている。





すいせん者： 京大建築研究会

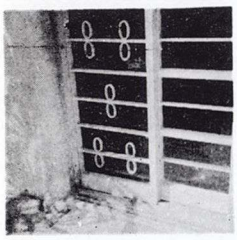
坂田美郎の作品



今 西 茂 雄

略 歴

昭和7年都島工業建築科卒
上野伊三郎事務所
あめりか屋
昭和26年事務所開設



建 築 開 眼

・開 眼・

私の建築開眼への二つの言葉それは，上野伊三郎氏の「建築の機能を充分発揮する計劃のもとに飾り気なく澄み切つた気持でその形をとり扱へ」と又，谷口吉郎氏の「斯る試みに対して徒らな学究的遊戯として一笑に附する軽卒な徒輩があるとしたら彼等こそ無為を最善とする俗物的哲学を奉信する安逸者なり」と，以上の言葉は私の設計生活の支柱として私をはげまし勇気付けてくれる。

・設 計・

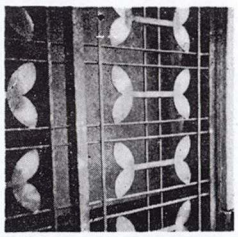
設計業務の第一歩をふみ出した私の仕事は設計そのものより設計という仕事の内容を理解さす仕事といつた方が適切かも知れない。よい設計の出来たときはその図面を手伝すのが惜しく，その時の決つた報酬を受取つても当然と思つたり，もつともらつてもよかつたと考える。その反面うまく出来なかつた時はいくらでもよいおまかせ致しますといつた気持になつてしまう。

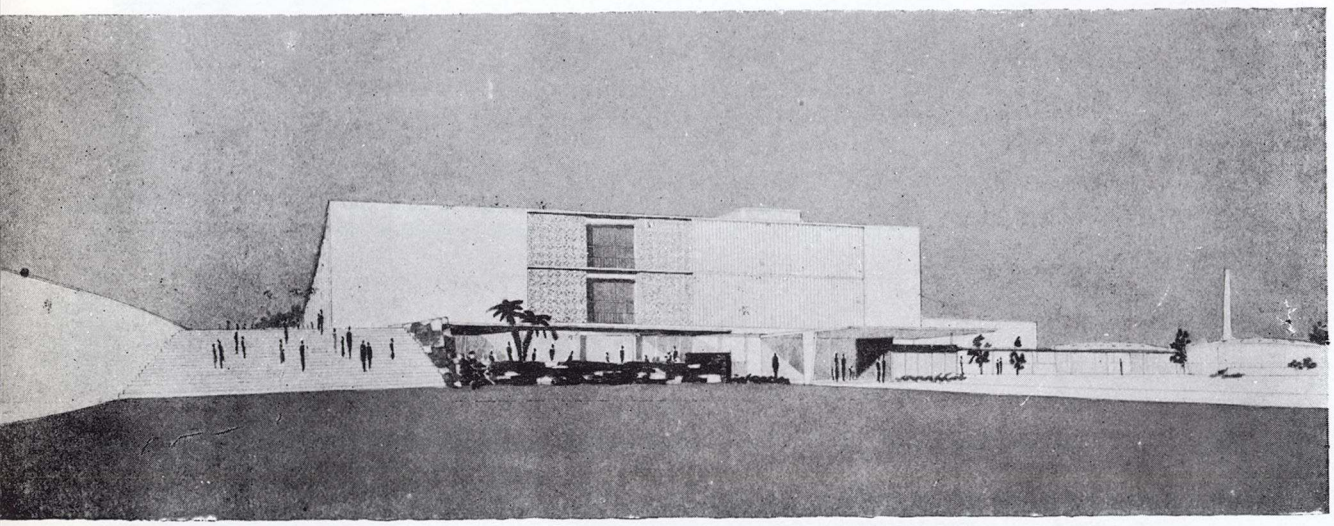
・監 督・

元来人を監督する柄ではなし自分の画いた図面を工人に説明をし指導するだけである。監督を必要とする現場は御免である。住宅等小工事に於てその土地の工人を使用せねばならぬ時は実に弱つてしまう。1. 教えて，1. 出来ない，又やり直すこういう目に会つて始めて永年つき合つた施工者の有難味がつくづくわかつてくるものである。



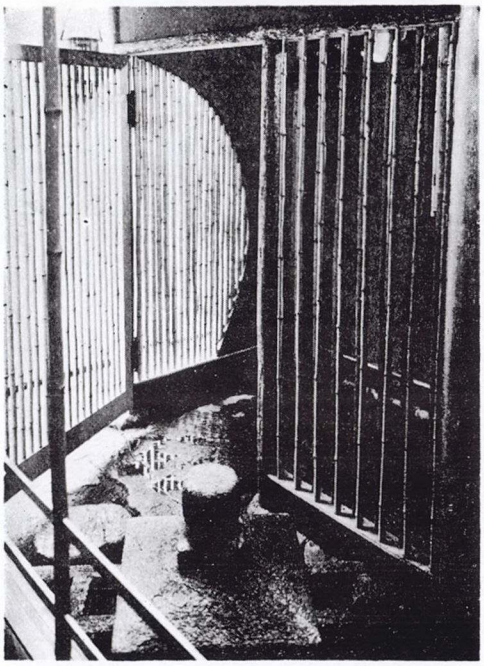
K邸　グリル　メタリコンペンキ仕上げ





尼崎文化会館計画案

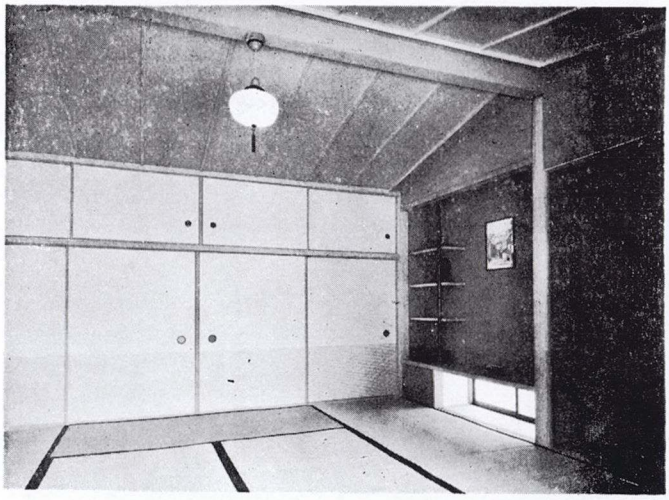
尼崎文化会館設計について：　設計条件の中に市庁舎の予定地を空けておくことと，建築予算8000万で1800名収容の二条件は一応設計者をなやますものであつた。後者は到底不可能な数字であり今後幾度かの協議を重ねることであるが，収容数を可及的に減らし尚且つ建築の型態をシンプルなものにして行きたいと思つている。
市庁舎の想定は予め決めておきたいのであるが当局は一応無視して設計せよとのことでこれは設計者にとつては非常にスッキリしない事で増築の決つている住宅をみすみすそのまま施工してしまう様でまことに心残りのことである。今後3カ月の間に実施設計を完成するのであるが共同設計の一つのテストケースとしてNAU大阪支部の会員が協働する事となつている。大方の御叱正をお願い致します。
尚この計画案は若きデザイナー日野幸郎君の力に依つたものである。
追記：　その後，予算の関係で実施案の形態は相当かわる見込である。



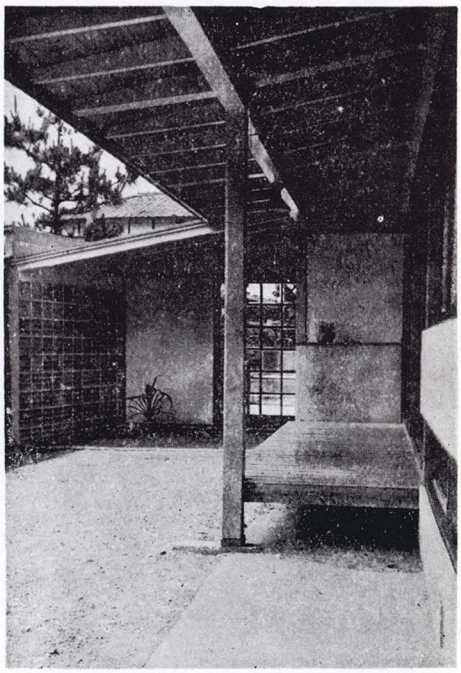
千草グリル入口
柱及び鴨居アテ丸太　　格子・白竹
壁・色モルタルカキオトシ



千草グリル露路
待合柱・杉ミガキ及びサルスベリ
天井ガマ

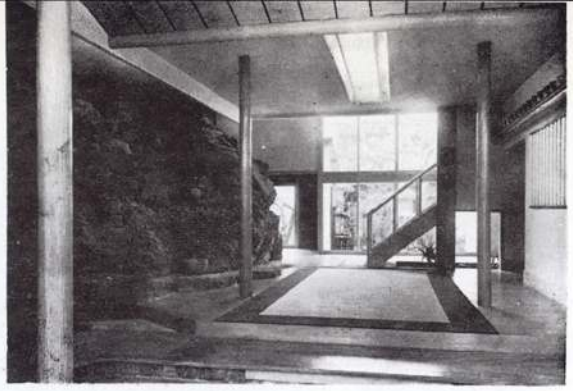


実験住宅1号
八帖座敷，　柱面皮，　床柱ミガキ
天井・テックス，　壁のり土



実験住宅10号
ポーチ及びベランダ　野地檜椽甲板ステインぬり
タルキ・ペンキぬり・壁・白セメントカキオトシ





白浜温泉《古賀の井》旅館



三田（サンダ）一男

現　在：三田建築設計事務所経営

略　歴：大正3年9月大阪に生れ幼年は田舎育ちで学生生活は神戸で送る。昭和10年神戸高工建築科卒業。置塩建築事務所に8年余勤務後自営。戦災応召にて中断しばらく富島組勤務再び自営今日に至る。

すいせんのことば

（主なる作品等）

・小論文『和風建築と邦楽』（新住宅誌26年10月号）面白い点を突こうとしかけているのだが少し不足気味。読者層を意識したりしたものか？

・日海ビルデング（27年，約280坪，鉄筋コンクリート3階建，神戸市栄町通り5丁目）小ビルでレンタブル比率83%は経済性が高い。前面のピロテイは自然だが柱がもう少し太い方が良くはなかつたか？

・兵庫県多紀郡北河内小学校校舎及講堂（28年，延470坪）木造2階床梁組に対する新しい提案。4間×5間の教室中央桁行方右に鉄骨梁をかける張間方右は2間の単梁を1間間にかける。普通木造床組と較べて一教室当り約4万円前後工費が節減出来る。方杖が全然室内に露出せず建方は相当量軽減される。木造大梁の入手困難になる傾向の時此の床組方法は注目すべき提案と思われる。他に桁行方向の階段及びバルコン等経済性に立脚したデザイン傾向である。

・京都アリーナ・スケート場（28年秋，京都市岡崎公園勧業館屋上え増築及改築延1300坪余）技術的な制約が余りにも多い。改築の取込みの扱い等に要領の良い点がある。

・新日本カレンダーKK社屋（28年，約100坪，大阪市東区）写真参照。

・白浜温泉〃古賀の井〃旅館—玄関棟増築（29年新住宅誌4月号発表）近代感覚の和風スタイルに対してその詩想を茶風なものにのみよらず町家風なものに求めて意匠的な巾を広げ様と努力している面があるようだ。又建築造形のコムマーシヤルな風俗論的な見方からチエックして出発しようとしている様でもある。現在設計にかかつている鉄筋コンクリート造客室増築案（今年末竣工予定）が彼としては踊場の上の作品となることだろう。

・城崎，日和山公園金波楼増築（29年，鉄筋及木造延260坪余）館主の意向が強くて抗しきれず妥協点の多い作品となつた様だ。





京都アリーナスケート場

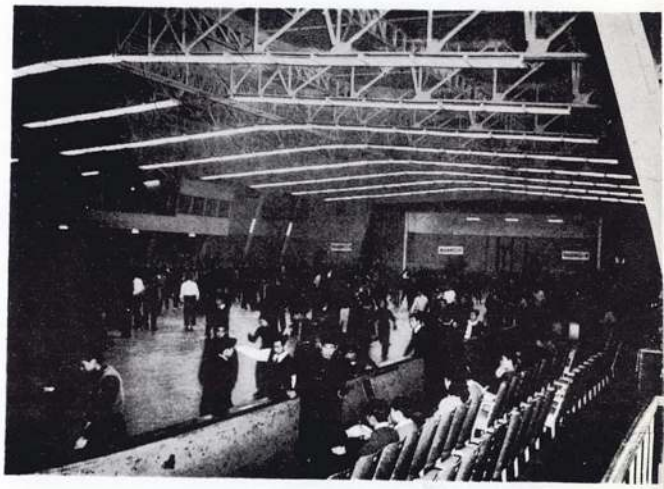
・神戸トルコ温泉の喫茶店（29年，木造延180坪，神戸市生田区）材料撰定及色彩等施主側で勝手にしたらしく壁画未完で，こう云つた気の弱さは彼の為に好ましくない事と思う。勿論それは苦しい事ではあるが——。

・須磨信用金庫社屋（29年，鉄筋コンクリート造3階建約100坪，　神戸市元町駅北側）仲々地味な作品の様だ。

・華道会館コンティシヨン入選2等1席（於神戸市，27年）

・広島平和記念公園落選案

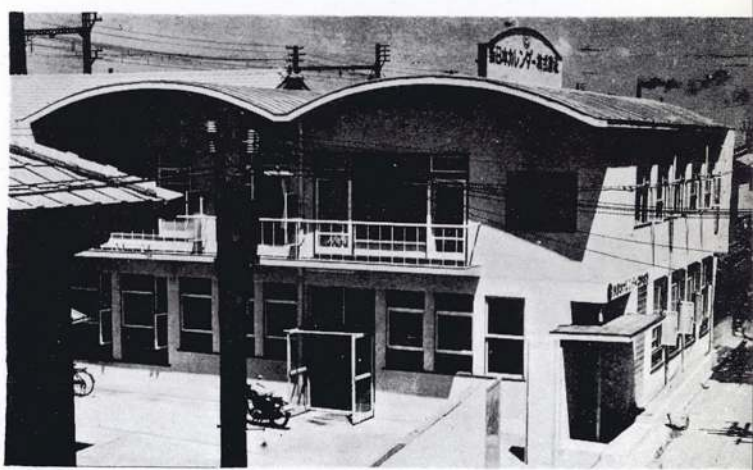
1等入選の丹下氏案とよく似た行き方で造園計画と中央のテーマの扱いが風変りなもので，特にテーマは一般知識人に公開したとすれば面白い批評を得られたものだつたと思う。



（作家論的な短評）

彼の言によれば『造形的にはピカソとも云うべき村野氏に最も抵抗を感じる。和風築建では吉田氏の業績を通り越して其の中を広げるべき時代に入つている——』と云う事らしいが一造形プロパーの問題を理念的にクソ真面目に突込もうとする処がある様だ。家業であつた証券業を手伝いつつ成人したことの影響が長短共にあり，エコノミカルなものに対する理解力は技術屋離れのした一面がある。又『花森安治が建築家の中から出なかつた』と云つて残念がつたり情感的に徳川時代の商家にひかれたりする性向になつているのかもしれない。未完成の彼が今後どう生長して行くかと云う事は興味あることだ。此処で彼の為に『機能は広義の経済性と云う見方の中に含まれる』と思つているらしい彼の信念を大いに突進めると共に，世界の将来を見つめ徒に現在にのみとらわれることなく彼の意途する近代建築の中に日本の伝統を生かす仕事の中で大いに活躍してもらいたいものだ。（飯田記）

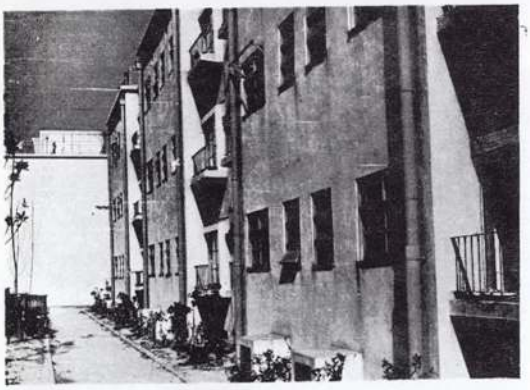
新日本カレンダーKK事務所



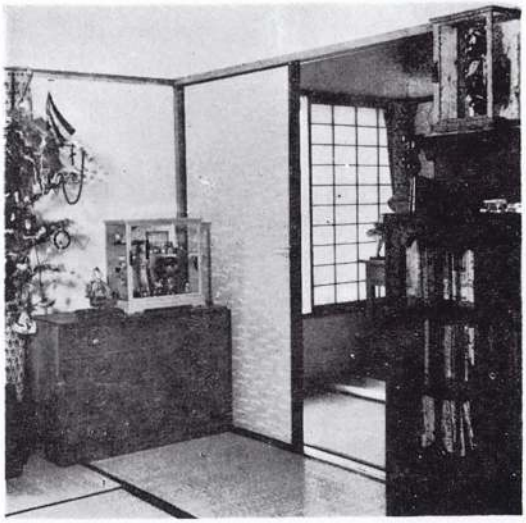
三田一男の作品







·相　生　住　宅·





相生住宅について

建築協会から〃建築と社会〃6月号は主として青年建築家を主題とする計画だから何か作品を載せるように，との話しであるが，日頃不勉強でお見せ出来るものなし又吾々の職場のしくみが分業的になつていて，これが私の作品と云い得ない面もあり大変困つたが兎も角〃相生住宅〃を見ていただこうと思う。尚この住宅の中52—Is型の設計については東畑建築事務所の御協力を得た事を申し添える。

この〃相生住宅〃は住宅金融公庫の融資によつて，大阪市住宅協会が建てたもので，6棟108戸の内4棟72戸は50BN′型（建設省標準設計50—BN型を一部修正したもの），2棟36戸は新設計による52—Is型を採用した。尚協会側の要望により，各棟共3階建の各18戸宛となつている。

敷地は南海上町線の東天下茶屋と北畠の間の西側に位

渡辺禎己外2名　　すいせん者：大阪市建築局



左より 藤森、渡辺、巽

渡辺禎己（ワタナベヨシミ）

1）大正5年2月25日大阪市に生る
2）昭和11年3月神戸高工建築科卒
3）同年4月大阪市役所営繕課に勤務
主に病院・区役所・保育所・市場等市の建築の設計に従事
4）昭和24年10月より住宅課に勤務現在に至る

藤森正之（フジモリマサユキ）

1）大正7年1月3日大阪市に生る
2）昭和16年12月名古屋高工建築科卒
3）昭和17年1月大阪市役所建築課勤務
4）昭和17年10月応召
5）昭和23年9月復員大阪市役所建築局第1建築課に復職市営住宅現場監督を27年より大阪市及び大阪市住宅協会の住宅設計に当る

巽健治（タツミケンジ）

1）大正12年7月14日大阪市に生る
2）昭和23年3月早稲田大学理工学部建築学科卒
3）昭和23年4月東京建物株式会社に入社
4）同退社
5）昭和25年2月大阪市役所建築局住宅課に勤務現在に至る

すいせんのことば　大阪市役所建築局

① 大阪市公営住宅および大阪市住宅協会の賃貸住宅の団地計画および設計の主担技師
② 大阪市建築局内の青年建築技術者の建築思潮の指導者

置し，南側は既設の高級住宅地に接し，北側は少し空地があるが大体庶民住宅が並んでいる。西側のみが道路（相生通）に面して，団地としての入口はこの側に限られ，且東側軌道面より約1.5m. 南側の隣地より約2～4m低く，敷地の東端と西側の相生通側とでは1m以上高低差があるという複雑な土地である。このような住宅敷地としては好しくない条件を如何に克服して，うまく6棟の建物を配置するかが吾々の最も苦心した点であつた。

道路計画に当つては，動線をよく考え，必要な最小限度す整理し，成可く目的地に最短距離で行けるよう心懸けた。即ち相生通を表玄関として敷地を縦にcurveを画いて貫く main-street を設け，各棟の入口がこれに面するようにしたので，全体の配置が明快且変化のあるものとなつた。尚この main に東天下茶屋に通ずる4m道路を取付けて行塞りとなるのを防いだ。

空地は出来る丈集約して広くとり，ここに Tennis-court と半円形の児童遊園を配した。各棟とは放射状の通路で無理なく連絡され，遊戯施設も充分なのでよく利用されている。

従来共同住宅の設計に当つては，個々の機能的な問題等を追求するに急な余り，ややもすれば，生活環境の面を等閑視するむきがあつたが，この住宅では造園，植樹等にも意を用い，住宅団地として，自然に調和した良き環境をつくり出す事に努力した。

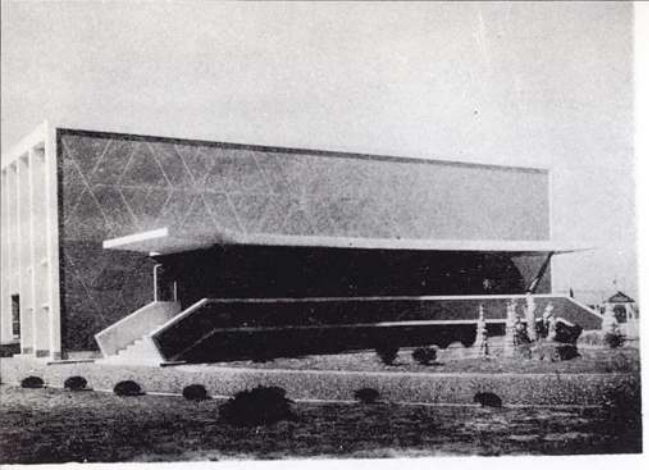
個々の建物の設計については，50—BN′型は衆知の事と思われるので割愛して，52—Is型について述べる。建設費の枠と家賃の限度から面積をおさえられ更に浴室を要求されたので，当初意図した三寝室住居を完全に具現出来ず，多数家族のため畳敷の3帖を設けて，これで就寝の space を広げる事でお茶を濁した。このために寝食の分離が行われず，機能面にいささか混乱を起している点は残念である。厨房は南入口のため北側になつたが在来の住宅に比しやや広くし，余裕を持たせた。又窓の外側に手摺を張り出し，草花の鉢等を置く若干の余地を設けたのは，居住者の生活に多少とも潤いのある様にとの念願からである。

所在地	大阪市阿倍野区相生通一丁目
設計監理	大阪市建築局住宅課
協力	東畑建築事務所
主体及屋外附帯工事施工	kk奥村組　鍵仲建設kk,
電気工事施工	大勢電業k,k
給水衛生工事施工	大和工業k,k
着工	昭和27年10月
竣工	昭和28年5月
構造・階数	鉄筋コンクリート造3階建
棟数及戸数	6棟　108戸
敷地面積	3,075.坪15
建築面積	495.坪744
同延面積	1,487.坪230
外装	防水モルタル刷毛引の上ソリチット・スタイン吹付
屋根	アスファルト防水

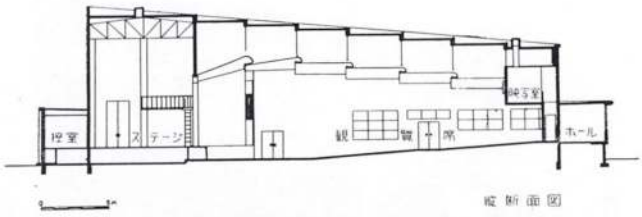
内装（52—IS型）

	床	腰	壁	天井
玄関	モルタル鏝押	漆喰	漆喰	漆喰3階（タイガーボード）張
便所	同上	人造研出	同上	打上
厨房	檜フローリング	同上	同上	プラスター吹付（3階打上）
浴室	モルタル鏝押	同上	モルタル鏝押	モルタル鏝押
居室	タタミ	漆喰	漆喰	漆喰3階（タイガーボード）張
押入	板張	同上	同上	
階段室	モルタル鏝押	モルタル鏝押	白セメント吹付	白セメント吹付

総工費　83,650,000円



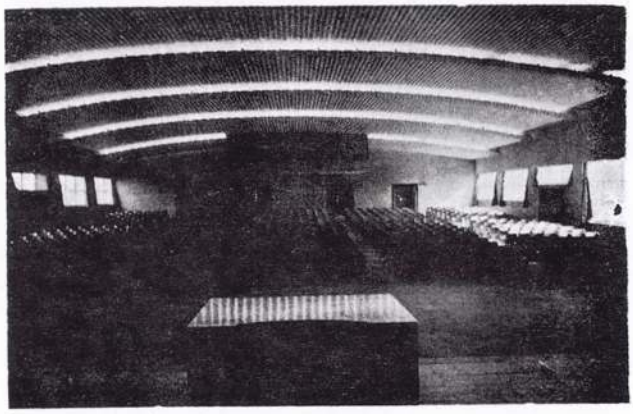
正 面 外 観



縦 断 面 図

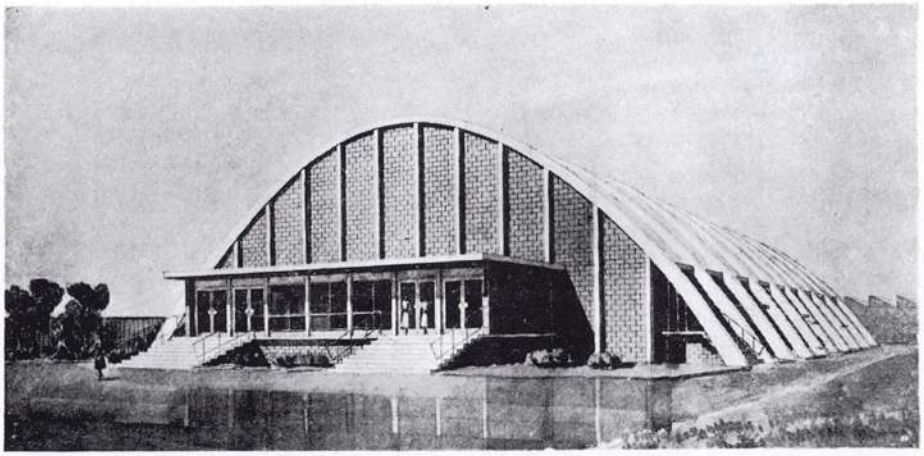


側面外観



室　　内

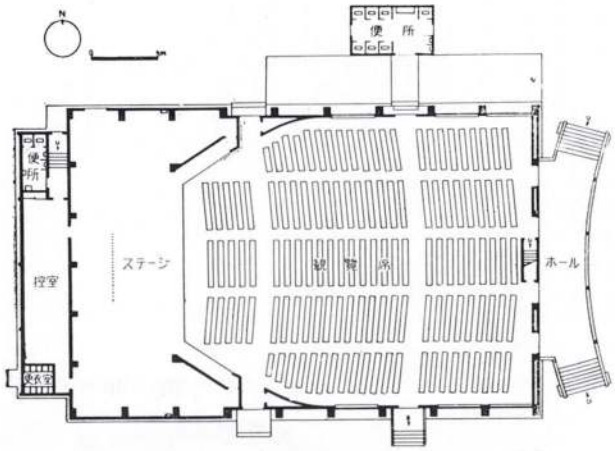
帝国人造絹絲株式会社名古屋工場講堂



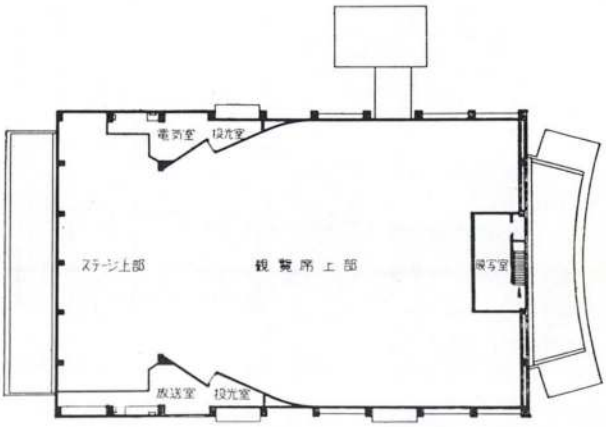
帝国人絹名古屋工場講堂計画案

森下祐良の作品

すいせん者：小田島兵吉



第1階平面図



第2階平面図

帝国人造絹絲株式会社名古屋工場講堂に就いて

本講堂は，昭和28年12月末竣工，講演や工場の式典に使われるだけでなく，映画，音楽，演劇，特に年1回宝塚少女歌劇団を招へいする他，卓球大会も開催できるよう，工員のリクリエーション施設として最大限に利用されることを目的として建てられたものであります。

当初本講堂の計画に於て，私は透視図のようなアーチ型のものを考えました。シエル構造に依る建築が，その材料の面に於てはラーメン構造より経済的であつても，仮設材の面に於てラーメン構造より多くの費用を要するので，その経済的な解決の一つの試みとして，アーチ型の鉄骨を先に建て，此よりパネルの仮枠を釣つて，シャーレンのコンクリートスラブを打つことを計画しましたが，帝人工場側から工場の外観との釣合上，余り変つた形にしないでほしい旨要望されましたので，結局ラーメン構造に依ることにしました。

敷地は伊勢湾に近く，昨年9月の颱風のときかなり浸水しましたので，床はG．L．より低くしないようにした為，玄関ホールに於て1米30糎程高くなつてしまいました。

外形はオーデトリアムの断面に従つたため，玄関側が低く後方舞台側にゆく程高く，屋根に傾斜がついています。屋根はアスファルト防水層の上豆砂利焼付仕上，屋根面を全体に傾斜させてしまうと，夏期アスファルトの流れるおそれがありますので，一スパン毎に水平に段をつけるようにしました。

外部仕上。外壁，色モルタル吹付，正面及側面の一部リソイド掻落し仕上。正面庇，色モルタル吹付。V型柱，鉄骨ラス巻の上モルタル塗鏝磨きラッカー吹付（ピース箱の色）。手摺，人造石塗半研仕上，正面側タイル張。ポーチ床，豆砂利洗出仕上。

内部仕上。客席天井，ハードテックス張の上木製リブ打付，水性ペンキ塗（白色）。客席壁，蛭石モルタル塗掻落。舞台側壁（音響反射板），プラスターペンキ塗。舞台内壁，モルタル塗。舞台床，檜二重張。プロセニアムアーチ，プラスターペンキ塗。客席床，モルタル塗。

建築面積	1階床面積	868.43平方米
	2階床面積	82.63平方米
	延床面積	951.06平方米
	玄関ホール	54.90平方米
場所	名古屋市笠寺，帝国人絹名古屋工場構内	



略歴　　**森下祐良**

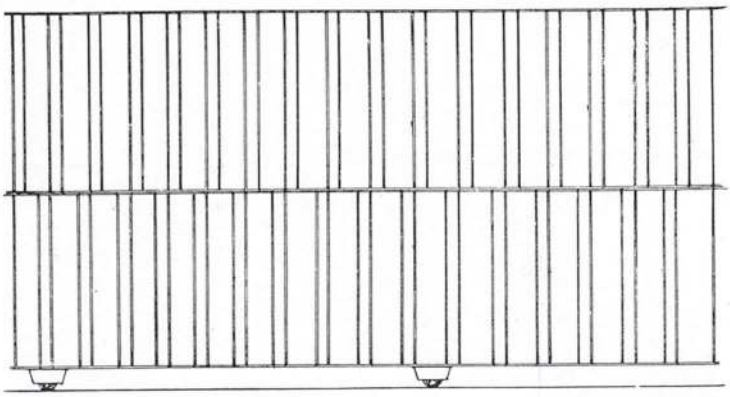
大正15年5月3日生

昭和25年3月東京大学第一工学部建築学科卒業

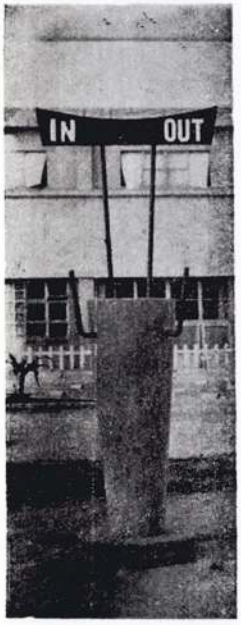
同年4月大林組に入社　　設計部勤務，

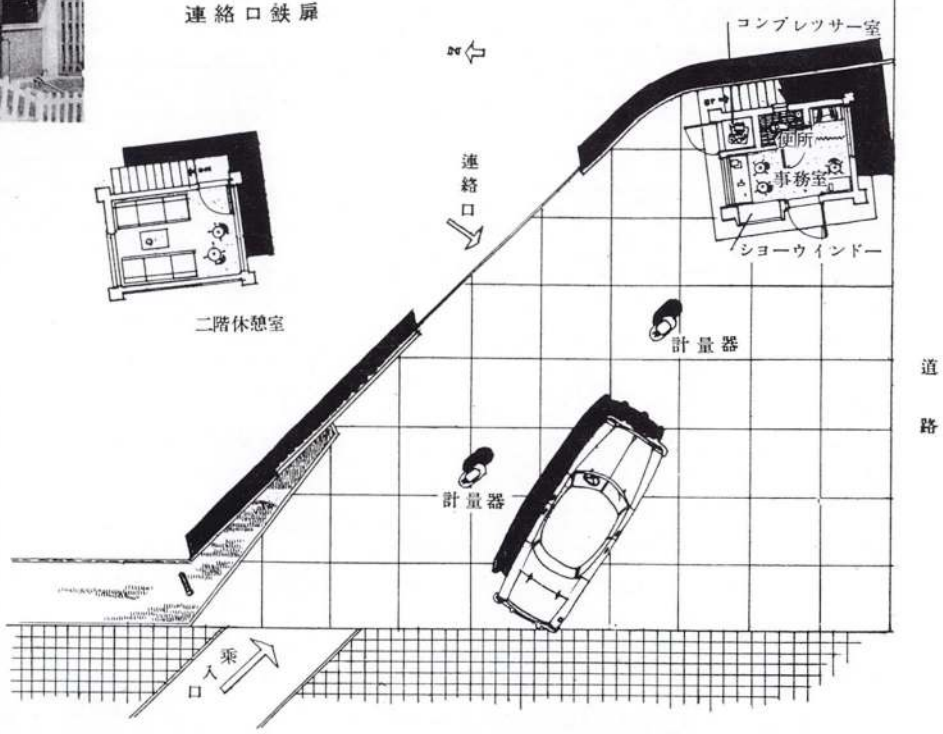
丸善石油肥後橋給湯所



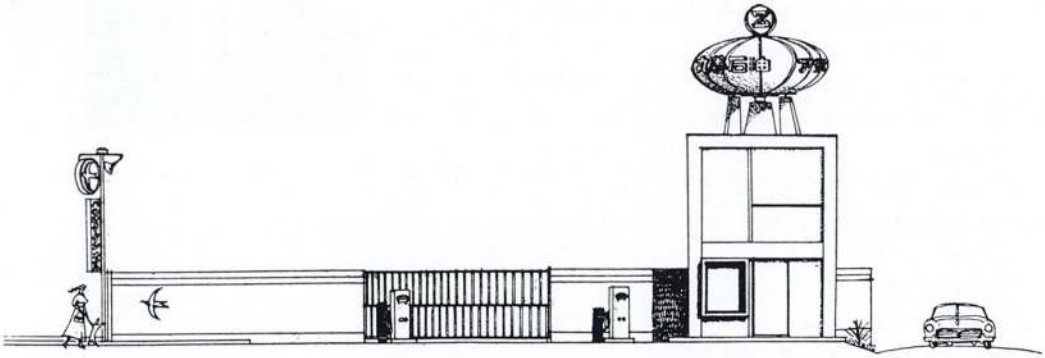


連絡口鉄扉





平面図

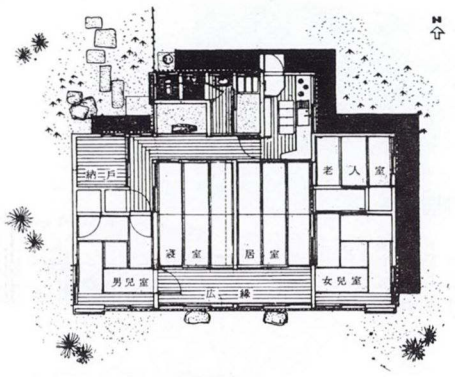


西面図

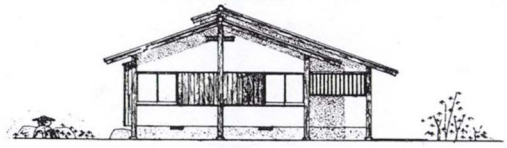
平生舜一の作品

すいせん者：岩本博行

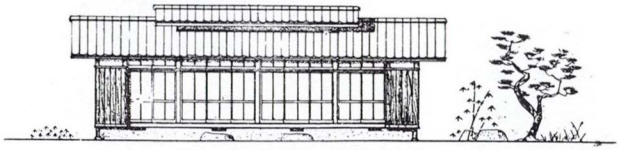
—— I 邸 ——



I 邸 平 面 図



I 邸 東 面

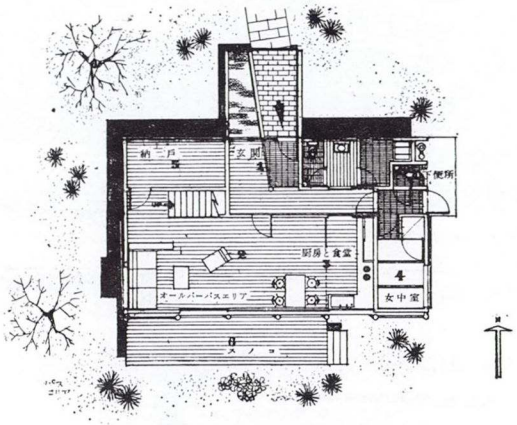


I 邸 南 面 邸

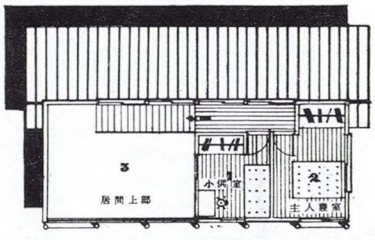
I邸 23坪 実現

- 不規則になりやすい和風住宅をできるだけコンパクトにまとめました。
- 少ない坪数でできるだけ多く部屋をとり，各室とも充分プライヴァシーをもたせた。
- 坪当り40,000円台でおさえた。
- 木部ステイン，外部白シックイ塗

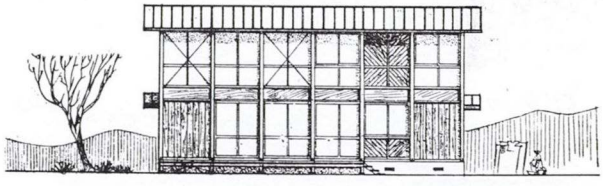
—— M 邸 ——



1 階 M邸 30坪（Desk plan 1953年 8 月）



M 邸 2 階



M 邸 南 面 図

すいせんのことば： たとえば，ある作品が精気に満ちて発剌としているとき，われわれはその作品のなかから何か新しい可能性が暗示されていることが感じられる。古典の優れた作品が，いかなる時代にも生き続ける力をもつているということは，この可能性に満ちているということで，これを永遠の近代性といい，真といい，美と名づけている。

古くなつていく新しさというものには生命がない。われわれが，作品のなかに追求してやまないものは，ひとつにかかつてこの新しい，死ぬことのない，可能性である巡礼に一人の道づれができた，つまり，平生君である。彼はまだ若い，そうして彼の作品も同様に若いといつても，彼のもつ可能性の方に大きな魅力がある。

平 生 舜 一



略 歴：

昭和 6 年（1931）神戸市に生る。満22才
高等学校入学時に文科より理科に転向
昭和24年（1949）4 月早稲田大学理工学部建築工学科入学
昭和28年（1953）3 月早大卒業
4 月株式会社竹中工務店に入社
以後本店設計部に勤務

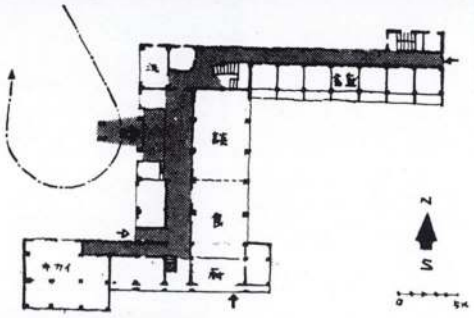
作 品：

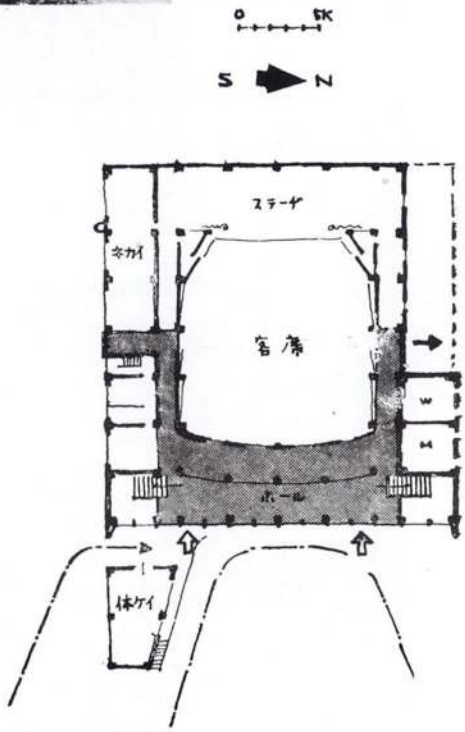
朝日新聞富山支局	1954. 2月竣工	写真なし
産経新聞福井支局	1954. 3月竣工	
I 邸	1954. 1月竣工	
丸善石油肥後橋給油所	1953.11月竣工	
その他、改造、増築等	数 件	

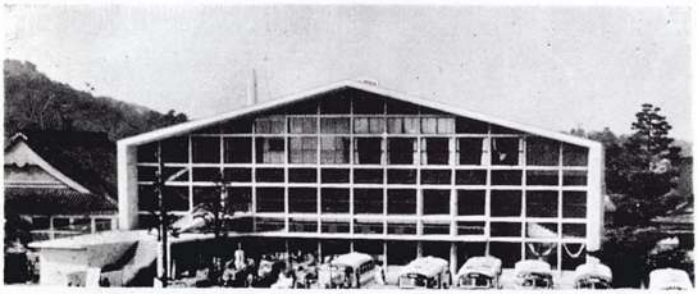


N社甲子園寮

東南より見る。南棟は，将来東え増築される予定中央入り込んだ部分が公共スペースで食堂テラスが見える。







伊勢会館： 内部に Oudltorium をもつ， この建物は，鉄骨木造勾配屋根が最も経済的・工期的に有利であるという理由から採用され，それをそのまま延長すれば，こんな形になつた

感ありとせば

長谷川元耶

何か苦心談でも書けとの仰せでありましたが，取り立てて云う程の話も持ち合わして居りません。ただテーマと構成の欠けた乃至は無視された様な計画，設計や設計者の生命の躍動を感じる事が出来ない建物が多いということに不満を持つとだけ言つておきます。風のひととき新緑の御堂筋を散歩しながらも何故かサツパリしないものを感ずるこの頃です。次の様な口のまわらぬたわごとでも書いてお茶を濁しておきます。

ここ数年来のビルブームは我々設計に携はるものにとつても実に目を奪わしめるものがあつた。都心に建ち並ぶ官庁，ビルの豪華絢爛さや，戦前に勝る諸設備を見るにつけ我々は戦後の建築産業のいち早い復興と技術の進歩とを先づ喜ぶべきであろう。事実建築設計者の多くは喜々としてこれ等の設計に従事したのである。

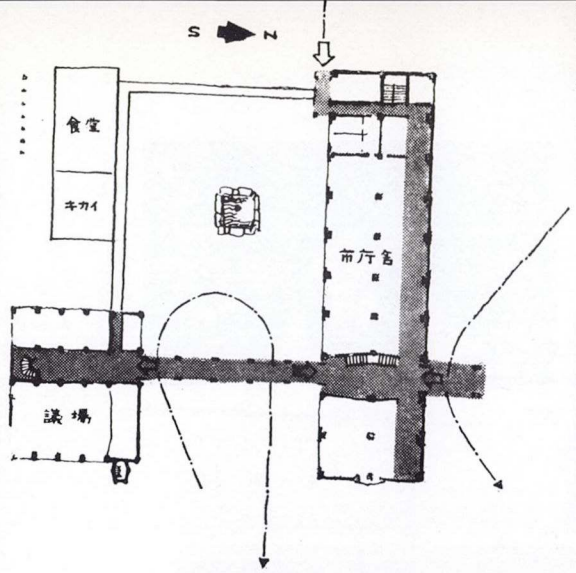
しかしながら現代に生きる建築家として，もはやこうした状態に満足し安閑としては居られないのではなからうか。一例として一歩都心を離れると直ちに目に映ずるのは正に動物的な生活水準を思わせる過密不良住居の連続である。そのいちいちの有様は我々の多くが身を以て日々体験しているもので，未だ建築技術が真に大衆のものとして生かされていないことがここにも如実に示されていると共に，一方に於ける現代の城郭ともいうべきビル群のその傲然ともいえるエレベーションや窓につけられたものものしいグリル等に対比するときそこに象徴されたものは依然として大衆の貧困を土台としてしか生きられぬ社会機構そのものの姿に外ならぬと云つてもよかろう。

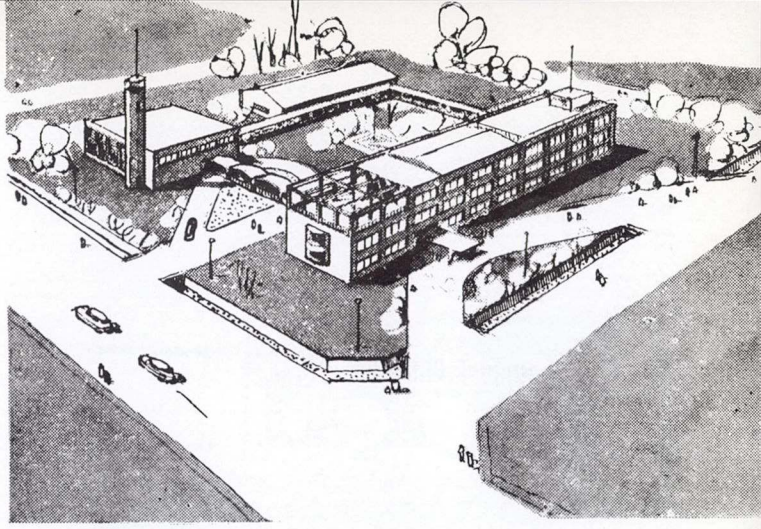
更にこれらビルの乱立に示される一部の者のと放縦と浪費とが朝鮮事変による特需景気のもたらしたものであることは我々の日常の行動が戦争と平和の問題にもつながるものであることを痛感する。

憲法に保証された健康で文化的な生活をかちとり守るために，我々建築技術者に荷せられた任務は大きい。

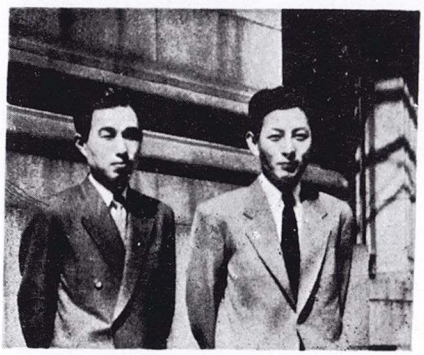
我々は如何に行動すべきか。我々は一層学問と技術の練磨に精進すべきことは勿論であるが，それを守り生活をまもる方向へと向わしめる具体的なそして最善の方策をいまや真剣に，しかも謙譲さを失することなく共に考え且つ実行に移さねばならないのではなかろうか。

長谷川元耶・吉田隆一　　すいせん者：東畑謙三





S 市庁舎：田園都市に建つこの市庁舎は，すべて単純な形態がとられている。



長谷川元耶（左）と吉田隆一

略　歴：　長谷川元耶　昭和25年京都大学工学部建築学科卒
今年東畑建築事務所入社　以後設計業務に従事。

吉田隆一　1918年兵庫県の生れ。1938年関西高工建築科を卒業，東畑建築事務所に入り，設計並に現場の業務に従事している。第2次大戦中7年間従軍。

感想

吉　田　隆　一

今回の青年建築家の事については，困つた事の続出である。

はじめに，はたして私が青年だろうかと，いうことである。あわてて辞書を引き出して，少しでも有利に，青年としての資格を，見つけ出そうと努めたのである。「わかもの，としわか」と書いてある。年令的に見れば青年ではない，そうすると知能が……などと考えて見たが，ドウシテ近頃の青年というものは，すごく賢いのである。大人からはワカモノと見られ，青年の仲間には，なかなか入れてくれそうにもない。

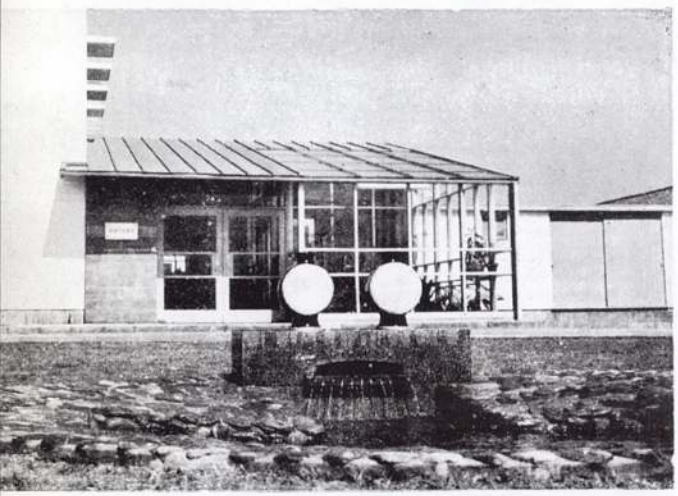
しかし私は若いといわれると——いつも有利に解釈する癖が出て——嬉しくも思うのである。オメデタイのである。若い人はまだまだこれから，のびる楽しさがあるからであると。

次に「掲載すべき作品，論考」とある。この時代全体の創造として出来上つた建物に（大きく出ましたね）これが私の作品でありますとは，余りにもオオソレタ考えであると思つたからだ。この世の中は，我々の意見や希望なりを，そう簡単には，かなえ導いてくれそうもない。ましてまだ余りにもワカ過ぎる青年なのである。私の作品とは一寸アマ過ぎるようである。そこで編集子に「関係したものはあるが，私の作品というものはない」と云つた所，苦心談でもという事になつた。苦心と？いろいろ考えて見たが，これが又ムヅカシクなつた訳た——私は元来考えるのが苦手なタチである——世の中の様々な人達の思惑や，顔色などを考えて，うまくオコラレナイ程度に，自分の希いを描き出すことが，一番の苦心ではなかろうか，とも考えて見た。しかし巨匠コルビュジェでさえ，何をしてもよいという野放しの設計には，テコズツタそうであるから，勝手な設計をさせろ，というようなオオソレタ考えは，毛頭ない。

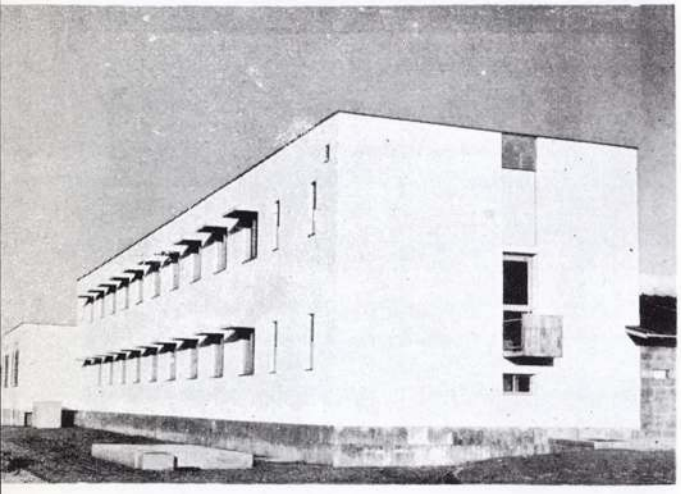
そこで直接関係した，一二の作品を載せていただく事になつた。作品がのるからには，この作品に対する私なりのネライを，書かねばならない事になるが，「今回は作品を照会するのが目的でない」と云われて見れば，ハハン何か文句を書けと仰せかと，早やガテンをせなければならない。しかし私は文句を書くのが商売ではない。——書かされたつて人に読んで戴くような，文章は書けつこないから——雑誌やおおくの書物には，それぞれ大家，諸先生達の立派な論説が載つて居るはずである。

ここまでノラリクラリと，逃げのびたのであるが，さて貴様の考えは，つとめられれば，すべて単純なことのすきな私は，こんな言葉に心を打たれたと，誰もが認める大先生を拝借して，『……多くの建築の機能は連続的に急激に変化している，建物は経済的には簡単に変化しえない』又『……形は単純で経済的な構造を自由に用いるようになり，機能は時間の経過に自由に順応し，必要とあらば完全に変化させることも出来る』といふローエの大まかな，あの単純な美しさのある，手法がすきである。と云つて，お茶を濁すことになつた。

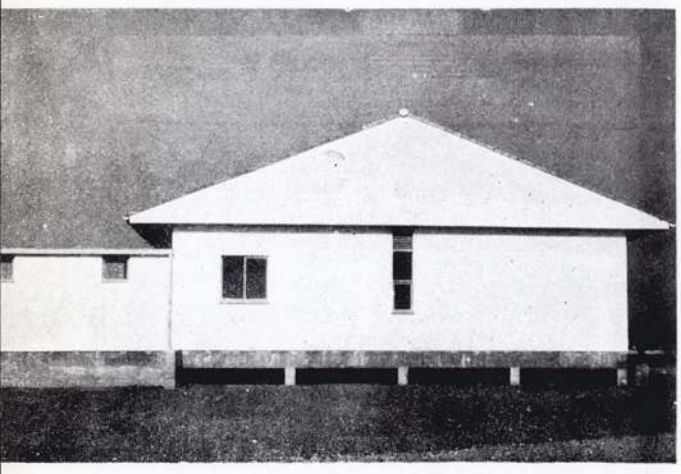
私は青年です。あらゆる宿題が身辺にころがつているのです。



1.



2.



3.



松　村　慶　三

略　歴：　昭和２年生　　大阪市出身
昭和24年京都大学工学部建築学科卒業
同年４月倉敷レイヨンKK入社以来本社営繕部にて建築設計に従事。(24年度近畿卒業設計コンクール受賞)

現在までの作品　倉敷レイヨン尾崎工場男子寄宿舎
〃　西条病院
〃　岡山工場男子寄宿舎
〃　本社独身寮　その他

すいせんのことば：　松村慶三君は一見東京人種に見えるが，純粋の大阪人である。京大在学中よりその建築家としての素質は認められていた。倉敷レイヨンに入社，実務に入つてより日も浅いが，既に福利関係の仕事を三つ果して，独特の気風を示している。その作風は，あくまで洗練された都会風のモダニズムのなかに，合理主義の厳しい強さと，また人間主義の温たかさをたたえている。

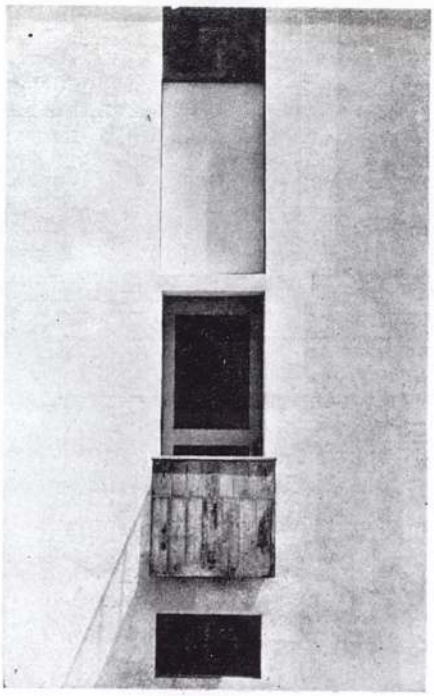
人間としても，謙虚な外見のなかにしんの堅さを蔵している。従つて今後の実務のなかでそのよき気風はますます伸びていくであろう。

すいせん作品：　倉敷レイヨン西条病院
(愛媛県西条市朔日市)

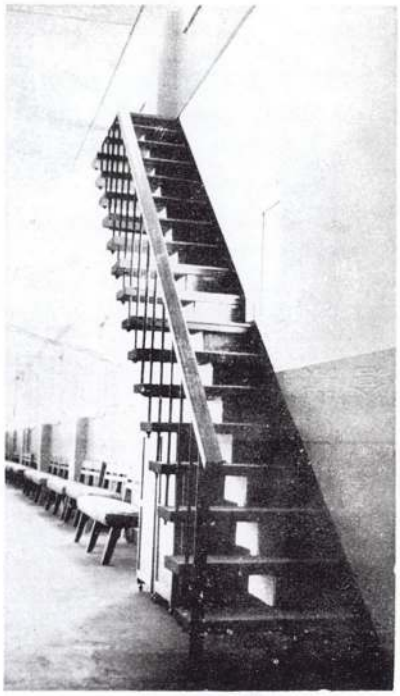
倉敷レイヨン西条病院

松村慶三の作品

すいせん者：浦辺鎮太郎



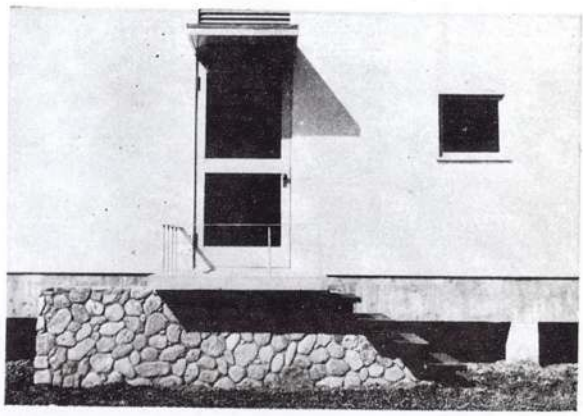
4.



5.

写真説明（西条中央病院）

1. 玄関入口——左が本館コンクリート部分，右に見えるのが植物温室。
2. 本館北面——庇のついているのは待合兼用の窓下窓。
3. 病棟西妻。——鋼筋コンクリート床版（ローソク基礎）の上に木造部がのっている。
4. 本館西妻のバルコン廻——バルコン及上方屋上梁はコンクリート打放。出入口扉と屋上梁の間はカナリヤ色テラゾー嵌込（病院マーク彫込）。
5. 裏階段——壁の稲妻形のコンクリート片持梁にボールトで踏板をとめてある。
6. 第二病棟出入口



6.

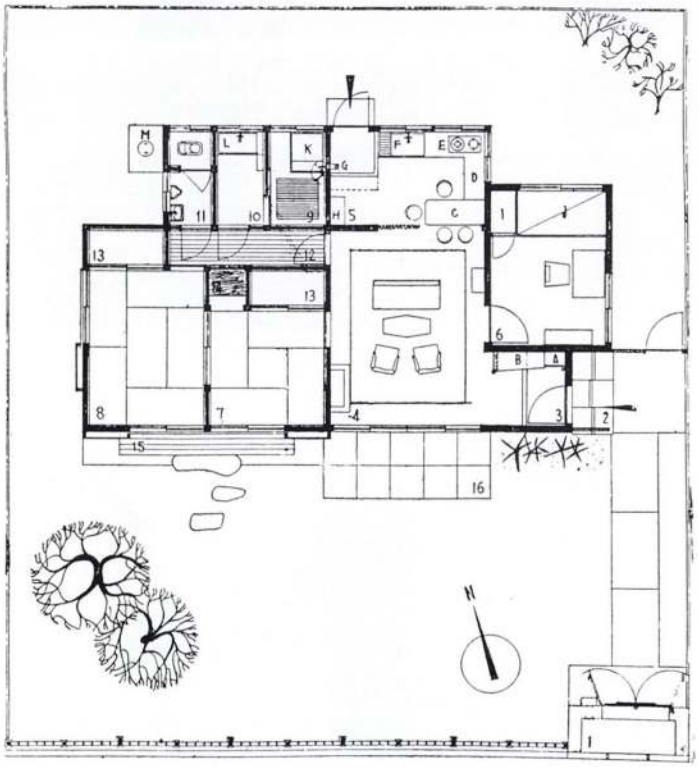
倉敷レイヨン西条病院



南面姿図



居間より玄関を見る



・羽衣展示住宅・

敷地坪数　88.77坪
建　坪　21.50坪

平面説明

1. 門
2. ポーチ
3. 玄関
4. 居間10帖
5. 台所
6. 洋室6帖
7. 4.5帖
8. 6帖流し
9. 浴室
10. 洗面・脱衣
11. 便所
12. 廊下
13. 押入
14. とこ
15. ヌレエン
16. テレス

A. 傘立
B. 下駄箱
C. 食卓
D. 配膳台
E. コンロ台
F. 流し
G. ガス釜タキ口
H. 冷蔵庫
I. ロッカー
J. ベット
K. 浴槽
L. 洗面流し
M. 吸取口

稲葉歳明



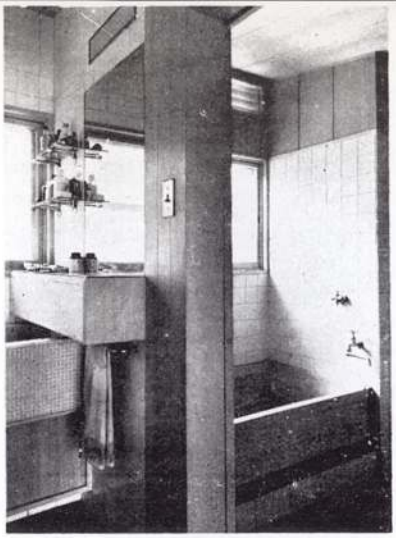
略歴： 昭和6年（1931）大阪に生れ，現在京都に在住。京都第一工業学校建築科を経て，24年3月京都洛陽高等学校工業課建築科を卒業、同年4月清水建設株式会社に入社。大阪支店設計部勤務として，現在に至る。

作品経歴：

○ヘレン・ケラー記念寄宿舎	（大阪）	昭和25年度
○救世軍会館	（大阪・神戸）	同上
○大森商店	（大阪）	同上
○森永製菓塚口工場浴場	（塚口）	昭和26年度
○香川相互銀行八幡支店	（四国）	同上
○芦屋Y氏邸	（芦屋）	昭和27年度
○八木洋裁学校	（奈良）	昭和28年度
○羽衣展示住宅	（羽衣）	昭和28年度
○枚方公園大劇場	（枚方）	昭和29年度

稲葉歳明の作品

すいせん者：木村精一

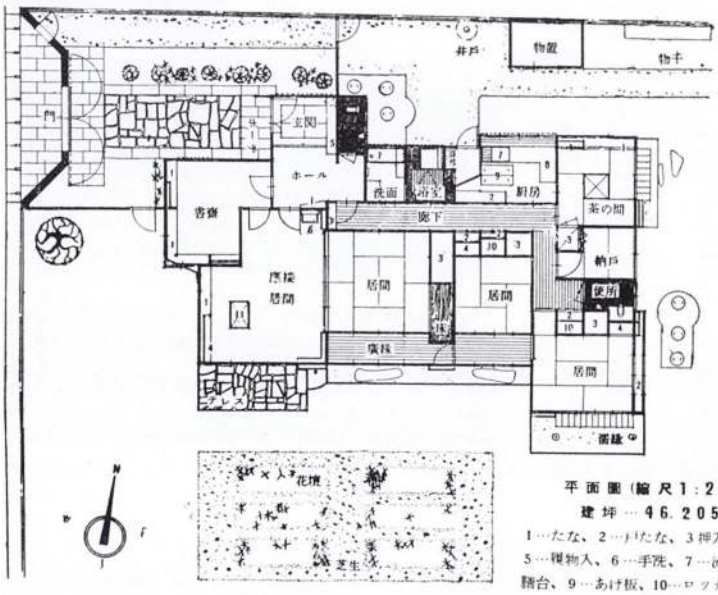


洗面所・浴　室



南面姿図

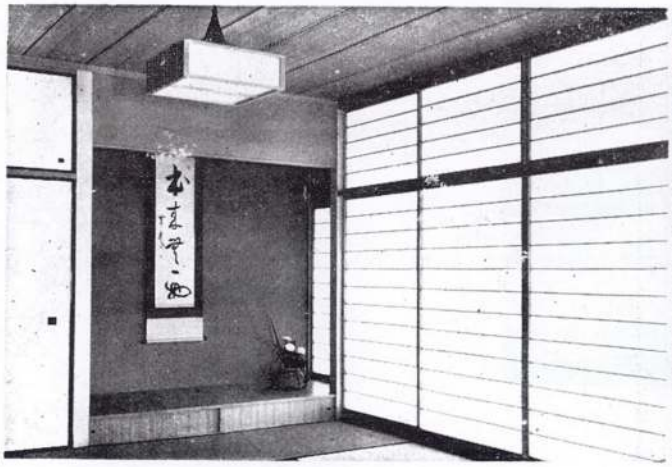
芦屋Y氏邸

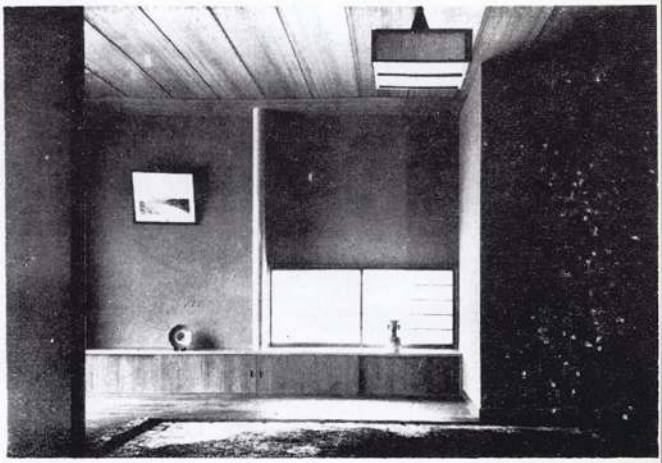


平面図（縮尺1：200）
建坪…46.205坪
1…たな、2…戸たな、3押入、4…床、5…複物入、6…手洗、7…流し、8…配膳台、9…あげ板、10…ロッカー、11…盆

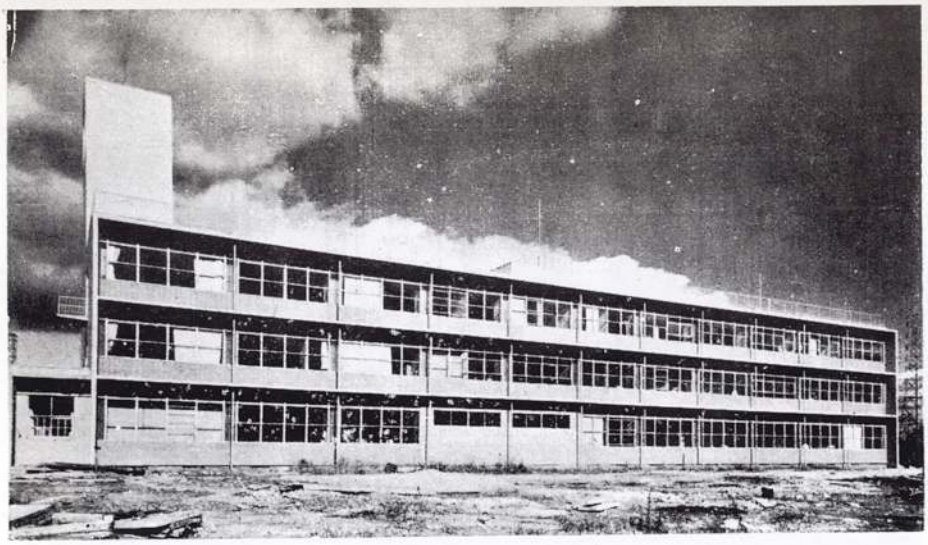
居間兼応接室

和室8帖の間

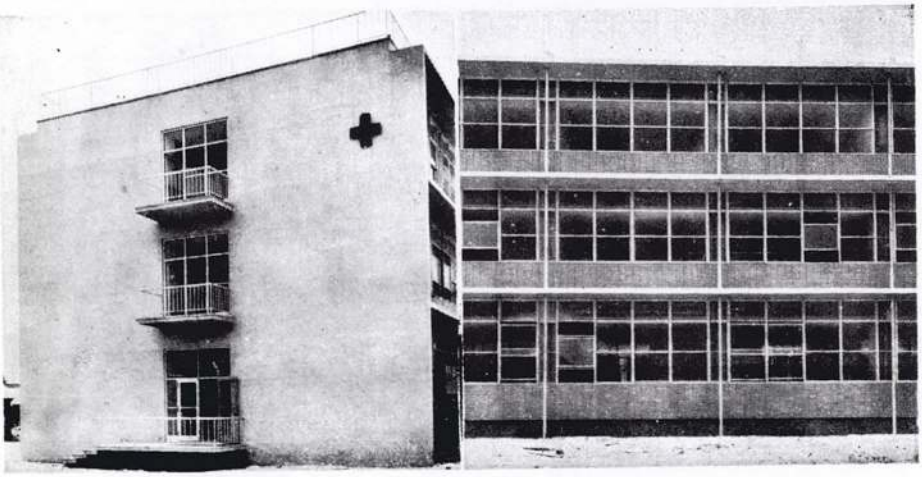




稲葉歳明の作品

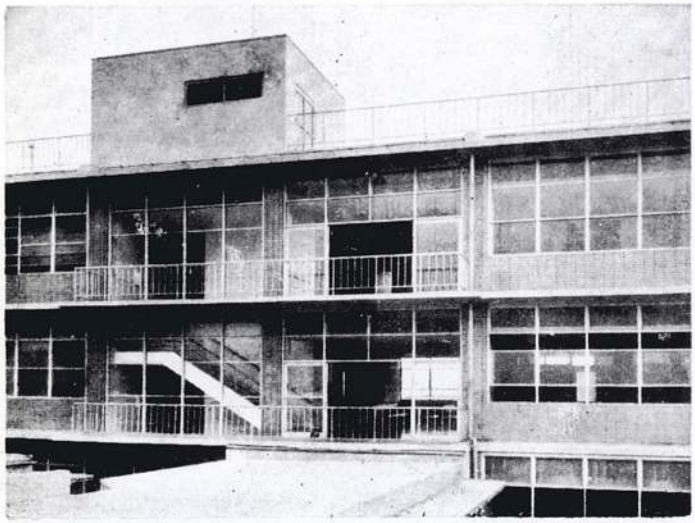


1



2

3



4

写真説明

本館	1	本館全景
	2	本館東妻
	3	本館外部
	4	本館背面
内部	5	本館二階中廊下
	6	歯科治療室
	7	外科診察室
	8	本館待合室
病棟	9	病棟廊下
	10	病棟渡廊下
	11	木造病棟外部
	12	病棟大病室内部

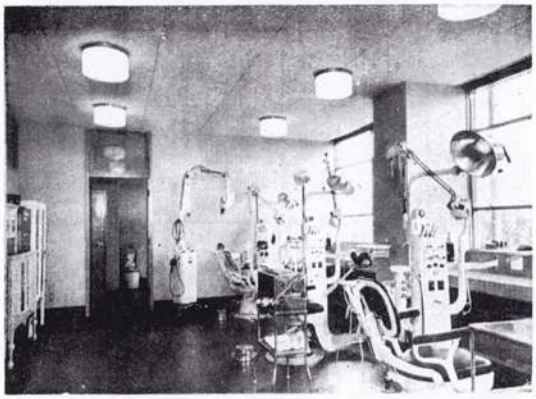
関西労災病院

片山光生の作品

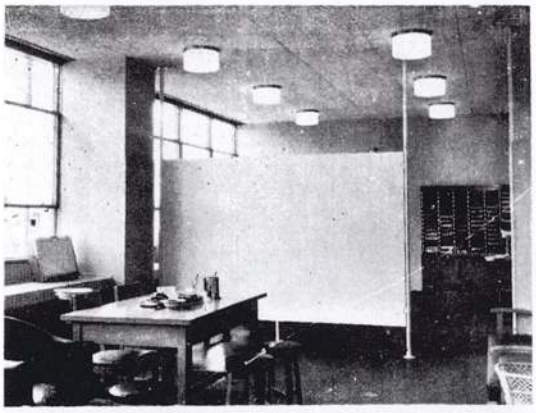
すいせん者：角田　栄



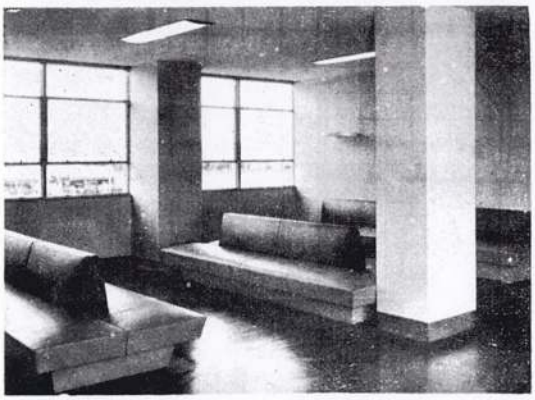
5



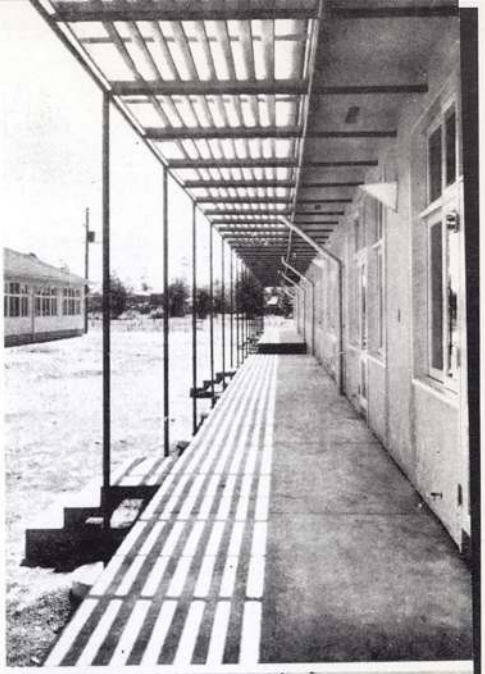
6



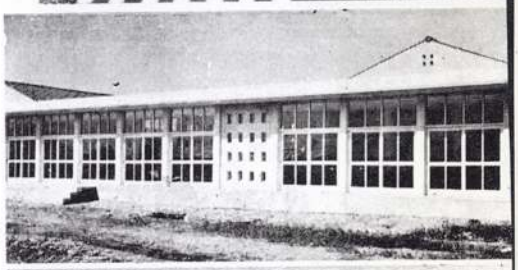
7



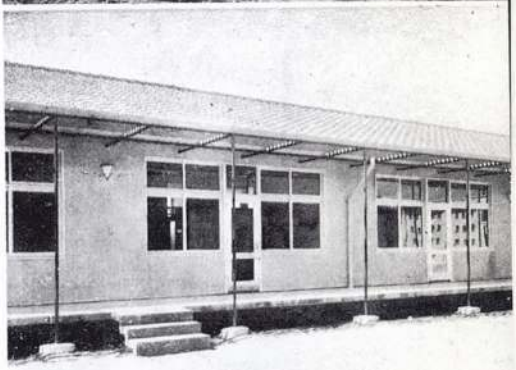
8



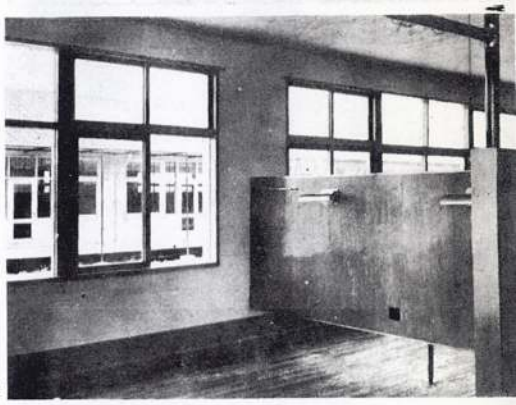
9



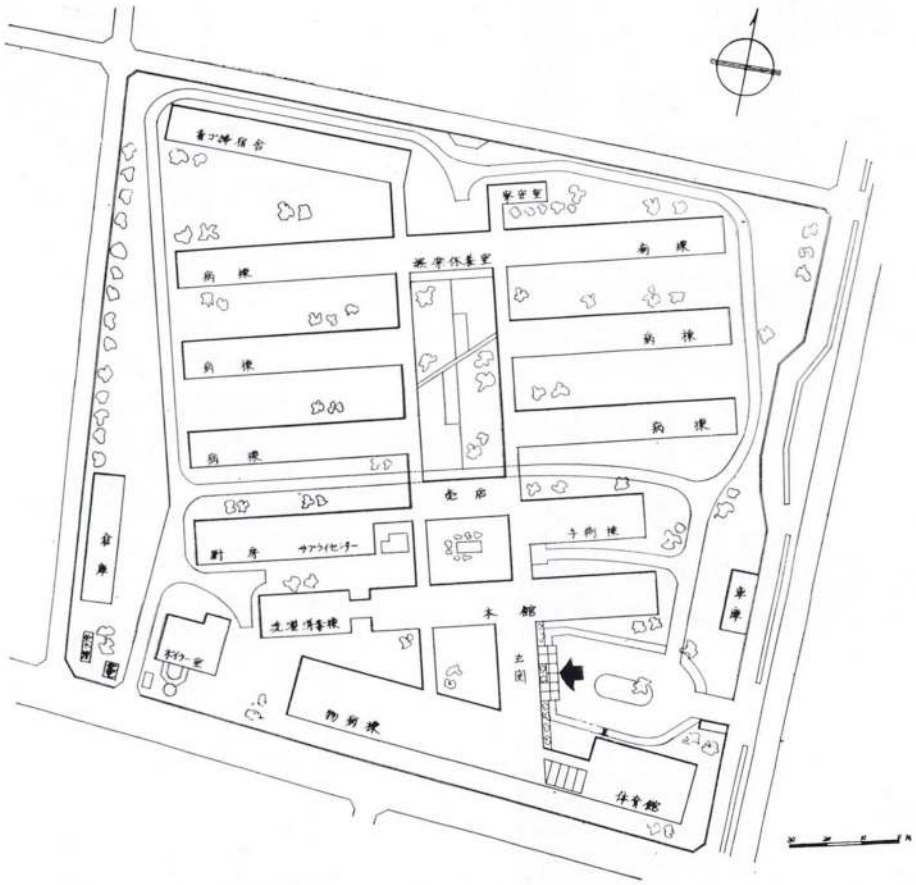
10



11



12



↑ 配 置 図



片山光生

略 歴：

	大正7年9月27日生
昭和18年9月	京都大学建築学科卒業
昭和18年9月	海軍技術士官として服務
〃 20年8月	運輸省運輸建設本部四国地方建設部勤務
〃 24年7月	機構改革により建設省近畿地方建設局営繕部勤務となり今日に至る

関西労災病院設計に関係して

1. まえがき

此の病院は労働省所管の労災病院中，新設のものとしては最初のものであつて外科及整形外科を主とする綜合病院として計画された。建設費は国費の特別会計に属し毎年5千万円内至1億円程度配布される継続工事であり着工は26年3月であつた。

2. 計画の概要

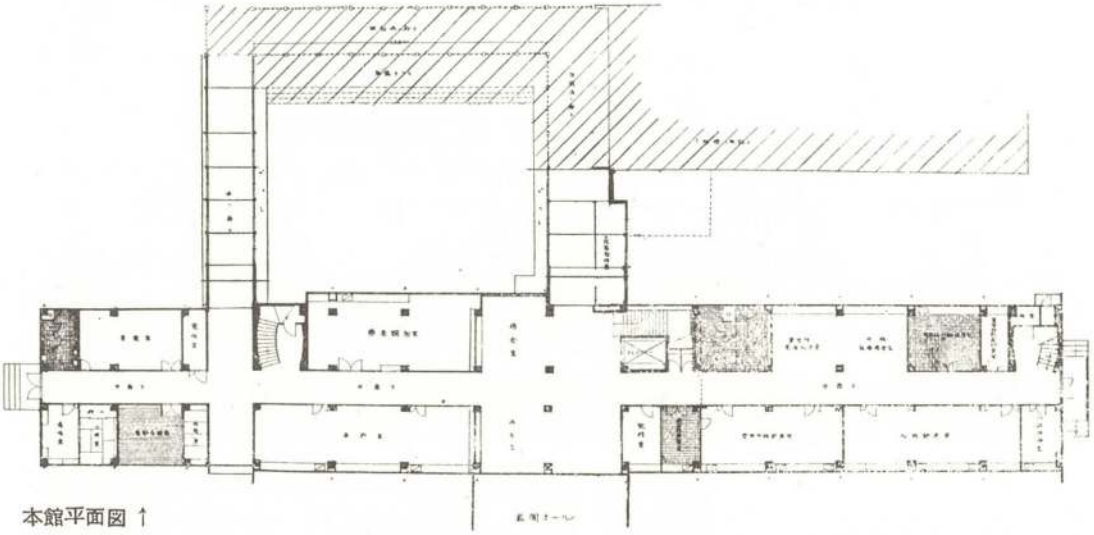
①敷地は尼崎市の西端武庫川のほとりで阪神国道から僅かに北にはいつた交通の点でもさして難点のない且つ工場地帯からは離れた地域で面積は約1万坪である。

②病院の内容

1. 内科　2. 外科　3. 整形外科　4. 物理療法科　5. レントゲン科　6. 耳鼻咽喉科　7. 眼科　8. 歯科（尚産婦人科は現在ないが増設を一応念頭においた）

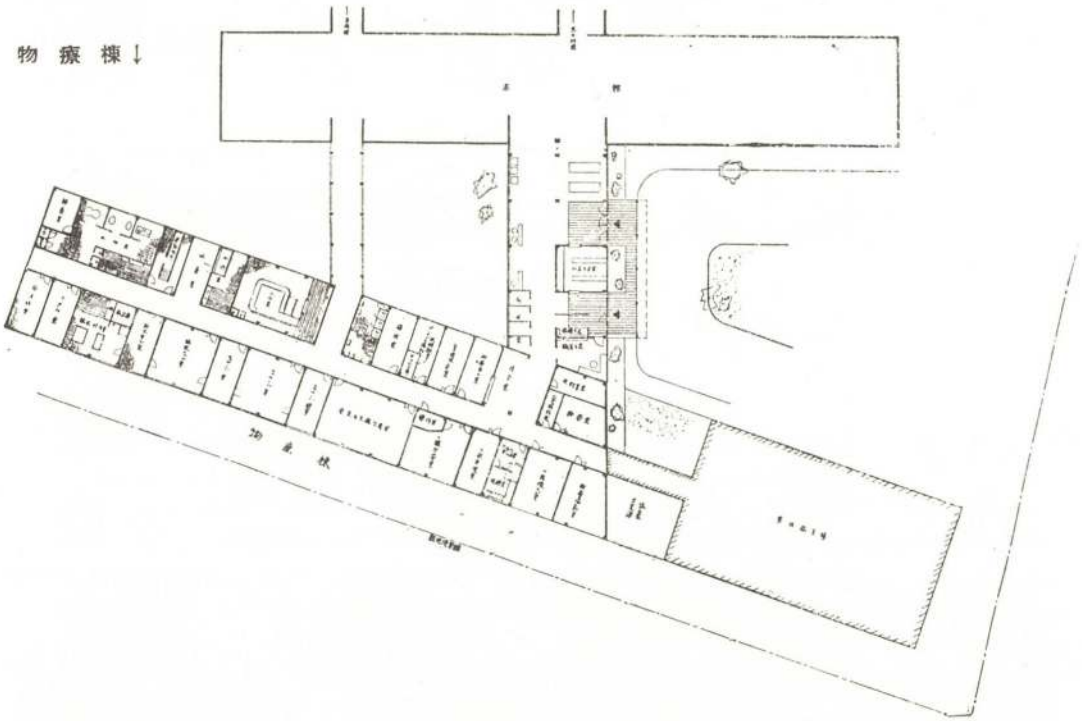
③入院患者数　500人床（当初計画は350人床）

片山光生の作品



本館平面図 ↑

物 療 棟 ↓



④外来患者数想定　450人～500人

⑥職員構成

事務関係	医　員	技　師	看護婦	計
25人	25人	3人	180人	233人

500人床の病院の職員としては少いがこれでも労働省計画よりはるかに増大したものである。

⑥看護単位　50人

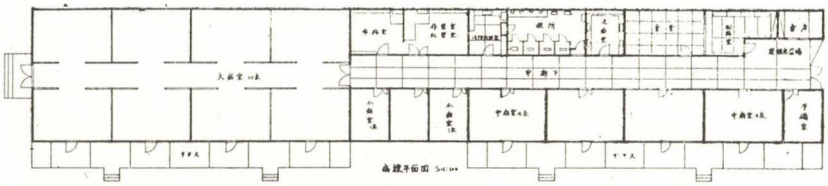
⑦配食 pavilion type であるため各病棟に配膳室を設けた。

3. 配置計画の経過

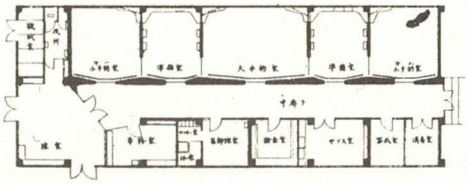
当初から労働省側より pavilion type とすること病棟はすべて木造平家建とし1病棟50床とすることが要求された。

敷地は多少歪んで正方形でその南辺はほぼ東西の線に一致しておりこの敷地に如何に各建築を合理的に配置

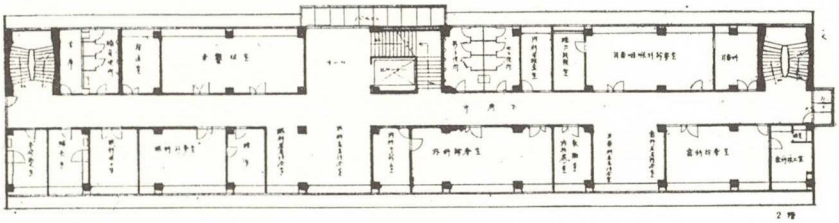
病棟1階



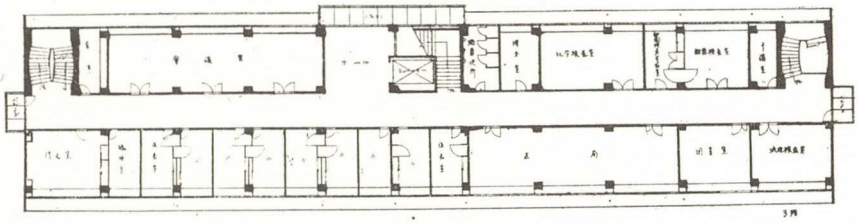
手術棟



病棟2階



病棟3階







するかが問題となつた。

各病棟を木造平家建として配置することは余りに敷地をゼイ沢に使用しすぎ又診療部及サービス部への動源も長くなるので異論があつたが労働省側のたつての希望により又予算との関係もあり平家造りの pavilon-type とした。（後に500人床となつたため一部RC，3階建に変更した）

この配置計画は本館と各病棟とを渡廊下で連絡し，且つそれらの間に厨房ボイラー室等を合理的に結びつけて病院としての機能を充分発揮させる事に帰する。先づ本館の正面出入口は主要交通路の関係から敷地の東南隅とすることが妥当と考えられる。

外部からの進入路を敷地の東南隅とすることから種々の plan が出来たがそれを比較検討の結果本館及び各病棟をすべて主軸を南北の線から約20°東にふうせ本館より2本の渡廊下を直角に出しその2本の渡廊下の各々の外側に病棟を並列すると中央に中庭が出来る。あたかも中庭を中心にして左右に病棟がたちならび，その頭となる部分に管理診療部である本館がきて全体のバランスがとれる。

病院は憂ウツな感じをあたえるものであつてはならぬ健康な環境を必要とする。ことにこの様な水平に広がつた配置ではただ単調な憂ウツな繰返しであつてはならぬ何かしつかりした中心になるものがほしい。

そのために充分な日光と緑に輝く広場とそれを囲む渡廊下の構成を中核とし左右に病棟を配置した環境的美観，精神的慰安を考えた。

中庭は将来芝を張り噴水を配し緑の樹木を植えて患者の心身を爽快にするに充分なだけの大きさにとり，それを廻る渡り廊下は鉄筋コンクリート造の明快なもの

としたい。内側は全部開閉の出来るガラス戸とし外側は病室のプライバシーが渡廊下通行者によつて直接害されない様ブロック積とした。

病棟相互の南北の間隔は日照，通風，採光に充分な大きさをとることとし敷地の関係で15米にきめた。

本館及物療棟は規模の増大と共に再三変化し別図の如くなつた。（但し物療棟は未施工）

サービス部門は診療管理部，病棟物療棟との連絡を考えかつボイラー室の位置など棟より図の如くサプライセンター，洗濯消毒室，厨房，製剤室をおいた。

蒸気使用量の大なるものを固めた。

4. 病棟について

①ここに3つの大綱を考えた。

1. 看護婦の作業能率を上げること。
2. 患者に快的な環境をあたえること。
3. pavilion typeの長所を生かすこと。

②完全看護を建前とするこの病院は限られた予算及看護婦数より考えて少し多いが個室を少くして50床単位とした。個室は重症患者のみとし他は総室又は4人床の中病室とした。病棟の柱間隔の単位を4m×6mとしこれに4ケのベットを入れた、少し狭いが充分使える様であつた。

看護婦事務室は病棟の中央部におきそのまわりに作業室関係をおき，1日約30回も患者との間を往復する看護婦の労働の軽減を計つた。又重症患者用の個室は看護婦事務室の近くにおいて看護に便なる様にした。

③貧しい予算でも出来るだけリッチに患者が快的な療養生活が出来る様，清潔感と共にオープンネス，プライバシー，色彩照明等について注意したつもりである。pavilion type の長所と云えば先づ大地に足のついている安定感，充分なる空気と日光を有する線の空間を楽しめることである。これは回復期の患者にとつては精神的にも肉体的にも回復を加速度にて増進するものと信ずる。

この前庭をとりまく物の色彩は冷いとりすました所謂病院らしい表情をさけて多少変化をつけて見た。即ち緑の芝生を中心として建物の壁は灰色窓や出入口は白，屋根は栗色としテラスはセピア，ルーバーは緑とし最後にルーバーの柱を濃紺色として全体をひきしめた。

5. 本館（管理診療棟）について

①地下水位が高く地耐力もあまりないこの地では地下室なしの3階建鉄筋コンクリート造が構造側より適当なところと見られる。この中に包含される部門は管理部，外来診察部，薬局部，医局及検査研究部等であつてこれが病棟及物療棟及サービス部門にそれぞれ直結しなければならぬ。

玄関は本館と物療棟の間に置き，患者用と職員用とに分け，病棟部は外来用と兼用した。2本の渡廊下より本館の1階は診療部と管理部とサービス部に大別される2階は外来診察部3階には医局及び検査室会議室を置いた。

②本館の柱間隔は一つのユニットを5.000m×2.750mとし柱間隔は5.000m×5.5mとした。

③診察室は1階—外科，整形外科2階—内科耳鼻咽喉科，眼科，歯科

X線関係は診察，撮影，治療共に物療棟に集中して設け手術室関係は各科共手術棟に集中して設けた。

2階に看護婦室を可成広くとつて後に産婦人科又は精神科の増設を考慮した。

④待合について

中廊下に待合椅子をおく方式をやめて，二科づつ共用の待合室を設けて整理するとともに長い中廊下の採光と通風を補ふよう計画した。

⑤配管について配管の総べてを露出することは塵埃のたまり場をつくり又配管の施工に不必要なる神経と費用を要するので大部分ランマ柱ぞいのガラス建具をはずすことによりすべて点検及取換が可能になる様計画した。

6. 手術棟について

①渡廊下の横に控室兼救急処置室であるホールをとりこれに救急搬入口を設け之より建物の中央を横ぎる廊下により南北に分ち北側に手術室及準備室を置き南に事務，検査控室，資材室を配した尚東に増築も可能である。

②手術室及準備室の扉は自動扉とし手術室内は空気調整を行つた。

7. あとがき

現在迄に竣工している建物は，本館780坪，手術棟122坪，木造病棟3棟（1棟183坪）看護婦宿舎の1部厨房棟（80坪）及ボイラー室等の最少限に必要なサービス部分のみで不足の部分は仮設又は他室の転用で間に合わせている。

実施済の使用状況を調査して今年の3階建の300人床の病棟及び物療棟を実施したいと思う。

この病院の設計に関し常に適切なる御指導を下された角田栄氏，図面作成について一心同体となつて援助下された森谷普作氏に厚く御礼を申し上げる次第である

◆羽衣展示住宅◆

此の住宅展示会は日本建築協会創立35年事業として，試みられたもので，其の敷地は，南海羽衣駅より徒歩約5分程の閑静な住宅地が選ばれた。設計に当り，先づ定められた土地に於て最少限度の建築費で然も，合理的な文化的水準にある家を如何にして造ることが出来るかと云う事が第一の目標であつた。

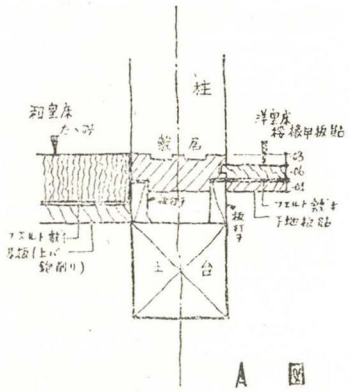
然し従来の日本の住宅に関する概念と云うものを全然変えてしまい，生活改善の必要を生じる様な思いきつた計画（それが理想のものであるかは別として）は，此の場合出来ず，唯次の様な諸点に留意し健康と快適なる生活を期待して設計しました。

1. 居間と厨房を続けてとつた，いわゆるリビング・キチンの型式をとり，生活様式の合理化及簡便化をはかつた。
1. 日常の中心部を上記の部分におき，食事に仕事に，又一家の団欒と憩の場所に供し，居間中心とする，明朗にして，態率的な生活を目標にした。
1. 居間と続けて，一部に洋室を（6帖大）設け，寝室兼書斉としベット，ロッカー等は造りつけてあり，小供室其の他にも利用し得る様にした。
1. 日本家としての，従来よりの親しみを持たせるため4.5帖，6.0帖の和室を設け和洋折衷の住宅として不自然の無い様に種々考慮した。
1. 尚風呂は，ガス釜焚，便所は，改良式汲取便槽となつている。

◆芦屋Y氏邸◆

此の住宅の平面計画は予め建築主に於て，充分検討されたものに対して，施工上細部にわたつては勿論のこと特に次の諸点に注意して設計を進めた。

1. 洋室・廊下を問わず床板貼りの部分は凡て，二重板貼りとして，其の間にフエルトを挿入し，防湿・防寒に対処した。又畳下床板は鉋削りをしたものを貼り同じくフエルト敷きとして，床下の清潔に心掛けた。（A図参照）
1. 各間仕切木軸部には，何れもドラフト止め，防火に考慮した。
1. 外部に面する窓出入口には，全部防虫網戸を設け，特に洋室部分の窓及出入口雨戸は室14側に設け，フラッシュ戸とした。
1. 便所は水洗式フラッシュバルブの防音のため，間仕切部には鋸屑を充塡し，木摺上よりテックスを貼つてその上に防水施工をした。又出入口には防音扉を使用し枠との間隙には，スポンヂゴム製防音パッキングを取付けて気密性にした。
1. 浄化槽は停電時等を考慮し，ポンプアップの必要のない特殊浄化槽を特に，兵庫県庁の許可を得て，テストケースとして使用実施した。その後の効果は，順調である。因に此の種浄化槽の機構は，どんどん改革されて居り，現在では簡単にして，優秀なる機能を持つものも設計されつつあると云うことを附記しておく。
1. 電灯配線工事を碍子引きとせず，特にコンデットチューブ配管をして漏電に備えた。
1. 浴槽釜は，ガス釜と，薪釜を併用し，燃料の節約と使用の合理化を計つた。



A　図

写真説明：居間兼応接室

此の部屋は，続く8帖和室と一体に使用する様にした為，その境の間仕切襖は和洋両室より眺めて，不自然のない様に考慮した。襖を開ききつた時は，全部壁面戸袋の内に納まる。尚両室の床面の差は，うすべり又は絨毯一枚（3分）程度とした。

洋室の一隅には，特殊洗面器具を設置し簡便に使用し得る様になつている。

室内仕上　床—桜縁甲板貼オイル，ステイン塗
巾木—杉柾成3寸
壁—じゆらく塗
天井—杉柾板（1.2尺巾）敷目板貼
とこの間天井—松杢板—板貼
正面とこ丸柱は檜ステイン，ラック塗
地袋天板檜ステイン，ラック塗
4板引違地袋戸は杉柾貼フラッシュ

和室8帖の間

室内仕上　天井——杉柾板（1.2尺巾）敷目板貼
壁——じゆらく塗
とこ天板——松杢板，地袋は杉柾フラッシュ
主に掛軸入として使用。

洗面所及浴室

室内仕上　○洗面所の天井は檜打上素地板貼，
壁は流し廻り白色3.6寸角色付きタイル張他は檜板竪貼，尚鏡は埋込んで，壁面と同一面になる様に納めた。
○浴室の天井は，檜板面取流し貼（勾配1.5寸）
壁檜板やげん貼腰3.6寸角色付きタイル貼
床簀の子敷き周囲モザイック・タイル貼。

ロピテル(熱海病院ホテル計画案)に就いて

宮　武　保　義

1. ま　え　が　き

——若い建築家にとつて，基本的な自由な設計行為が許されるということは極めて稀なことである。けれども若い情熱は常に何物かを求め，見出し，そして打込もうとする。たとえそれが計画案という名の下にいつの間にか埋もれ果てるものであつたにせよ。

新しい病院活動が特にアメリカを中心として始められてから既に十年を経ようとしている。吾々は此の間にあつて，論説を通じ写真を通じて，様々な新しい追求と成果とを見せつけられて来た。或るものは高度の技術に輝き，或るものは心憎い迄の分析を示した。人間の幸福がこれ程迄に尊重され求められて来ているということを，当然のことながら，更めて見直し度いのである。

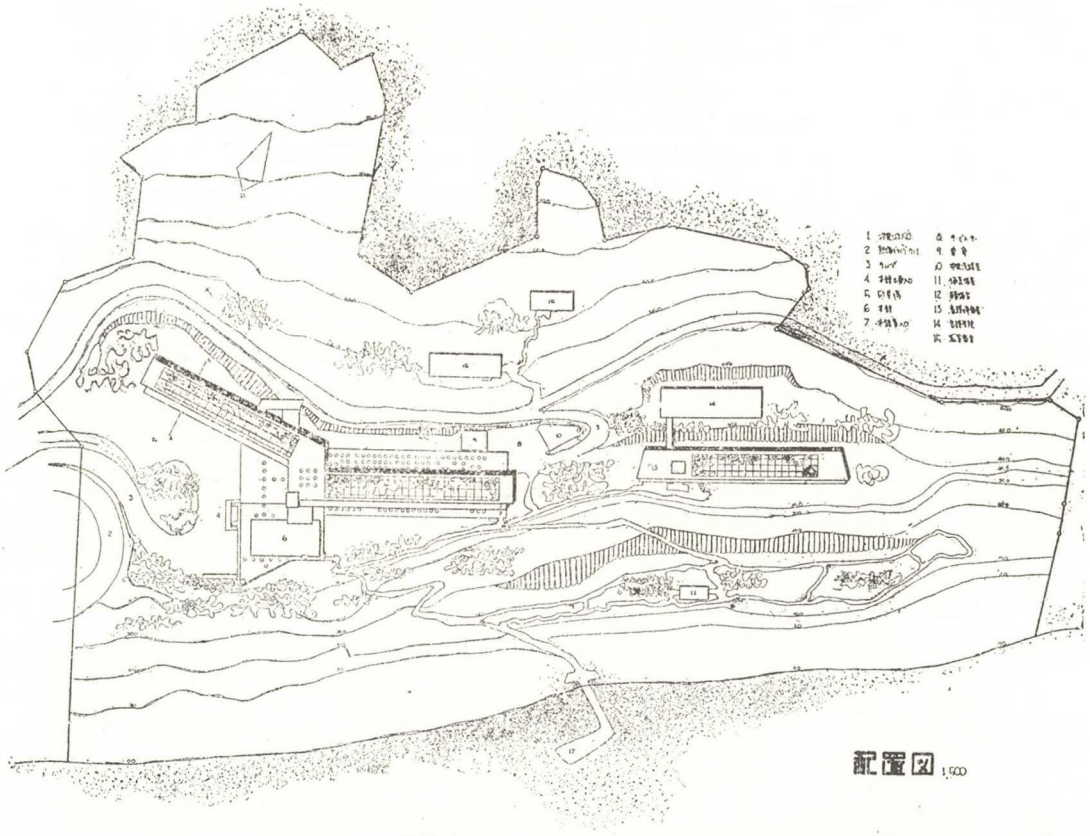
茲に吾々の周囲に目を向ける時，此の新しい病院活動の影響として，或いは大学を通じ或いは厚生当局を通じて，数年来日本的性格の追求と当事者えの再教育とがなされて来ていることを認めることが出来る。けれども現実に吾々の周りに立ちゆく病院を見つめる時不満と失望とを感じるのは僕一人であろうか。新しい芽生えを悟り，将来に悔いの無いものを吾々の手によつて作り上げてゆく為には，建築家はもとより日本人全体の断えざる関心と情熱こそ必要なのである。

2. 計　画　の　主　旨

——本計画は国立東京第一病院管理部長M氏の要請に基き，病院ホテル計画の理想を具象化せんが為に東京大学工学部建築科昭和27年度卒業計画として試みられたものである。此のホテル病院の理想とは即ち，

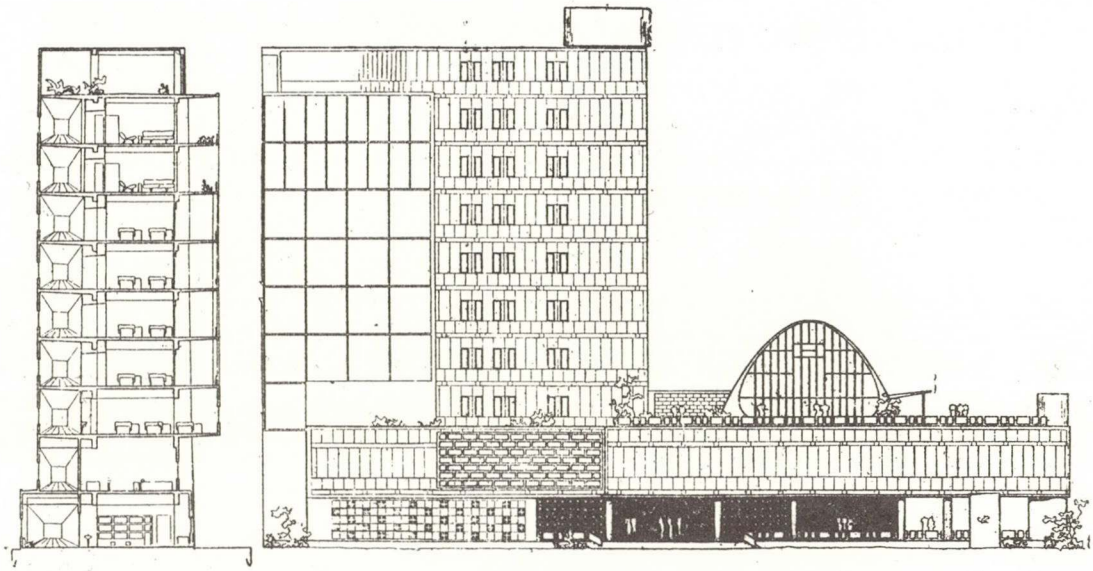
1. オープン・システムを採用し，医師がその高度の技術を自由に発揮し得る場となすこと。
1. この施設を医療技術水準の低い諸外国の要望にも応え得る様開放すること。
1. この施設は健康人にとつても静かで便利な保養所たるべきこと。

斯くして病室と貸室とを併せ持つ建物が出現する。これを吾々は病院(L'Hôpital)とホテル(L'Hotel)との融合せる新しい建物「ロピテル(L'Hôpitel)」と名附けるのである。



配置図 1:600

すいせん者：木　村　精　一



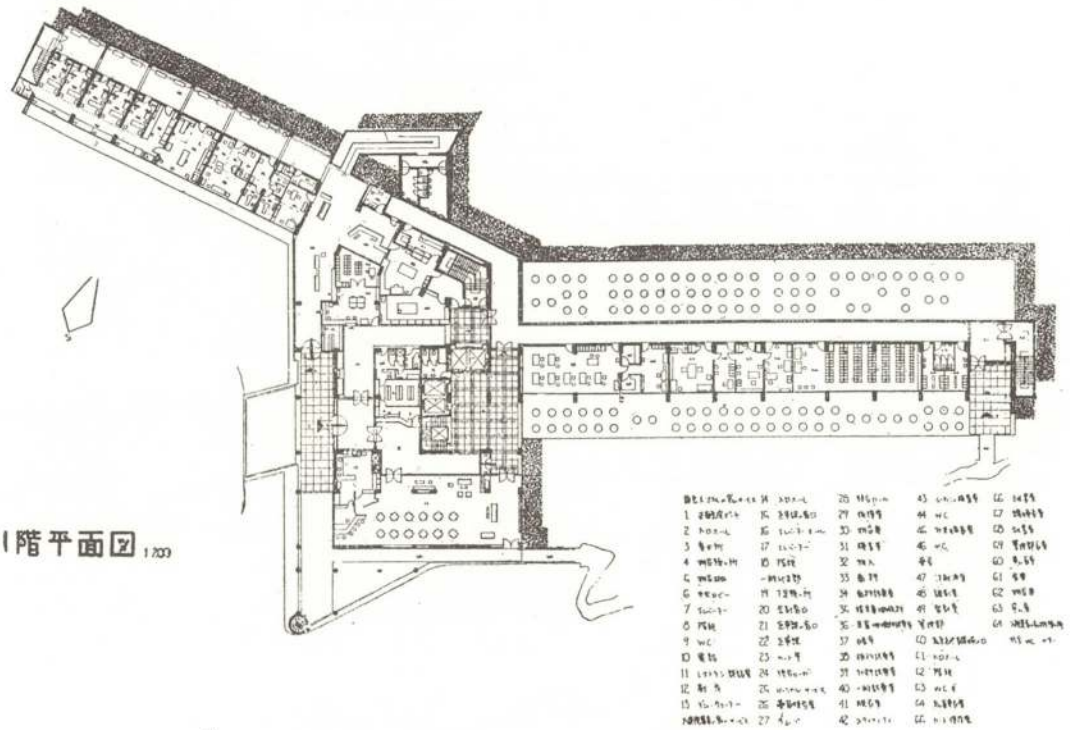
西南立面図及A-A断面図 1:100

3. 敷地及び全体計画 ——此の計画に適当なるものとして，東京都心に割合近く且勝れた風光と気候とに恵まれている現国立熱海病院の敷地約10万坪を採用することにした。同地は東南を相模湾に臨むいくつかの段地よりなり，それらの高低差はかなりはげしい為に建物間の水平交通は困難を余儀なくされる。従つて本計画では，看護婦宿舎，看護学院，職員宿舎及び中央汽罐室を除く一切の施設はこれを地下1階・地上9階よりなる単一ブロックの本館に収め，エレベーターによる垂直交通によつて処理することにした。更に此の建物の高層化は，医療の面（手術グループ，診療部等）に於いても管理やサービス（受付事務，調理場，倉庫，洗濯場，薬局，冷暖房，給排水，配電等）に於いても，共通サービスの集中化が可能になる為に，医療上の運営と一般経営とはこの為により簡素化され容易になるであろう。

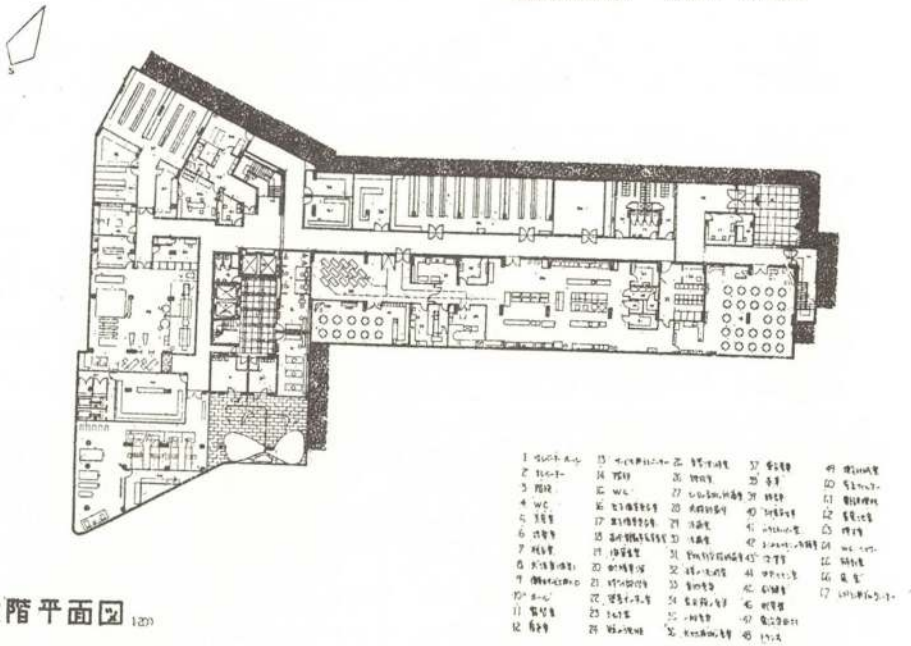
4. 内 容 と 規 模 ——前記の主旨に則り，ロビテルは次の如き内容と規模とを持つ。

1. 完備せる一般病棟。本計画の性質上一人或は二人病室より成り，収容数は160床。
2. 現国立熱海病院としての機能をも保つ為の施療病棟80床。これは六人病室を主体とし，約一割の重患室を持つ。
3. 総合病院としての機能を遂行する為に充実せられた手術・分娩グループX，線・物療部，研究部等。
4. 現国立熱海病院としての機能を保つ為の一般外来部。
5. 患者の特別の要求に応える為に，オープン・システムの病院としての特徴たる特別外来部。
6. 静かな保養を欲する健康人，のんびりと治療を受けたいと思う外来患者，諸外国より来る患者の附添人，遠くより招かれた医師等の為に当てられる貸室。一人用，二人用，三人用貸室を夫々32，16，8室とし，これにより80人余の貸室利用者を収容することが出来る。
7. ホテルとしての機能を満す為の，落着いたレストラン，談話室，理髪・美容部，温泉。
8. 或いは軽症患者及びホテル利用者の為のレクリエイションに，或いは看護婦の為の集合・講習に，或いは一般人に対する教育用等の為に用いらるべき，約150人を収容するオーディトリアム。

上記の如き内容と規模を持つロビテル本館は延坪約3500坪の大きさを有する。



I階平面図 1/200



II階平面図 1/200

5. 動　線

——ロビテルに於いては人と物とによる複雑な動線の処理は特に注意されなければならない。動線の無意味な交叉はこれを避け，建物内をしてお互いに煩わされることのない快い空間を構成しなければならないからである。本計画に於いては次の様な処理がなされる。

一般外来患者は正面玄関ポーチより直ちに医事課の窓口のある受付ホールに入り，其処から薬局の待合ホールの横を通つて一般外来部の待合廊下に至る。

入院患者は正面玄関ホールから医事課の窓口のある入院待合ホールに入り，浴室，私服預り所等のある入院患者サービス部を経て入院患者用エレベーター・ホールに至り所定の各階に昇る。

ホテル利用者，訪問者，見舞人及び特別外来患者は正面玄関ホールより受付を経，レストランの横を通つて広く気持のよいエレベータ・ホールに至り各階に昇る。



2階平面図

医師，職員，及び看護婦は裏玄関より入り，夫々の更衣室を経て或いは医局に，或いは管理部に或いは各仕事場に向う。

傭員はサービス・ヤードより地階入口に入り，監督事務室の前を通り，更衣室を経て各持場につく。

食糧品，薬品，器具，消耗品等は地階入口より入れられ，監督事務室の前を通つて各倉庫に運ばれる。

屍体はサービス用エレベーターによつて地階に降され，解剖室，屍室等を経，中央廊下を通つて地階入口より患者の目に殆ど触れることなしに運び出される。

以上の出入関係の動線の他に食事サービス等の建物内動線も最も効果的になされる様に計画した。



宮武保義

略歴

昭和4年大阪に生れる。昭和27年東京大学工学部建築学科を卒業し、直ちに清水建設株式会社本社設計部に入る。昨年6月、同社大阪支店に転勤、現在に至る。

主要作品及計画

小川氏邸（1950—東京・青山）

国立京都病院計画案（1951—京都・山科）

ロビテル（熱海病院ホテル計画案）（1952—熱海）

M鉱山附属病院計画案（1952—九州）

箱根山のホテル計画案（1952—箱根・芦の湖畔）

第一生命・姫路支部増築（1953—姫路）

丸一紡績・大阪支店（1954—大阪・瓦町）〔目下施工中〕

6. 機能の集中化

——動線の問題と共に，諸種の施設をその機能に基づいて集中させておくことは必要なことだと思われる。

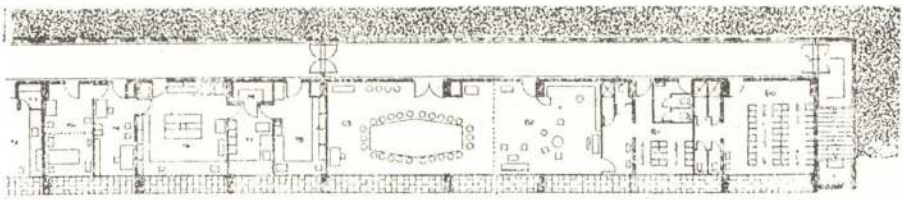
本計画に於いては，本館の2階はロビテルの心臓部として，手術・分娩グループ，X線・物療部，サプライセンター，血液銀行，研究部が夫々の目的に応じて集められ，配置されている。特にサプライセンターは手術・分娩グループの入口にあると共に，サービス用エレベーターに近く，最も重要なる位置が与えられている。

更に本館の1階には，管理部を集めて各種連絡，事務に便ならしめ，地階にはサービス部を集中させて，サービスの円滑と自由とを計つた。

7. 一般病棟

——4階から7階に亘る一般病棟は何と云つても本計画の中枢であり，従つて設計の重点も此処に置かれた。各病棟は夫々20床よりなる二つの看護ユニットより成り各階共複雑な患者層及び見舞人層を処理する為に階のコントロールのポストを各階の入口に設け，看護婦ステイション及び作業室等は各看護ユニットの中央に配することにした。この為に，これらの施設より病室えの看護婦の動線は最長30mに切りつめることが出来る。病棟外えの連絡頻度は，看護婦の一日中に於ける病棟内での作業量に比べて非常に僅かなものであり，従つてこの様に看護婦の為の施設を看護ユニットの中央に配することは，看護婦の作業能率を大いに増加せしめるであろう。

エレベーター，配膳室等の共同施設は各階の中央に配したが，エレベーター・ホールによつて病棟廊下より切り離し，これら騒音源より出来得る限り病室を保護する様に努めた。

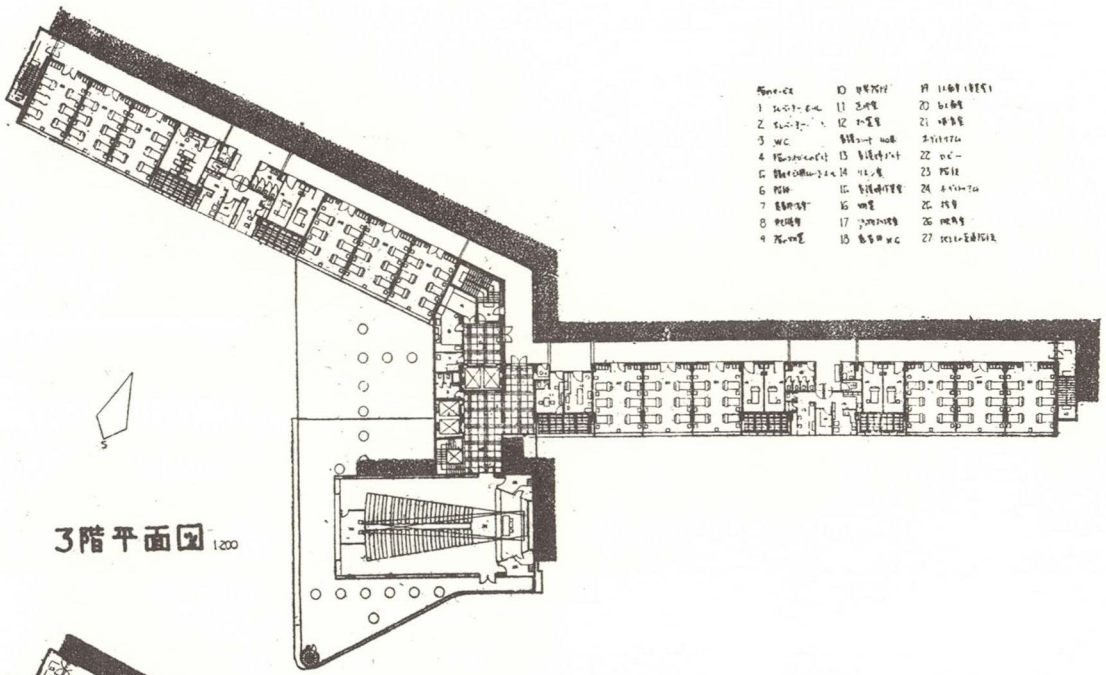


各病室にはその前面に縦ルーバーによつてプライヴァシーを保たせたバルコニーを設けた。これは症状の重いものには明る過ぎずに落着いた病室を作らせることになり，亦軽症の者には快適な屋外生活を許すであろう。

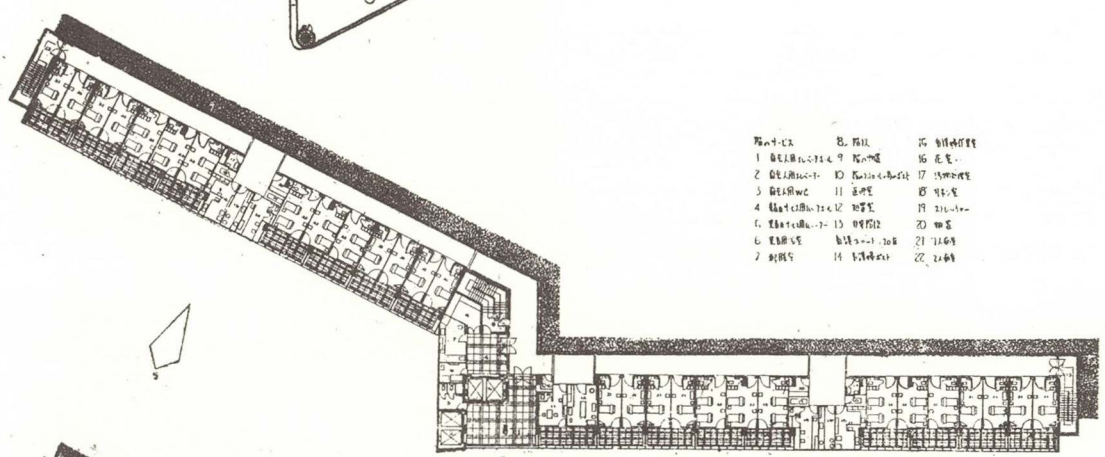
（因みに，此のロビテルには原則として長期の結核患者は収容されない筈である。）

すいせんのことば

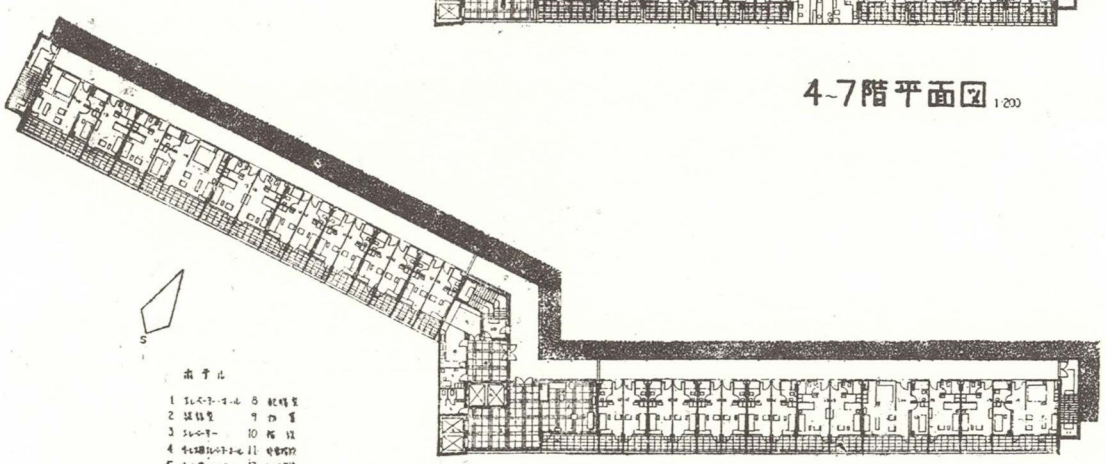
濁流に流されず情流に呼吸するセンスを感じ敢えてすいせんする次第です。（木村精一）



3階平面図 1:200



4~7階平面図 1:200



8,9階平面図 1:400

〔建築世代〕推せんの弁

小　山　連　一



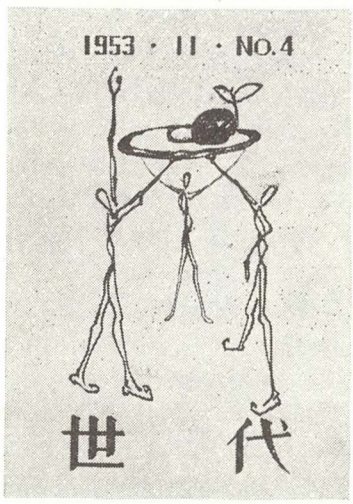
小　山　連　一

小林章：「新しい世代の為に」並びに，小林盛太：「新現実主義への試み」（「世代」No. 4 収録）の2評論を推せんとせるに際して2君の所属する「建築世代」を紹介したいと思う。われわれ「建築世代同人」の年令はもう4才になつてしまつた。新日本建築家集団を母胎として在東京の各大学、工専の学生会員で組織した新日本建築家集団学生班連絡会議（1949年発足）のレギュラーがそのまま移向したのがわが「建築世代」である。1949年秋の同会議が主催した日本建築運動講座がわれわれ「建築世代」の自然発生的な結束の端緒となつたらしく思う。

当時は何ずれも学生として同会議を運営し「建築世代同人」と名乗つたのは1950年11月のことであつた。機関誌「建築世代」（謄写刷A5版）を3号まで発行した時，同人の主体が卒業となり，社会に進出し，機関誌の発行は中断され，各人の連絡会合のみが細々と続けられた。「建築への正しい認識を同世代人の協力によつて育成し，之を実践する」と叫び，建築実践にあり勝ちな諦観，怠惰の排除を主張した。建築への情熱，意欲，責任等は建築社会人として誰でもに課せられた任務であり，悦びであろうに——徒らに社会の矛盾や各職域に於ける青年らしいジレンマから逃避する態度を批判反省しつつ，自己の所属するゼネレーションを分析して正しい自己の歩みを求めるものでもあつた。

昨今の復古的時流が各界各層を風靡し始めているが，われわれの地味な歩みが夫々の職域に根を据え，自己の場を見出し，この2年余の空白から立上つたのは昨年11月である。「世代」第4号（謄写刷B5版）を復刊し，働く人々を対象とした評論活動を提示する迄に至つた。本年に入り同人組織を会員組織に改め数人の同人が30名の会員に膨脹し，毎週1回の共同研究組織を完備し「台所の研究」（単行本発行のため）と「住宅の研究」を併続している。近々「台所の研究」も整理期に入り，10月には東京に於いてグループ展を計画中とのことである。又最近では建築家層の横の連繋を提唱し建築研究団体連絡会結成に活動する他，ローマ国際建築学生会議や国会図書館著作権擁護運動にも団体として参加した。又会員の活動も同人時代から拾うと第1回建築学会競技設計に入選者2名，下関競技設計には3等案を，更に1昨年の建築協会主催の「新時代の小住宅」設計競技にも参加し，1等案に当選した。その他10数回の競技に入選案を送つて来た。更に評論及び作品については「建築世代」の発行の他に新建築，建設情報並びに2，3の婦人雑誌に多く投稿し，現在に至つている。

同人当時からの主なる在京会員は次の各君で何れも1926～28年生れの世代である。



建築世代機関誌第4号

小　林　　章（日　大　卒，現在フリー，元清水建設 KK）
小 林 盛 太（横浜工専卒，中村登一設計事務所所員）
新 井 義 昭（早　大　卒，桜井省吾設計事務所所員）
稲 田 尚 之（芸　大　卒，遠藤雄二設計事務所所員）
田 辺 和 雄（日　大　卒，東京都建築局指導課）
厚 美 利 正（小石川工業卒，東京建物，建築課）
佐 藤 正 知（日　大　卒，依田設計事務所所員）

なお学生班会議当時から活動した足立和夫（飯田長姫高校教官）は私と同時に日大を卒業し夫々東京を離れたので間接的には「世代」の活動を冬眠せしめたかも知れないが，この冬眠が今日の開花を約しての結果であつて見れば悦ばしい限りである。当時私は学生班会議の責任者から「世代」主幹に推されたまま，東京を離れ関西に来てしまつた現在は法隆寺金堂修理の一員に加わつている。次に推せんする論者小林章君は現在「世代」の幹事長であり，小林盛太君は「世代」の編集者である。

追記，なお「世代建築」の事務局は東京都杉並区永福町339小林章方である。

新しい世代の為に

1 新しい芽生え
2 新たなる課題
3 近代主義の克服
4 日本の歌声を
5 今や実践の時に

小　林　章



小　林　章

1. 新しい芽生え

「建築世代について」：現在建築世代グループは一つの共同研究会と一つの「建築世代」（評論雑誌）を持つています。そしてようやく，現在の建築団体としての在り方と方向を探り当てようとしているところでありますが，しかし振り返つてみると，ここまで来る道程は決して安易な道でなく長い長い道であり，また殊に設計事務所や請負の現場等に働く若い人々で構成されているこのグループが，一枚の原稿を書く事，一冊の雑誌を出す事すら，時間的に無理な事情を乗り越え，1950年の結成当時より今日迄の5年を歩み続けた事を思う時，同じ世代の人々で「勉強したい」「話し合いたい」「助け合いたい」と思つている多くの人々の為に，建築世代の歩んだ道，考えて来た事又やろうとしている事をお話して何等かの参考にして戴きたいと思つています。但し，此の論文は私見であつて「建築世代」全体の声を代表しているものではない事をお断りして置きます。

このグループは当時の NAU（新日本建築家集団）をその母体として生れました。当時はそのほとんどが東大1工・2工・日大・美校・早稲田・明大等の建築科の学生で，それ以来，雑誌・ニュースの発行，見学会・討論会等の活潑な行動を展開させて来ましたしかし1953年頃から我々の目が日本の遅れた近代性等の社会に対する批判に向けられ始め，従つて発行している雑誌の内容も評論が重要視されて来るようになり，それ迄散発的に取り上げられて来た問題も一つのテーマを集中的に共同で論じ合うという事の為に特集号形態が取られ始めました。こうして私達は狭い個人的経験と考えから，より広い社会の観察へと動いていきました。現在では「技術について」「評論活動について」の特集を終え，今や「住宅問題」「我々の働く職場（仕事）について」特集も企画されるに至つております。又今年度より会員の質をより高く，技術を更に良く，問題の所在をより明らかに，というスローガンのもとに共同研究会が毎週1回もたれ始めました。しかし問題は決して簡単にはいきませんでした。何回もの意見の相違と研究活動をする時間を生み出す為の生活条件の悪さの故に，計画は立てられても実行の方は遅々として進みませんでした。例えばA氏は地方在住のT氏と共同で東京に住宅を求めるべく努力をされ，先づ生活の安定と協力に依つて此の研究活動されようとしました。このような例は他にもあり，我々は研究会を開く前に先づ各人の生活の隘路を解決してゆかねばなりませんでした。又一方我々は此の敗戦後の混乱と共に生き抜く事の胸苦しさを味わつて来ました。それは我々の建築理論のあり方・方向性に他なりません。

「新しい世代―その特質と悩み」：こうして現在我々のグループは少数ながら日本に於ける建築諸問題点が何処にあり，そしてどうしたら良いかを考えあおうという最も基本的なスローガンのもとに結集しています。そこには新しい時代が息吹き始め，明らかに一つの世代を築いています。そこには30代の人達とは何か深い断絶を感じさせるものを持つています。良きにつけ悪きにつけ我々世代は戦争と云う谷間とそれに続く重い社会の絆から解放せられた時代をくぐり抜け，それ等が何を意味したかを深く自分の主体的な問題として考えざるを得ない立場に追い込まれている現在を，最も精神的に強い影響として受けております。それが私達をNAU にそして世代に結束させた外的な力なのであります。しかも私達の世代の特質は更に建築的には戦後の民族主義，社会主義的思想の世界的高まりと共に，一方アメリカ文明殊にアメリカ的機能主義又は技術至上主義的建築思潮の影響を強く受けています。この近代主義的な洗礼と社会主義的良心の間に立つて我々の仕事の上にも何か不安を投げかけています。「建築世代」の弱さもそこにある。新しい世代の悩みも又そこにある（いやそれは日本の姿なのかもしれませんが）。しかし現在我々は此の白い厚き壁を乗り越えるべく努力をし続けてゆかねばならないし，乗り越えて行くでありましょう。

「前進する為の3つの前提」：さて我々は其の為に先づ現在の建築諸問題点とそのもたらされている原因が何であるかの認識と分析から始まらなければなりますまいが，又同時に志を同じくする人々に対する呼びかけの運動も展開されなければならないと思つています。「建築世代」もその為に先づ我々自身から歓声を上げてゆこうと（即ち評論活動を起してゆく事）していますが，しかし此の運動の展開は現在の複雑な世相と時代の流れの前にそうたやすく効果の上る筈のものではなく伸び悩みの状態であります。しかし私は「建築世代」内部にもその原因の一端があるように思います。その一つは近代主義の偏向という事です。そこで私はこれからの新しい世代の間に，そして前進するその前進条件として，**「新たなる課題」**と題して建築運動の反省と現状分析を，**「近代主義の克服」**として観念的な近代建築思想の評価を，**「日本の歌声を」**で戦後行なわれた評論と建築史方法論の諸論争点の批判を，そして最後に**「実践活動の展開」**について私の考えている事を簡単に述べてみることにします。

2. 新たなる課題

「建築運動の反省―特質―課題」

西欧に於ける建築運動の反映は，日本の特殊な社会形態下に於て独得な型で反映発展せざるを得なかつた。分離派は近代的自我意識を始めて日本の建築にも植えつけたが，それは芸術至上主義的なものとしてしか現われなかつた。こうして日本工作文化連盟に至る諸団体に依り20世紀前半は代表され，戦前の建築運動のほとんどすべてが内外の社会的重圧によつて何等の積極的仕事をせず，二，三年で消滅し，昭和13年頃より敗戦迄空白時代が続き，戦後は先ず諸民主的建築団体の合同したNAUに依つて始まる。だが1948年以後，米国の占領政策転換が始まると共に，建築運動も新しい動きと変質を迫られそれは遂にあの未曽有の結集力を持つたNAUに依つても乗り切れなかつたばかりか，1950年のレッドパージの嵐によつて自然崩解及び分解の状態に陥り，多くの人々が去ると，そこにはもう幾つかの全く新しい芽が萠え立つていた。（ただし，関西ではNAUの組織はある）。それは農村建築研究会（前NAU農村建築研究会）事務所懇談会（前NAU理論・デザイン部会）建築世代（前NAU学生班連絡会議・デザイン部会）等であつた。NAUの功罪をのべるなら，功の方はこのような戦後に於ける新しい世代の担い手をそこに育て上げた点であろう。そしてこれを境とし，戦前と戦後の建築運動はその指導層の世代と内容をはつきり二分しているのである。今年3月結成された建築研究団体連絡会（略称・建連）（註1）はその代表的なものと云えよう。このように現在の運動建築は世代の更新を行いながら戦前・戦後の建築運動が内包している「脆弱点」と，今日の客観情勢の変化に依つてもたらされた新しい課題を担つている。前者については絹谷祐規氏が本誌（1953―8「建築運動の変せんと新しい建築運動」）に於て次の如く述べていられる。建築運動の「特質」は〃政府の反動政策が進み民主主義団体に直接間接の攻撃が加えられる様になると事情は変る。活動家は職場から追出され，サークル活動は衰微して来る。そして広汎な大衆団体ではなくなつて来る。此の事は戦前にも見られた様に，技術インテリゲンチャが弾圧を過大に評価しやすい事，帰るべき職場を持つている事，民主的協同作業に対する未熟と，それに対する評価の不充分な事に依つて生ずる脆弱性なのである〃と述べている（傍線筆者）。私はこの他の誤謬として今日迄の建築運動が「労働者」としてのはつきりした意識を持つた「階層」の人々を中心とするより，先述した様な脆弱点を持つ「建築アカデミー層」にその「理論的・実践的指導権」を渡してしまいがちであつた事（この原因は色々あるが），又従つて広い階層を包含する大衆活動と云うよりも研究活動が主になつている事が建築活動を僅かな時期をもつて消滅させてしまつた原因であろう。従つて今日我々が新しい呼び掛けをもつて運動を展開しようとする時，此の歴史的教訓は何時も反省し学んでゆかねばならぬ事であり，又此の本質を洞察し見抜いてゆく事を忘れてはならないと思つている。更にもう一歩進んで，此の建築運動の歴史は我々の計画の間に常に研究されていなければならない課題であると思つている。又これと併せ建築運動の客観情勢は戦前とは変つて来て居り，此の事の正しい「評価」と「分析」なしには正しい建築運動もなされ得ない事であると思つている。

そこで私は現在の最も基本的な事柄について私見を述べてみたいと思います。

「3つの基本的事柄」

今日我が国の政治活動・経済・文化の社会的基盤は3つの大きな基礎的条件の上に成立している。3つの基礎的条件とは，「半植民地性」「半封建性」「半近代性」がそれである。従つて我が国の「政治形態及びその性格」に半植民地的政治形態・半封建的政治形態・半近代的政治形態であり，「経済的」には半植民地的経済・半封建的経済・半近代的経済である。こうして建築の分野に於てもアメリカ植民地的デザインの氾乱や中小設計事務所の米軍向仕事への依存，住宅の慢性的不足と不急ビルのブームとなつて現われ，軍需予算は平和的産業の近

代化をさまたげている。これらの事柄は実は複雑な形で互にからみ合つており，ある事柄は他を条件ずけ規定ずけ，更にこの事は第3の事柄に及ぶというように日本の政治・経済・文化そして建築産業をも，その下部組織の面から形態ずけている。そして大切な事はこの3つの基礎的条件が，それぞれ利害的な矛盾対立を持つていながら結ばれている事である。先に述べた如く「半植民地的軍事隷属化」が建築産業の近代化を遅らせている面を含みつつ，「国際独占資本」と「買弁独占資本」と，投資や技術提携を通じて固く結びついている。此の事は「資本主義講座」（4・5巻）やマーク・ゲインの「ニッポン日記」を読むと良くわかる。こうして互に対立矛盾を持ちつつ結ばれている「3つの基礎的事柄」は更に重要な事に其の1つ1つの中にも対立する矛盾因子を「内包」している事がある。半植民地的隷属化はアメリカと日本の民族的自立の戦いの矛盾対立をその中に含み，半封建的形態はその中に天皇制や資本家層地主を含む封建性と大衆の間の矛盾対立を含み，半近代性の中には日本の経済的な又技術的な遅れを示す手工業の存在と近代工業の高度化への要求の矛盾対立を含んでいる。こうした客観情勢は建築運動にも新しい課題とあり方の検討を迫つているが，戦前の建築運動と異なる事は，この日本の半植民地性と半封建性の中で建築を近代生産組織の上にのせ，又大衆の間の建築に奉仕しなければならない困難な仕事と，又その為に広い建築家の階層と大衆を含めた国民的建築運動の展開を要求しているといわなければならない。

3. 近代主義の克服

現在日本に於ける近代主義の実践者・指導者である前川国男氏は，次の様に言われた。〃我々は先づ何より建築を近代工業組織の上に乗せる事，つまり技術諸問題を通じてのデザインに努力しなければならない。之をしない限り，いつまで経つても日本の近代建築は誤間化しを続けるだけで「ほんもの」になるときが来ないであろう〃（1951—5 建築雑誌）この言葉は同氏が旧師ル・コルビュジエから引き継いだ機能主義的構成派の日本的表現であつて，これは更に丹下健三氏に引きつがれる。今之等を正統派的機能主義と呼んで置くと，之に対して建築の社会性を強く感識する池辺氏は更に新しい世代を代表している。又，吉坂隆正氏はその中間的な処で苦しんでいられる。クリスチャン的世代を代表しているかの様に思われる。この様に近代主義及び正統派的機能主義とその克服は現在様々な形で現われているが，新しい世代は此等の次の時代を担うであろうと目されている建築層の人々を痛ましい近代主義の十字架上に横たわるキリストになぞらえている。それは近代主義が個人救済の道具としか考えられていないからである。嘘と思うなら次の一連の論文を読むと良い。池辺氏の「現代建築家の選ぶ道」（NAUM 1号）及諸雑誌に発表されたデザイン論。吉坂氏の「創る事のきびしさ」（1954—1建築雑誌）「思潮」（1954—3 建築雑誌）等はそこに近代文明の重圧の下に方向性を見出さうとする「うろうろ」歩きの痛ましい魂の遍歴がみられる。それが池辺氏をして〃デザインは正直であらねばならない〃（国際建築）と叫ばしめ，吉坂氏をして〃忠孝や義理人情をいいもの〃とする人々と〃組合の運動を当然の事とし，生活権擁護を唱える〃人々との間に立つて「キョロキョロ」させ〃若い人の様に割り割つた考え方や行動をしたいものだ（「思潮」）」と呟かせるのである。吉坂氏は同じ「思潮」の中で国会図書館競技設計著作権擁護運動があれ程大きな問題に発展するとは思わなかつたと述べられている。いかに働く人々の力の結集が大きいものであるかをその運動を通じて知られたと思う。このように大衆のエネルギーは，それが正しいものであるなら，又実感として納得できる問題なら大きな力と結集しようとしているのである。個人的なイズムより広い階層の上に立つ問題の解決へ移行している。私達は近代主義が西欧から日本に影響移植された所から多くのその信奉者達の目が足元を見る事を忘れて大空に夢と幻を画く通弊を現出せしめたと思つている。その日本の現実や生産組織から浮き上つたイズムが実は○○建築思想の日本版近代主義の本当の姿であつたのではなかろうか。アメリカ人やヨーロッパ人の頭で日本を見る事の危険性は我々の中から追放されなければならない問題なのである。

4. 日本の歌声を

では，戦後よりこの10年近くになる今日迄，果して近代主義思想のこの側面は清算されたであろうか。この手掛として戦後行なわれた幾つかの重要な近代建築思想と建築史方法論に関する論争がみられるので今此等について簡単に触れてみる事にする。

さて戦後の建築史方法論及び建築思潮をめぐる論文・批評は大雑把に分けると3つのケースに分けられる。第1のケースは浜口隆一氏の「ヒューマニズムの建築」に始つて建築新聞紙上で図師嘉彦氏と近代建築の解釈をめぐる論争となり，神代雄一郎氏が之につき第3者的立場に立つて綜合的な批評を加えられた幾つかの諸論文。（註1）

第2のケースは始め関野克氏が「建築雑誌」上に「登呂遺跡と建築史の反省」を寄せ〃様式史が建築史の墓場〃であると言われ，技術史的立場を強調された事に端を

発し，井上充夫氏が様式史を擁護する論文をかかげ，之に生産史（唯物史観に立つ）の立場に立つ原沢東吾氏が加わり，ここに建築史の技術史・様式史・生産史を交えた3者3様の方法論が展開された。我が国の神話的日本史の崩壊期を背景として行なわれた此の論争は，戦後に於て最も大きな学問的反省が加えられた良心的論争として注目された。（註 3）

第3のケースは，長い間の沈黙状態に陥つていた建築界に入つて評論の分野に歌声を上げ始めた最も新しい注目すべき論文群で，先づ「建築の伝統と近代主義」としてレーヴァイの論文が美術批評（1953—10）に紹介された事に始り，浜口氏等が建築学会の研究発表に「東欧諸国に於けるソシアリスト・レアレズムとモダニストの論争」として取り上げ，このハンガリーの機能主義を信奉するマテヨールと，之を排撃するレーヴァイを引用しつつ分析された。此等は主に「美術評論」紙上に多くの諸論文が掲載された。（註 4）

此等の諸ケースは取り上げている問題や起つた時期こそ異なつているが，現在のそれぞれの人の生きるイデオロギーの相違から起つてくると云う一連の繋りを持つている。1・2ケースは1947年～1950年にかけ，3ケースは1953年～現在にかけて起り，1・3ケースは主として建築思潮に2ケースは建築史に関する論争であつた。面白い事にはこのいずれのケースにも唯物論的立場に立つ人々が強力な論陣を張つている事で，今これを唯物論的立場に立つものと，しからざるものとに分けて観察すると，次の如き共通の性格がうかがわれる。即ち唯物論的立場に立つ理論の欠点は，内容的には戦前の我が国，唯物論及史的唯物論の影響を多分に受け，機械主義的・教条主義的である。従つて様式史を焼き直した公式唯物史とか，こじつけ理論や，正しい評価のなされていない評論がみられ，その事は我が国の特種な近代の移行の上に成り立つ近代建築の成立分野の評価に顕著に現われて来ている。又外的には実践的課題が置き忘れられている事が此の分野での観念化を増大させている。又第2ケースの如く人間の精神的芸術活動の主体的契機の等閑視が芸術分野の実証的な研究の軽視と遅れをもたらし，之が近代主義的又様式史的立場に立つ人々から鋭く指摘されている事も反省しなければなるまい。

又一方近代主義的立場に立つ論は，なにより社会的な視野の狭さと体係的理論に欠け，日本の現実から，とかく浮いた観念的近代主義に陥りがちであつた。

このように戦後この方，行なわれた主要なものを取り上げても唯物論側ではドグマに落込み，近代主義的立場の側は観念化し，未だ日本の土壌に育つた歌声が上つていないかの様に思える。この観念的公式化は殊に建築評論の分野の低調さと相まつて，建築と云うものの大衆啓蒙活動と，その正しい認識をさまげている。そこが我々の云う清らかな日本の歌を，そして正しい評論を皆で歌い上げてゆこうと呼ぶ所以なのである。

5. 今や実践の時に
——国民的規模を持つ建築運動の提唱——

私は先に建築運動の内部に持つ弱点とその克服及び国民的な規模を持つ建築運動の展開の必要性又日本の土壌に育つた建築評論の提唱をした。今日尚300万戸の住宅不足と聞く時，此の問題は住宅問題を核とした国民的基盤を持つ建築運動と，建築家層の啓蒙的評論活動の活潑化を提出する。その前提として，もつと多くの建築家が自己の仕事のことについて社会に発言し，論じ合う事が行なわれても良いのではないかと思つている。その為に先づ我々若い世代から言いたい事，思つている事を大胆に発言し，又他の世界でどんな事が行なわれているかについてももつと広い目を向けなければならない。若い世代の人々よ，

大きな声で歌声を上げてゆこうではないか
日本の歌を！

（註 1）1954年結成された建築研究団体連絡会は，その傘下に建築世代・農村建築研究会・LV・事務所員懇談会・PODOKO・火曜会・建築研究会・ソヴェット建築研究会等の関東の有力な研究団体で結成された団体で，NAUなき後唯一つの民間建築研究団体の組織である。毎月1回ニュースの発行によつて横の連絡を強化しようとしている。

（註 2）　参照論文

「人民の建築としての近代建築」
浜口 隆一　建築新聞 1 号

「近代建築の理解に於ける浜口氏の誤謬について」
図師 嘉彦　〃 2 号

「近代建築の正しい理解の為に」
浜口 隆一　〃 3 号

（註 3）

「登呂遺跡と建築史の反省」
関野 克　建築雑誌 S22—10

「様式史の立場から」
井上 充夫　〃 S23— 4

「技術史・様式史・建築史」
原沢 東吾　〃 S23—11

「技術史と様式史」
井上 充夫　建築学研究 155 号

「建築史学の将来」
原沢 東吾　〃 155 号

（56頁へ続く）

建築の前進のために

“新現実主義への　み”（序論）

ネオ・レアリズム

小　林　盛　太



小林盛太

1. はじめに
2. われわれはどう生きるか
3. 良い建築はどうしたら出来るか
4. 建築理論（方法論）の必要
5. 新しいレアリズムのために
6. 近代建築と人間の解釈
7. 新現実主義への試み
8. むすび（建築家の歩む道）

1. はじめに

この小論の動機は筆者の「機能主義＋レアリズム→ネオ・レアリズム」に対する批判としてなされた小林章氏の「建築家とイズム」である。この二つの小論を読まれればその問題とする要旨がほぼ理解出来ると思うが，今ここで私が問題としている事は，それに対する反駁でもなければ批判でもない。勿論私としても，多少偏向を犯した個所もあるが（その点は充分自己批判しなければならない），何しろ短い誌面で充分説明が出来なかつた為，章氏の誤解を招いた様である。それで私の意図を汲み取つてもらう為に補足的な問題と共に，その本質を出来るだけ平易に論述して行きたいと思う。

2. われわれはどう生きるか？

生きる，と云う事に真に絶望している人，つまり自分の生命を今宵にも自ら絶とうとしている人には，この小論は無縁である。また社会生活を否定し，明日にも素裸で絶海の孤島に身をかくそうとする人にも用はない。しかし，その様な人々以外の人々にとつては，この試みに深い関心が払われて良いと思う。つまり人間が現実に生きている限り，それは生を肯定していることであり，その上又素裸で無人島に身をかくさない限り，その人生は必ず社会的なものであらざるを得ない。そして建築をその社会性と云う視角から観察することは誰しもが常に怠つてはならない事なのである。

映画「赤い靴」のヒロインであるバレリーナは「何故踊るか？」と問われた時，次のように反問しました。「では何故生きるんですの」と生きている時代・社会も全然異なるわれわれであるが，何故建築をやるかと問われれば，われわれも又当然彼女の一語を答える他はない建築イコールわれわれなのだ。われわれは今日に生き，現に生活している。このレアリティはわれわれにとつて，ほぼ絶対的であつて，単なる逃避や妥協は許されない。われわれは時代の苦悩の渦中にあつて人間を縛ろうとするものへの反逆・抵抗・それらの世界観を通じて人間の真理探究のために総てを結集しなくてはならない。だから，われわれの建築行為が単なる「面白いから」とか「仕様がないから」とかの域を低迷している限り，われわれの内部に現われる矛盾を突き破ることは出来ないのである。

建築の近代主義的傾向は建築を商品として発達させ，その結果，建築を公衆からうばい，建築家を無力な孤独なものにしたが，建築家の意識の上では，そうした矛盾に対する抵抗が小市民的，個人的反時代性として現われることが多く，改革的に克服しようという傾向は必ずしも完全な理論的な形では現われなかつた。しかし現代は社会上の諸矛盾がすでにぎりぎりのところまで来ており，本当に時代に生きている建築家なら，自分の内部に現われる幾つもの矛盾から目をそらすことは殆んど不可能だろう。近代主義の克服がその矛盾と無関係にはあり得ないように，新しい建築がそうした矛盾の中からその克服として現われるのは当然なことなのである。

3. 良い建築はどうしたら出来るか？

この課題はわれわれにとつては非常に重大な問題である。にもかかわらず，今まで余りにも問題にされて来なかつた。この問題を簡単に述べる事は困難であるが，われわれの創作の「より処」として是非共明らかにしなければならぬ問題であろう。

われわれは毎日，良い建築を創りたいと努力している。だが一体良い建築とはどういう建築なのか，又どれが基準でどんな建築が良いと云えるのだろうか，と考えてみると実際迷わざるを得ない。というのは創作するための「より処」が建築家個人の造型的感覚とそれを可能にする構造・材料・技術の科学的処理にしか向けられてはいないからだ。しかし現実の生活では日本の建築家の大半はどうしたら人間らしい生活が出来るかというぎりぎりの問題に対決させられている。ますます貧困化する公衆とますます激しく競い合う独占資本同志の競争が生

み出す矛盾と混乱の中で，より良い建築を創ろうという理想は，実はより人間らしい生活を，という現実の経済条件下に従属せざるを得ない立場に置かれている。近代建築の指導建築家達の「建築は社会を構成する公衆に奉仕しなければならない」と云う合言葉は，決して多数の苦しんでいる公衆に向けられているのではなくて，その造型感覚は実は少数人の々の要求を満足し，その中で発展して来たのだという極めて明白な事実に帰する。近代建築の基礎は，このような矛盾と混乱の中に置かれている。しかもより良い建築と願うわれわれの純粋な希望は，正しい技術すらも身につける余裕を，生活の上からも仕事の上からも奪い去られている。「公衆に奉仕すべき建築」が実はそうでなくなつている。（勿論ここで云うのは建築家を含む人間社会の変革について強調しているのであつて，「公衆への奉仕」そのものの意味を否定するのではなく，むしろ現実の立場としてわれわれは大いに肯定し，その達成のための努力を惜んではならないのである。）

近以科学の尖端を行く理論物理学の発展は原爆となつて平和を乱し，人類破滅の誤れる道を辿らざるを得なくなつた今日，何よりもまず必要なのは公衆の幸福のための建築であり，公衆の生活を豊かにするための建築であろう。一切はそこに注がれなくてはならない。そしてその為には，より良い建築を創り出す技術と能力と経済的条件を如何につくるか。又その為にどのようにわれわれが行動し実践するか。これが現在われわれが当面する最も重要な問題なのである。

4. 建築理論（方法論）の必要

20世紀は不安と絶望の時代と云われる。戦争に破れ，これという身についた思想もなく，不安なデカダンスと絶望に明けくれる今日，当然今までの普遍絶対と思われて来たもの（歴史的権威）にわれわれは屈伏しようとは思わない。それを凝視し否定してそこに新しい真実の自己の立場を形成しなければならないのである。われわれにとつて如何に生きるかと云う現実の問題は，必然的に，われわれが如何に「より処」を求めるかと云う問題につながつて来る。建築家がせまい個人主義的な殻から抜け出して公衆の生活の中で人間性を抑圧するもろもろの障碍に抵抗的に対決する時必然的に人間的，社会的な理論を呼び起す。われわれは「建築は理論ではない」という言葉をを厭きるほど聞かされて来たが，いまや何らの理論を持たない建築が単なる遊戯か自瀆に過ぎないことを，われわれはもつと大胆に主張しなければならない。なぜならば方法論を重視すること，それの強調は，いくらし過ぎても行き過ぎることはない，と云える位，日本の建築家達は無方法，無原則に建築を創つて居り，まるで気まま気まぐれの行き当りばつたりの好みに任かせて建築を創つていると云えるからである。そしてこの場合，理論はわれわれにとつて「建築とは何か」と云う非常に難しい抽象的なものと別に，もつとわれわれの現実の必要に則したものとして考えねばならないのだ。つまりわれわれ建築家にとつて既存の建築理論は余りに粗野であるか，又は高踏的（学者としての理論或は翻訳的）であり，実際的つながりを求めるに困惑し，創造精神の根本に触れることが少なかつた。しかしわれわれは建築家の立場として，理論又は方法論の確立を切望している。理論は本来決して創作を縛るものでなく，あくまで知性の解放にあり，創作方法の洞察にある。従つて不徹底な理論への態度は，かえつて観念をドグマ化する。理論に於ける作家精神の追求と創造的方法論の探究こそ，明日の建築へ前進させる唯一の道ではなかろうか。

5. 新しいレアリズムのために

第2章で私は「われわれは現実に生きて居り，現実に生を肯定している」と述べた。実に現実こそわれわれの「より処」であり，出発点なのである。勿論このものの中には，ニヒリズムやデカダンスも混在している。しかしそれこそ現実ではないのか。われわれはまず現実を知らなければならない。現実的認識の中からのみ現実的生産は可能であるからである。現実に生きるものが現実を放棄し，現実から浮き上つてしまうならば，既に存在の意味を失うに外ならない。現実が現実を超えるのはよいとしても，現実を無視したり逃避するのは無意味である。むしろ，現実への倦くなき執拗な喰い下りの方の中にのみ，現実の生産が果されると云わねばならない。

レアリズムは決してどこにも止まり得ない。それは社会と共に変化発展する。矛盾とはAがありBあることではなく，Aの中のXとYが同時にあることである。進歩的エネルギーは，保守的温床と隣合つている。そして絶え間なく変動し，火花をちらして斗つている。われわれがとらえなければならないのは，その変動と斗いの法則である。

又現実の見る目の正確さということは，われわれにとつて最初の問題である。しかし現実から悲観材料ばかり取り出すことも，ある人々にとつては可能である。それればかりではなく，現実は苦しいものだ，それ以外ではない，という判断だつて出来る。レアリズムをクソ・レアリズムということで評し去ろうとする態度の中には，しばしば現実から否定的な結論だけを取り出すことによつて現実を拒否することの方が，より積極的な態度であるかの如く錯覚するような甘いすりかえさえも行われている。

現実が濁流のように渦巻いて，真相が底流にかくされ

ている今日，現実の要求は，もはや，破壊や分裂そのものでなく，行動を撰択する時期に来ている。

社会的理念のために，レアルな人間としての行動を営むことが，われわれの基礎になつて来るだろう。

われわれは現実の社会に強力な抵抗と主張を叩きつける道を見出すに違いない。なぜなら，厳しい近代の尖端が，日本の現実の中に生まれているのだから。

6. 近代建築と人間の解釈

浜口隆一氏の「機能主義とヒューマニズム」によれば，ヒューニズムとは人間の人間自身への愛情であり，人間性を抑圧するものから人間を解放し，人間性を豊かに美しく発展させようとするものである，と述べる。ここでわれわれにとつて問題になるのはヒューマニズムという，その「人間性」そのものの内容である。

まずヒューマニズムがはつきりとした思想として意識されたのは，ルネサンスからである。（第一段階）ルネサンス・ヒューマニズムは中世の宗教的禁欲主義による人間性の抑圧に反抗して，人間性を解放し，発展させるべく出現したものであり，その特質として文化至上主義的ヒューマニズムであつた。ところが人間の立場が強くなり，単に個人としての人間でなくて，社会と人間との関係が生じてくると，ヒューマニズムが第2の段階（社会的要素を混在した資本主義的ヒューマニズム）に移つて行く。これが現代のヒューマニズムである。ところが現在に於ては，ますます人間の力が大きくなり，多量の人間が問題になつて来ると，第3の段階（と云つて良いかわからないが，もつと発展した形）つまり人間と社会の問題は，社会の方が人間の上になつてくる。そして組織としての集団の形が個人よりもはるかに大きなウエイトを持つて来るようになる。これが現在のヒューマニズムである。

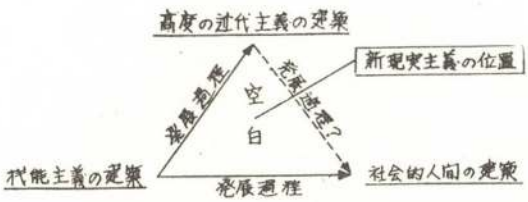
次に近代建築について考察して行こう。戦後はなばなしく展開された近代建築（機能主義建築）の理論活動の中で，その動きは未だはつきりした実践的結論を出さずに終つているが，結局のところ，次の二つの立場がある様に思われる。一つは近代建築を新しい建築と称し，機能主義の再確認という建築の近代主義的傾向であり，一つは反機能主義的な立場に立ち，近代建築（機能主義）は資本主義社会の建築である，として否定する見方である。前者は機能主義が技術的形式主義に走り，形態と内容が別物となつてしまつた現在，新たな可能性に満ちた内容を追求しなければならぬと主張し，その内容を人間性（人間の物理的・生理的・心理的要素をヒューマナイゼーションする）・風土性・有機性・環境性等とする。又後者は人間主義の正しい姿は，それを生産する社会体制の変革なしには有り得ないとし，「公衆の意義」「民衆の生活」あるいは「人間性」を主張し，民族主義的な立場（伝統の尊重）に根ざす様式を表明している。

さて，ここでわれわれの皮膚で問題を感じ，課題を考えて見よう。先ず第①に「人間の解釈」が問題になつて来る。私がここで主張したいのは，最近建築家の間でしばしば引き合いに出されて来る「人間」なるものの意味が極めて観念的・空想的にしか意識されていないことである。例えば「建築家となる前に人間でありたい」という様な非常に漠然としたアイマイな「人間」である。私はこの様な抽象的な「人間」を看板として用いる運動は，決してヒューマニステイックでないと考えている。われわれが問題とするのは，前述のヒューマニズムの第3段階に於ける人間，すなわち集団化の方向を指すものである。第②に前述した近代建築発展の二つの立場を別箇のものと切り放して考えずに，それら相互の発展過程として見ることである。つまり，近代建築に於ける生産体系（機械生産）が，現段階からより高次の段階へと発展する。その過渡的段階としてとらえる事である。そしてその為には，当然世界史的・人類史的な広い視野で，ものを考える事も必要となつて来るであろう。第③に近代建築を前進させるには，個人的な建築家・施主の頭の中でのヒューマニズムでなくて，すべて広義の公衆のためには，まず建築家自身が公衆とともに生活し，公衆の一人として公衆の生活の中に入り，公衆が何を苦しみ，何を望むか，と云うことを体得することである。

7. 新現実主義への試み

さて，われわれにとつて現在何が一番問題なのか。それは強力なイズムの提案である，われかれにとつて大切なことは，刻々変化する建築について，それを実践する最にもふさわしい理念の探究に努力することである。何故ならば，建築の永遠の本質というようなものは存在せず，空間的真理もあらゆる真理と同様に，一定の場所・時・技術水準等々に於て真理であり得るのであつて，理論は具体的な建築の例から絶えずつくられなければならないからである。

私はここに新現実主義（ネオ・レアリズム）の建築を提案する。機能主義の建築は前にも指摘した様に，技術的形式主義に走り，形態と内容を分離させてしまつた（これは設計の際の細密な研究過程の省略や，建築に於ける機能の軽視や，単純明快な建築表現の仕方の否定を意味しているのではない）。新現実主義の立場は《機能主義の段階から単なる延長としてでない（高度に発展した）近代主義建築の段階へ，そして又はその究極的理想としての社会的人間の建築の段階に到達する》。その過渡的段階としてとらえられるものであり（図示），その根



本的イズムは第5章で述べたレアリズムである。従つてこの提案は，近代建築の単なる新しい変り種を求めようとするイズムに対立する。新現実主義は公衆との結合の上に，その生活改革と平行して前進する。建築家が現実を直視し，現実との深いつながりの上に，日常生活の実践を通じて，このイズムは更に高められて行くであろう。そしてそこにこそわれわれ建築家の歩む道が開けて来るのである。

8. むすび（建築家の歩む道）

われわれは，現実の問題として如何なる道を歩んだらよいのか。池辺陽氏の「現代建築家のえらぶ道」を範例として考えてみよう。現代建築家のえらぶ道として，次の三つの道が考えられる。

(1) 建築芸術を守る道

今までの建築家としての立場を固守し，建築家の立場を主として造型芸術的面に還そうという伝統的・美的立場に立つもの。これは社会・技術の発展を否定しなければならず，従つて現実否定を結果する。大多数の建築家はこの範疇に属する。

(2) 建築家否定の道

現在の諸条件を明確に承認し，従来の建築家の立場を離れて，工学技術者として，社会の中に自分の立場を見出そうとするもの。理論的に最も正しい態度。

(3) 建築家を肯定して，現在の条件を解決しようとする道

現実を正しく認識しながらも，建築家としての立場を堅持し，仕事の上に新しい道を見出して行こうとするもので，非常に苦難に満ちた道。グロピウス等はこの道を進もうとする人達である。

そして（1）の道は勿論われわれにとつては問題にすることは出来ない。（2）の道を歩むには，社会の変革・技術の高度の進歩がなければならない。そして現実には，未だ諸条件は揃つていない。われわれのすべてがいま建築家を否定することは，あらゆる点から見て不可能であり，決して正しい事ではない。

(3) の道こそ最も苦難の多い道であるが，建築家はこの道を選ばなければならない。

私は最後に，今後われわれが目指さねばならない方向についてふれて見たい。それは建築家が公衆の一人として公衆との結びつきを求めて行かねばならない事である。（勿論この為には現実の問題としてルポタージュや実態調査等の正確な分析が必要であろう。）そしてこのような中でのみ公衆も前進し，同時に建築の質は高められ，同時に公衆と結びついた新しい時代の建築家が，正しく育成されて行くのではなかろうか。

(28.10.10)

参　考　文　献

機能主義とヒューマニズム	浜口隆一	PLAN, No. 1 MID編	昭 23— 2
社会意識の反映としての建築様式	本多修	NAUM, No. 1	昭 24— 6
現代建築家のえらぶ道	池辺陽	新日本建築家集団編	
ヒューマニズムの建築をめぐつて	NAU 歴史部会	NAUM, No. 2	昭 24— 1
最近の海外建築思潮	浜口隆一，津島次夫	国際建築	昭 25— 8
近代建築批判	西山卯三	国際建築	昭 26—12
建築の近代主義的傾向	稲垣栄三	建築雑誌	昭 27— 7
機能主義＋レアリズム→ネオ・レアリズム	筆者	建設情報	昭 27— 7
建築家とイズム	小林章	建築情報	昭 27— 9
建築の奇術と矛盾の建築	工藤重勝	建築事務所員懇会談 NEWS No. 3	昭 28— 1
建築の伝統と近代主義	レーヴァイ	美術批評	昭 29—10



近藤正志

略歴：

大正5年生。

昭和8年3月岡山県関西中学卒業。

昭和12年3月　芝浦工業専門学校建築科卒業。

昭和12年4月　大沢一郎建築事務所に入所。

〃　18年10月　村野建築事務所に入所現在に至る。

懐疑

いろいろの人が，月々の雑誌にいろいろのことをかいているのを見て，私はその勇敢な独断を平気で書けるものだと驚くばかりで，或はそれが正しいのかとついひきずられることすらあるように思います。

建築とはこういうものだと私たちよりか若い年代の人までが書いているのは全く驚異に等しい。それと同じくらいに雑誌は種々雑多の作品をのせていますが，これも私には驚異に等しい。時にはそれらに勇ましい進軍ラッパのような宣伝がついていてその主張以外は建築ではないような解説がのっています。それらはヨーロッパの人のかいた建築論を想起させます。率直にいつて，それらの半ば近くは真面目な批評や感動とは無関係にあるといえば僭越でありましょうか。人間はこのようにしてまで無反省に自己を主張し売り出さねばならぬものでありましょうか。またこのようにするのが人間の本性なのか知りませんがそうして自己宣伝することは人間の悲しむべき特性なのでしょうか。どうして人々は臆面もなく売名的にならねばならないのでしょうか。巧利的な行為は人間はどうしても必要なものなのでしょうか。それとも止むに止まれぬ心の奔流なのでありましょうか。それにしても知性はそれへのブレーキにならぬものでしょうか。ともあれ，それらの主張と表現との矛盾が目につくことは論外と今の所しておいても，少くもその主張や表現の個々について投げやりであつては勿論いけないばかりでなくて，それらは深い人間の思惟の結果でなくてはいけないように思います。

ずつと昔から私の感じるところでは，建築においては，天才とは架空の人物のように思えてならない。今の所，多くの良いものを見・読み・聞き・それらの上に激しい訓練が横たわり，その上にわづかな才能が徐々にきづかれるのではないかと思われます。その能力の継続の上にきずかれているものですから，一休みでもすれば崩れてゆくように思えます。作家はそのように自己の力の崩壊を見ない為には修練を連続させねばならないと思われます。

あらゆる真理の掴鑿と同じように，建築家にとつても，作品の形成は究極的な形に於ては永遠に不能にちがいないし，従つて出現する作品はそれへの道程の小さい発見の一つ一つにすぎないのでありましようから，それなりに許されて良いとは思いますが，それらが余りに低俗であり，且つ安易な独断であることは許されてはいけないように思います。例えば未だに合理主義について區々しくて生硬な展開が見られるのは悲しいばかりはないでしょうか。何が何に対して合理的かと云うことすら解決されないでいるように思われるからであります。物理的な公約数の完成すら永遠に不可能ではないかと思われるのに，尚合理主義がこの世に形成し得るという考え方は私には分らない。生理的な人間の構造が解明しても，その普偏的な公約数は依然として唯公約数にすぎないように思います。まして人間の心理的な推移や状態などについては計量的なデーターを作り上げることは不可能ではないでしょうか。といつて，それらに矛盾することが解決策であるというのではないのですが。

合理主義的な基盤の上に立たねばならぬことはいうまでもないが，人間生活は機械的に組み立てられていない為に，それだけに頼ることは出来ないと思えるからであります。合理主義は一つの悲願として許されるが，それは発展しなければいけないし，それに固着している姿はおかしいと思います。

またもう一つ合理主義建築論が侵している誤謬があるように思われます。それは合理的であるものは美しいということであります。そして逆に美しいものは合理的であるからだといいたいらしいのですが，美を意識してはもはや，合理主義ではないと私は考えます。何故ならば，美は理性と無関係にもありますし，美を意識して合理的であろうとすることは既成の宣伝されているもののそれから逸脱していますし，又既成概念のそれであれば何が何に対して合理的であるか分らないのに従つて美はさぐり出させるものでもないからです。又美が自然に導かれるものとは思えないのです。

美は左様に人間の努力の半面，いいかえれば理性のみにあるとはとうてい思えないからであります。

建築についても凡ゆる人間の他の仕事と同じように複雑な分らないものの上に流れ

近藤正志

すいせんのことば：

単独に作品としては申上ぐるものはありませんが，小生事務所に入所以来，既に10余年間専心設計に従事し，目下，弊事務所内部においてはその点で指導的地位にあり，私の作品の殆どの凡てに亘り協力してもらっておりますが，資質，技量とも優秀で，今後ますます精進して将来の大成に希望をもつております。これまで私の事務所から多数の優れた建築家が巣立ち，また現に多数の優秀な人達がおりますが，君のごときは恐らくそのうちで作家として最も優れたものの一人になるのではないかと思つております。私は切に君の今後における努力と健康を祈つております。

る営みのつづきではないでしょうか。

今まで私は建築の製作の基本的なありかたについて一つの疑問をかいてきましたが率直に今一つ頭にある分らないことは，だからといつて，建築家の個性の伸長の上に作品が形成されることが正しいかということであります。自らが使用し生活すると予想する上に設計されているのが事実といつてもよいと思いますが，私の考え方からすれば公約数的計量の不確な上に設計される合理主義的立場と同じように，その不確なものを補足するものとは僅かに個人の経験と感情をも含めた力量とにすぎませんが，これとてもとうてい社会の一般的要求に正しく答えたかどうか分らぬということであります。勿論，設計は現代社会に於てはクライアントの要求に従つていますが，只それであつてはクライアントだけの要求の満足であり，建築家の世界観の反映の場は閉ぢられてしまいます。又クライアントの要求は往々社会の発展と矛盾する場合もあるのでないかと考えられるからであります。

けれどもそのいづれであつても，個人としての建築家の活動が不確なものの連続であることに間違はないようであります。人間はいつも独りであり，遂に生理的にも心理的にも多数をまとめた一つであり得なく，人類的な意志を表現することは不可能なもののようであります。勿論グロピウスたちのT・A・C・の場合の様に集団としての建築家達が，個の働きの量の上にあろうと努力していることは衆知であり，それは尊敬すべき実験であり，他面建築制作における民主的な方法としてもすぐれて進歩的な態度でありますが，建築を要求する人間の生活感情量ははるかに多く，且つ質の異つていることは建築家集団においても人類的意志には遙かに遠いもののようであります。そうしますと建築家の個性の伸長は只他の芸術家のように画家が美しい画を書き詩人が人生について考えるのと同じ場合にのみ容認されるのではないでしょうか。

大変廻りくどい言い方で独善的な傾向の言い廻しになつたかと思われますが，私達建築家はつまり，美しい画や，家やホテルや工場などを作りたいにすぎないと思われます。正義派の旗幟を立てる事は余りにも数多い矛盾をはらみすぎ，誤謬をあまりにも自らに内蔵していて気恥しくないかといつた方が率直かもしれません。

まして建築とはこういうものだと論理的に展開する事は作品表現が，それと相反する場合には甚だ滑稽であり，又論理の解明は程遠い遙に永遠に人類の壊滅と等しいばかりに時の流れを必要とするもののように思えてなりません。只花々しい悲願としての場合のみ元気づけてくれるのであり，定着して形式化した主張や表現には魅力を感じないといつた方が正しいようであります。けれども又クラフトマンシップのみ依存することは危険なもののように思えます。それが良質の場合においても往々に近視眼的精巧さや低回趣味的雰囲気の中に没入してしまうように思えるからで，建築が他の芸術と等しく醇乎としたものに達するには，高い精神の訓練から浄化していかねばならぬように思えます。

話が大変おかしくなりますが，人が極端に非人間的な場におかれるとかえつて人間的な郷愁を感じるのはどういう事でしょうか。真夜中の静寂の中とか真昼の都会の雑踏は，或る程度私達の感情を遙なものに浮き上がらせるように思えます。

昔南方の島に行つた事がありますが，その時の或る日，日本の最南端という島のめまぐるしいばかり太陽の照り輝く白浜に只立つているだけで汗ばみながら茫々と拡がり太洋の風に聞き入つた事を忘れる事が出来ません。

孤絶感は人間の感情を遙なものに浮き上がらせる様に思えます。私はその感情が何処に行きつくものか知りませんし，私の場合それは一つの感動にすぎなくて流れて消えてしまいました。勿論孤絶感は特異な場にのみ経験し得るといつたものでなくて日常生活の端々にも見出されるものに違いないのでしょうが，芸術はそのような感動の確実な把握とそれにひそむ感情の練磨であり，それらが観念に浮き彫りのように打出されるものなのではないでしょうか。

建築の場合にも決してその範疇以外の物でなくて，単純な論理の筋書きを追つていけば達成し得られるといつたものでなく営々と積み重ねられる感情と智性の上に見出されると私は考えています。

建築に於ける構想力に就いて

森下祐良

太陽が光に依つて与えてくれる色彩を，此の国に於ては夏の高い湿度が不透明にしてしまうのでしようか，風土的に刺戟の少い我国の建築家はより独創ということに捉われてしまつて居るように思われてなりません。そして独創が稍々もすると他人の作品の形体の模倣だけに終つてしまう場合，自己えの反省より多く他人えの批判え眼が向けられてしまい勝ちであります。例えば，丹下健三氏の作品についてみても，広島の教会はマッシウ・ノヴイッキのを，東京都庁舎はスキッドモア・オーイング・メリルのヒルトン・ホテルを，松山体育館はオデールのシャーロットの講堂を模倣して居ると批難します。そして丹下氏の作品は外国作品の真似でありフォルムに捉われて居て機能や構造に対して忠実でないという言葉をときどき耳にするのですが，構想力の問題について考えてみると，丹下氏の作品は決してフォルムだけの模倣ではなく創造であることに間違はないのです。

構想力に就いては美術史上では確かギリシヤのフイロストラトスに依つて取りあげられたように記憶して居ります。絵画についての創造と模倣に就いて論じた「イマギネス」の中で次のように言つて居る言葉は注目しておかねばならないと思います。即ち「ファンタシア構想力とはミネシス模倣力より遙かに巧みな技術者である。模倣力はその見た所のものを芸術に於て描き出すことが出来る。ファンタシアはその見ないところのものを描き出す。何故ならそれは見るところのものからの類推に依つて想像するからである。」此には古代ギリシヤに於ける伝統的なミネシスの概念に対して全く新しいファンタシアの概念が明確な意識を以て説かれて居りますが，フイロストラストは必ずしも模倣を芸術に不必要なものと言つて居るのではなくて，むしろ私達が再現的想像力と呼ぶ所のものを模倣に於て認めて居るのです。更に「イマギネス」の中に於て再現的想像力には二つの場合があることを説いて居ます。即ち外部的（手に依れる）模倣と内部的（心に依れる）模倣なのであります。創造的構想力が創造に際して「実在するもの」即ち経験をたよりとして生れてくるものである以上，内部的模倣は知覚されるものの補充である点に於て，それは創造的構想力から区別することは出来ないと思うのです。

丹下氏の場合に於ける模倣は部内的模倣でありまして，オリジナルを外国作品の中から得たとしてもそれは知覚されるものの補充として自己の経験の中に消化されて行つたのですから，決して形体の外部的模倣ではない点に於て，氏の創造的構想力の働きとみてあやまりないと思うのです。機能分析に於ても明断でありフォルムに於ても原作より一段と優れて居る点に於て氏の構想力の偉大さを認めないわけにはゆかないのです。

丹下氏の構想力がフイロストラトスに於けるものとみるとき，この国の偉大な建築家の一人である村野藤吾氏の場合は，アリストテレスの意味に於けるファンタシアに依るように思われてなりません。即ち，丹下氏の作品がその最初のスケッチに於ける機能と表象の構想を完成された作品にまで持続けて表現して居るのに対して，村野氏の場合には機能がプランに統一された後により明確な形象として積み重ねられたデッサンの中から力強い烈しさを以て湧き上つてくるのです。此の場合，形象力はアイステシス（感覚的知覚）から生じてくる一個のキネシス（運動）とみて矛盾するものではないと思います。ファンタシアは厳密に言えば感覚的知覚からは区別されなければなりませんが，しかしアイステシスなしには生じ得ない形象力を意味して居るとみてよいと考えます。斯くしてファンタシアはアイステシス（感覚）とムネメ（知覚）との中間に位する作用なのであり，そして斯る作用としてそれ自らノイエイン（思惟作用）に関与することが出来るのであります。

然し建築に於ける構想力は，他の造形芸術である絵画や彫刻と異るものを持つて居ります。それは建築が生産されるには建築主があり，経済の力に依つて施工され，施工されたものに有目的性の存在することでありまして，建築に於ける構想力はファンタシア自体に経済の力と表現過程に於ける実践面の束縛とを受けるものなのであります。即ち，ファンタシアがノイエインに関与するとき，客観的法則性が意識的に適用される部面と無意識的に適用される部面とが共存して居るわけでありますから，絵画や彫刻のように全く自由に振舞えるというわけにはゆかないのです。技術と技能という両面が更に経済という基盤の上に立つて居るとき，建築に於ける構想力は建築家の内に於て，より高い社会性と個性的な面に於てのみ働き得るのです。

建築に於ける構想力に就いて

建築に於て技術と技能が二つの部面に明確に劃されて表現されて居たゴシックやロマネスク時代には，構想力は主として彫刻・絵画・建築三者の統合にかけられて来ましたが，ラマルクの「形は機能に従ふ」という偉大な命題をホレーショー・グリーノウが一層押し進めてからは，建築に於ける構想力は機能の分析とそれらの技術的統合に依る表現に向けられて来たように思われます。更にル・コルビジエに依つて20世記の建築の諸形態は，人間を強張し過ぎた余り，人間のもつ共通の思考方法・共通な技術的便益に支配されて機械化されて行つてしまつたのであります。此の間にあつて常に一つの事柄—建築は人間が支配して居るという—ことが建築家の構想力の中で忘れかけてきてしまつたのではないかと思われるのです。

レヴィス・マンフォードはその著「芸術と技術」の中で，国際連合の事務本館の建築を批判して，事務職員がその中に於て仕事出来る環境が現想的条件の下におかれて居ないことを指適して，如何に非機能的であるかを説き，その設計者達が自分ではモダーンだと思つて居つて居る近代技術の虚無と無目的とを反映する空しい抽象的形態，練つた幾何学的概念を実現するために，機械的価値と人間的価値の何れをも犠牲にしてしまつて居ることに対して，プシュド・モダーン様式の定義に近いことを批難して居ります。

機能主義についての修正，「建築の中には，物的機能の他に，社会的目的や新しい心理的洞察も同じようにそれを要求され，使用者の健康・快適・歓びに影響を及ぼす多くの要素があり，人格全体を考慮に入れられねばならぬ。換言すれば表現が建築の最重要の機能の一つである。」というマンフォードの広義の解訳が示されるまでもなく，機能と表現の問題について解決しそうにみえたのは，1950年飛行機事故でなくなつたマッシウ・ノヴイッキであります。標準単位，標準尺度を形態の最小成分と見做した彼は，ノース・カロライナ州ローレイの州立市場の大円形劇場のデザインでは，スタンドに面する座席の上を覆う屋根として，抛物線状の大きなアーチを用いました。これはその機能に適した偉大な大胆さと美しさを示すものであります。ノヴイッキは総ての建物は言葉を語ること，その言葉はその建物を使う人々に理解されなければならないことを知つて居ました。彼がローレイのステート・ハウスの近くに建てられる図書館と博物館の設計をして居たとき，彼はノース・カロライナの人々が古典様式の美しい断片に感じる愛情と愛着を考慮に入れて，その愛する古い建物のテーマを現代的な独自のやり方で生かそうとしました。又，彼がインドに趨いたとき，彼は新しい首都の設計に西洋からの既成の案は携えて行くことをしませんでした。彼はただその驚くべき敏感さと直観的な把握をもつてヒンズーの生活様式を吸収して，計画はヒンズーの個性とヒンズーの家庭生活とによく調和するものを残して行つたのです。ノヴイッキの建築はその物的基盤に於ては厳密でありましたが，それより高く社会性と個性的なものとの面まで高められました。彼はその構想力に於て，有機性と機械性，地方性と普遍性，抽象的合理性と個性的なものとの間に十分な和解をさせる資質がありました。近代建築が発展し成長するためには，人間の有機体，即ち生ける統一ある肉体と精神のあらゆる面を正しく取扱う形態を創造せなければならないと思います。彼はその道の一端を示しはじめたのに過ぎないのです。

建築に於ける構想力が，その時代の中に於てはたらくとき，建築は時代を全く超越しれものではあり得ないのです。しかし建築は，進歩する社会の流れの中に，その機能をいつまでも生れたときのままに固定しておくわけにはゆかないのです。ミース・ファン・デル・ローエは，西ドイツのマンハイムの国民劇場の計画案に，将来の機能の変化を考慮してユニヴァーサル・ビルデイングの提案を行いました。この案は，単純で経済的な形体と，時間の経過に順応できる機能との両方をそれぞれお互に自由にして一致させようとする試でありました。すべての虚飾を振払つて，そのモニュメンタルな，単純な，一見冷たそうに見える程割り切り過ぎた表現の中に，私は豊富な人間性を見出すのです。「少ない程豊かになる。」という彼の作品を貫く主張の中に，私は彼の構想力以前に就いて，常に人間に対する烈しい愛情の精神を感じるのです。

「デザインするということは，人間を愛することより始めなければならない。社会的な，個人的な，すべての面に於ける人間を。」経験に於ても乏しく，思考についても未熟な私が，構想力について書き出したのは，建築に於ける構想力の前提に唯そう言いたかつたからです。

四つの断想

松村慶三

1. 精神のありか

歳若くて数々の傑作を遺した芸術家達の話が過去の歴史にはいろいろあつて遊び好きな私など随分苦しめられたものですが天下の名建築がまだ世事にうとい若輩の天才の手になつたという話はあまり聞かないようです。建築がそういう性格のものだからではないでしょうか。本当に型を造るものは感覚ではなくて精神だという意味が建築に於て一層真実だからに違いありません。そしてエスプリというものは私達個々の人間が生れながらに持ち合せるものでもなければ，まして何かの拍子に脳裡に閃く天の啓示でもない。ただ私達と同じ肉体を持つた人間が過去何百年間千年，躓きながらも暗闇に星を求めてさまよいつづけ，ようやくにして辿りついた今日の日までの足跡を振返り，そして，また自らその歴史の流の中に身を投じ，ある時は現代の自由に歓喜し，またある時は，時代の矛盾や不条理に身悶えし，躓いては立上り立上つては躓きつつやがて漸くにして心の中に輝きを増す真珠の玉の様なものに思えるのです。建築がまた更に根元的には人間精神そのものが，いつの世にも大きな二つの潮流に支配されているということがよく言われます。ですから，主張のある一連の建築を作り出す為には，何より先づ第一に，自らの精神のありかを探し求めねばなりません。殊にこの主流のはずれの，しかも後進国のハンディキャップと劣等感にさいなまされた，この極東の島国に生きている私達には，支流の更に末端の地に安住の場所を見つけて，独りよがりの自己満足に堕さない為に世界の人類とそして建築の歴史の中で，自分の占める位置を見極めるだけが既に大仕事に思われます。さうして先づ自分というものが判つて始めて一人前の建築家としての遍歴が始まるのでしよう。けれどもコルヴュジエ万才！さう絶叫したあくる日にあのライトの世界が私の魂を魅してしまう。自分の体の中に流れる血えの郷愁と，異質なものえの憧憬とを，自ら見分けるのに夢中なのが今の私なのです。この様な私にどうして建築を語ることなど，況やこれが自分の作品だなどと言うことが出来るでしよう。ですからこれもただ，毎日々々製図紙に鉛筆を走らせいてるその暇々の断想に過ぎません。

2. 無駄金は一銭も払わない

僅かな金の事をとやかく言うのはみつともないという人が居りますが，私は無駄金は一銭も払わぬ代り必要なものには惜しまぬということを生活の信条にしたいと思つて居ります。そしてそれはまた建築デザインの一つの拠り所だと思います。当り前の事です。ただ問題は何が無駄で何が有用かなのです。Plan でも Elevation でも，総ゆる粉飾を洗い落す事を近代デザインと心得た時代がありましたし，またさういう精神はいつ迄も生き続ける事でしよう。けれどもある一つのものが，昔も今も同じ様に無駄と考えられるとは限りません。ある人は，人生を幸福に送る為には，人生の無駄を愛する気持がなくてはいけないと書いています。無駄が決して無駄ではないのは，やはり私達が人間であるからではないでしようか。ジュネイヴからニューヨークの新ビルに移つた国連事務局の人々が，折角いい建物に変りながら，毎日が急につまらなくなつたと言うのです。それは他の階の同僚達と顔を合せる無駄がなくなつたからでした。こういう意味で無駄のない住宅等をこの頃の雑誌でよく見かけます。その作者もきつと無駄金は一銭も使わぬという近代精神を彼流に忠実に守つたのでしよう。かつて偽りの神の桎梏から自らを解き放つた人間の武器は科学でした。今は科学の専制から自らを救うべき時の様です。それは最近よく言われる原子科学による人類の危機ばかりでなく，もつと身近かに建築の設計の上ででもと言えないでしようか。アメリカの都市生活者の土えの愛着は非常に激しいものだと聞きます。少くとも建築が人間の使うものであるうちは使う人達が人間の本性えの渇きを感じないようなデザインを　。それには，本当の無駄と見せかけの無駄とを見分ける事も大切だと思うのです。

3. 居住者の民度ということ

近頃はあちらこちらで会社のアパートや寄宿舎等を見かけるようになりました。いづれは無理に予算を捻出して止むをえずに建てたものばかりでしようからせめて限られた予算内で使い勝手だけでも良くしよとと，設計者がずいぶん智慧をしぼつた後が見られます。けれども果して設計者の意図が完全に成功しているでしよとか。さて，工場福利施

設の中で一番重要なのは言うまでもなく居住施設ですが，寮生活の経験なら私にもありますし，第一毎日々々を生活しているのですから，よく理解もでき興味も感じます。いろんな事を感じながら建て，建てては教えられして，やがて四つ目の寄宿舎が出来上るようになりましたけれど，その結果近頃教えられる事は個人住宅と異り，寮や新宿舎では止むをえず，ある程度入居者の生活を規定してしまうという事です。少くとも建売住宅や貸アパートではないのですから，そこに入居者の実態を摑む必要が生じてきます。言いかえれば，入居者の民度を知る事です。余りレベルの違つた生活を規定すると，入居者は大衆の力でその規定を無視し設計の主旨に反した別な住い方を作り出してしまいます。そうなると，全く住む人々には猫に小判，設計者には労多くして功少し，いや悪くゆけば藪から蛇の出てくる始末になりかねません。私の会社の独身寮に居室を北にとり，南廊下を共通のロビイとして扱つたものがありますが，寮生はそのロビイを単なる通路に格下げし，北居室の暗さばかりをかこつている例があるのです。建築家はいつも高い所に眼を向けると共に，実体をありのまま認識しなくてはいけないと痛感しております。

4. 西条中央病院のことなど

もう四年近く前に，西条市の中央部，濠端に建てられた栄光教会の清純な幾棟かで，建築の美しさを知つたに違いないこの城下町の人々が，今度はどんな眼差しでこの建物を見てくれるだろうか——。建築家からは忘れられ勝ちな地方の小都邑，その一つである伊予西条に建つ病院の図面をひきながら私は建築に携る身の責任と幸福とを感じておりました。今までは恵まれている筈の大都会でさえ，私の脳裡に灼きついた病院のイメイジは，あまりに陰惨なものでした。けれども，病んで精神的に参つてしまつた人々が病院に来てその美しさに救われ，身も心も軽やかに帰つてしまつたとしても，今の世ではまさか不平を唱えるお医者も居ないと思います。なるべく病院らしくないように——というおかしなモットーはこうして生れました。保健患者の多い近頃は，居心地のよい病院は患者が退院を嫌がつて困ります。けれどもあんな建物の病院には行くまいなどと言うよりは，設計者にとつてどれ程幸せな事でしようか。だからこの病院にも倉敷の中央病院にならつて玄関の傍に植物温室があるのです。外来患者の心を解きほぐすこの緑は，また病床に配られて，入院者の心にやさしくささやきかける事でしよう。その他にはとりたてて言うべき平面計画上の問題はありません。けれど，こうして決定されたPlanが，それぞれのElevationを持ち，一つの建築群として構成せられる迄には，たくさんの難題が残つて居りました。例えば本館，病棟，サーヴィス棟等々と分れたこの病院は材料の上からも，鋼筋コンクリート，木造，ブロック，瓦，スレートなどの異つた要素が同居しているのです。これらの多様の中から一つの統一をひき出すこと。その統一の中で，一つ一つの建物が生々と独自の輝きを見せねばならないこと。その上これらの事は構造的な，時間的な，また予算上での可成りの制約の下におかれていたのです。また，この病院の設計で，私は別なむつかしさを感じました。頭脳が考え出したこの病院の使い良さ，住み心地の良さというものが，本当に使う人達，殊に入院者の満足の為に，果してどれ程奉仕出来るかという事でした。幸か不幸か私には入院の経験がありませんでしたから，さりげなく無駄だと排してしまつた，ほんの一寸した心使いが，或いは入院者にとつて，かけがえのない貴重なものであるかも知れないという懸念でした。事実入院の体験を持つ，ある先輩の建築家から，デザイン上の一つの欠陥を指摘された時，私は本当に自分の非力と共に，建築という仕事の難かしさを泌々感じるのでした。実在する柱や廊下をデザイン一つでなくしてしまう魔術の他に，吾々は他人の立場，未経験の心理まで完全に理解できる神通力を持つ心要がある。私はまた改めて思うのです。何という骨の折れる仕事なのだろう。何という奥深い仕事なのだろう。そして何というやり甲斐のある仕事なのだろう…　。

盲蛇におじずと言うのでしようか。いささかおしやべりがすぎたようです。もともと私は，建築家は建築について語らなくてよいという考えが好きです。そして私自身口で語らねばならぬような建築家にはなりたくないと思つています。もはやこの上は憶面もなく書き立てたはづかしさを想い起しては，心の劫しにしたいと思います。（1954. 4. 20）

松　村　慶　三

無窓人工環境の事務所建築の可能性

平生舜一

事務所建築のプラニングというものが，無数の実例に依る経験や，研究の過程を経て，常識的な型に集約されて，一つの体系を形成してから——言いかえれば，プラニングに行詰りを生じてから，すでに久しいものがある。即ち，与えられた敷地に対しては，特殊な場合を除き，採炭上の要求から必要とされる「家庭」を考慮に入れた平面型が決定され，平面に於ては，コアや中廊下を以て貸室を連絡した型式が，有利であると考えられて居り，事務室の奥行は，広すぎれば，廊下等の机上面の昼光率に難点があり，狭すぎれば，事務上支障があるという矛盾を包含しながら，曖昧にその巾が暗示されておる，等々であるが，凡そ事務所建築と名付けられるものは，総て此の原則を，金科玉条として設計されて来たのであつた。

ところが，最近続々と竣工を見た新しい事務所建築も亦例外ではなく，各種の新しい機械設備等は，ともかくとして，根本的には，何ら新らしい進展は見られない。各部の仕上材料や，細部のディテイルに就いては，時代の相異が如何ともし難いものがあるが，古墳の玄室の様なエレヴェーターロビーや，坑道の様な中廊下は，旧態依然たるものがあり，事務室に於ては，窓際の労務者は，グレアーを避けて，ベネシアンブラインドを下げ，廊下側に近い労務者は，低い昼光率を局部照明に依つて，補つている。ブラインドやカーテンが，ベネシアンブラインドにかわり，白熱電燈が，螢光燈に取つてかわつた事を除けば，全く進歩の跡は見られないのである。

要するに，現在の事務所建築のプラニングが包含する矛盾と欠陥に対して，大きな観点から，積極的に検討を加える事がなかつたのである。

此処に於て，我々は，現在の事務所建築のプラニングに重大な盲点がある事に着眼しなければならない。即ち事務所建築のみならず，劇場その他の特殊な例外を除いた大部分の建築に於て，全く当然の事とされ，議論の対象にすらなり得なかつた事——「外部よりの採光」を全く断念する事である。

凡そ建築計画というものが，一つの心然的な要求に対して，最も機能的な空間を，提供するものである事から考えれば，自然空間を区切つて，此れに機能を具備せしめる事よりも，むしろ，必然的にもたらされた人工空間を，自然環境に近ずける事が当然であると考えられるが，此の意味から，外国特にアメリカに於ては，その機能的要求にしたがつて多くの無窓工場が建設され，その何れもが，成功をおさめており，最近では工場のみならず，百貨店迄，機能上から，無窓建築とする事が，考えられている。

我国に於ても，一昨年始めて，実験的に無窓工場（紡績工場）が完成し，操業を開始したのであるが，結果としては，非常に良好であり，その詳細なデータは，此れからの建築計画の一つの大きな流れを未然に暗示して居るが如くに思われたのである。

事務所建築に於て特に重要な事は，（他の，例えば工場などでも同様であるが）労務者の就労環境を均等にする事である。此の点から現在の事務所建築は全く適当ではない。即ち，平面内に於いて占める貸室の位置により，すでに貸室内の昼光率は，均等ではなく，亦一つの貸室内に於ても前述の如く均一ではない。さらに，貸室の位置に依つて，主要道路からや，その他の道路からの騒音も異る上に，室内の机の位置毎に，相異し，殊に廊下側からの騒音を考慮に入れた場合は，実に複雑である。

此れは，外部に対して，開口部を有するがための欠陥であり，甚だしい例では，貸室の方位に依つて，賃貸の条件を変えねばならない建物もある模様であり，亦某市の或役所で南面した室の課を反対側の室え移転させる事を発令した時，その課の全員が此れを拒否した（極端ではあるが）事実があると聞いている。

ところが，外部に面した開口部を，塞ぐならば，此の問題は（昼光率の不均一と音響の問題は）一挙に解決するのである。外部よりの音響は，材料を考慮する事に依り，簡単に解決されるであろうし，昼光率の問題も，室内を，全般照明と局部照明と併用する事に依り，充分満足されると考えられる。現在の何れの事務所でも，一部に局部照明を行つて居ない場合は稀であるから，利点を考慮に入れる場合，此れの費用は，それほど問題とはならないであろう。

次に問題となる事は，設備工学上の問題である。

最近では，限られた敷地内に出来るだけ多くの貸室面積を得ようとするために，したがつて，基準法に依つて定められた採光面積も大きな値となるので，自然，大きな開口部が必要となつて来るわけであるが，極端になれば，レヴァーハウスとかU. N. ビルの如く，総ガラス張りのものもあらわれて来ているのである。此れは，意匠上からは，ともかくとして，設備上からは，極めて面白くない現象である。すなわち，此の大きな開口部，或は，全面ガラスのフアサードに依るヒートロス，ヒートゲインズは，莫大なものであり，したがつて，ヒーティング及びクーリングロードは，必要以上に増大し，不経済極りない。特にサッシュの開閉や，財風の浸入に依つて，ロードはさらに増大する。ところが，開口部を全廃した場合には，財風などは，皆無であり，常に最良の状態に室内気候を保つ事が出来，又ヒートロス，ゲインズも，僅少となり，維持費は減少するわけである。

又現在の状況では，普通の建築はもちろん，我国に於ては全く無暴と考えられる，総ガラス張り建築ですら，ヴアイタガラス等の紫外線透過ガラスを用いたものは，殆んど稀である。太陽光線をとり入れる事を目的として居る現在の建物の開口部に於いて，紫外線の透過を考慮に入れて居らぬ事は全く意味のない事で，開口部の価値を半減していると言つても過言ではない。

此の問題は，他の多くの利点も考慮に入れて考えれば，紫外線透過ガラスを用いるよりも，無窓建築に於いて，最新の電気設備を，充分に活用する方が，はるかに有利であり，又簡単に解決されるものと思われる。

室内の適当な個所に，紫外線放射線及び，オゾン殺菌灯を設置する事の方が，より完全である事は，当然である。

外部に充分な壁量がとれる事が，構造的に有利である事は，論を俟たない。近代の開口部の大きな，若しくは外壁の全く無い建築に対して，構造家は，全く難渋している。常に地震の脅威にさらされて居る我国に於いては無双建築が，特に重大な意義を有するものと言わねばならない。

又，外部を壁にする事が，工費をいちぢるしく節減する事になる点に就いても，注目する事を忘れてはならない。

現在，ますますその数を増しつつある，全面ガラス構造，あるいは，スパンドレルを用いた構造が，その効果に比して甚しく高価であり，又，ガラス等の清掃に要する経費も，開口部が増大するにつれて大となつて行くのに反し，外壁が壁である事は，安価な，耐久性のある，安全な材料で外装出来る事を意味する，又，事務所建築の設計上，常に問題となつている。開口部と室の奥行き及び階高との関係に於いても全くその考慮を払う要が無くなり，室の各部には，人工的に均一なる照度が得られるため，何らの節約なしに，常に階高を最少に下げる事が出来るわけで，此れまた，工費の節減に役立つている。

以上の如くに，無窓人工環境事務所建築は，従来の事務所建築に対して，種々の利点を持つて居るのであるが，しかし，その反面，多くの問題を含んで居る。したがつて此れらの点に関しても充分なる考慮が払われねばならない。

先ず，最も問題となる事は，人間が大自然の裡でのびのびと生活を営みたいという要求と根本的に矛盾し，ヒューマニズムと正面衝突する点である。此の点に就いては，アメリカの工場等でも苦慮して居る模様で，与論調査や各種の医学的調査を行い，（例えば，〃外界の空模様〃が見たいとか時間が時計だけではぴつたり来ない〃あるいは〃緑が見たいなどの要求〃及び，神経症患者の調査）外壁に，所々に極く小さな，窓を設ける事にした工場もある模様であり前述の我国の例に於いても一部に，窓が設けられて居る。事務所建築も，その仕事の型式こそ異なれ，その機能には工場建築と本質的に何ら変りないと考えられるから，上述の如き解決をの考慮に入れなければならない場合も考えられるが，こ極部的な小窓の目的を更に有効に発展させる事により，パブリックスペースに開口部をとるとか，あるいは一定の階数にいて，一つの階を〃光階〃として自然を導入する開口部を設ける事も考えられるのである。

無窓建築が，人間に及ぼす医学的影響についても充分な処置が講ぜられねばならない。先ず一般的疾病としては紫外線不足に依る症状に注意する必要がある。我国の例でも他の疾病が平均して減少しているのに反し，骨格や歯に関する疾病が僅かながら増加して居る。此れに対しては，前述の紫外線放射灯の設置と，ビタミンとの充分な供給に依つて，解決出来る筈である。

次に閉塞恐怖症などの神経症であるが，此れに関しては余り問題にならない模様である。アメリカの例でも，患者の数は，全体に比して極く僅かであつて，その治療も困難な事ではない様で，事実我国の例について我々が調査したところでは，一定の空間に閉じ込められて居る事に対する恐怖感を訴えたものは，殆んど居らなかつた。（もつとも此の工場では，平屋であつて簡単に脱出出来る事と，充分な消火設備と避難設備が講ぜられて居たからであろうか）従つて，此れも解決出来ない問題ではない。

室内に音源を有する音響に対する措置が，無窓建築の優劣を決定する大きな因子の一つである事に注意せねばならない。騒音の処置は，吸音材の満足なる撰択と使用とによつて，効果を上げる事が出来るのであるが，音源自体に関しては，如何ともし難いから，此れからは，事務用機械（タイプ，計算機）のメーカー側に於て，既に充分なる考慮が払われている事が必要であろう。

防火・避難の設備に対しては特に注意が払われねばならない。各室には，カラーコンデイショニングに依り消火器具の位置を明示しておかねばならないし，事務室といえども，スプリンクラーの設備を要する事は，もちろんである。

無窓人工環境の事務所建築に於ては，特に階段室，エレベーターシヤフト等が，火災時には文字通り，煙突となるから，此れらの防火扉は，現在の事務所建築以上に完備して居らねばならない。無窓建築の室内は，四面の壁に変化が少く，危急の場合に，避難の方向を誤る場合が起り得るから，避難の方向は，床壁等にカラーコンデイショニングに従つて，明示しておかねばならないし，電源が切れた場合，室内は全く暗黒となるから，床や壁には蓄光塗料等で，避難路を明示する様な方法も考えられねばならない。

（54頁へ続く）

機能主義と云う護符

坂田美郎

近代建築の理論的支柱として，又その様式の根源として，機能主義がある。

我々建築家は夫々機能主義について自分勝手なイメージを抱き，それに従つて機能主義な（？）建築を作つていると信じているが，「一体機能主義とは何か？」と問はれれば戸迷いする人が多いだろう。

この機能主義建築について或る人は（小坂秀雄氏機能主義建築について，建築雑誌1949.2）次のように答えている。「機能とは目的（商店なら物を売る，工場なら物を作ると云う）に対するはたらきであつて，それには知性的機能と感性的機能があり，近代建築は感性的機能よりも知性的機能をより多く持つ建築であるが，感性的機能を無視して，知的機能のみに忠実な建築を機能主義建築と云うならば，近代建築は機能主義的とは云われない。」例えば王の墳墓と云う知性的機能をもち，王室の権威を誇示すると云う感性的機能があるが，感性的機能に重点を置いているから近代建築とその質を異にする。機能主義建築は知性的機能に重点を置き，感性的機能をも充足しながら建築をつくると彼は云うのである。仮に之を「広義の機能主義」と名付けることにする。

他の人（山崎兌氏機能主義建築について，建築雑誌，1949.5）は次のように云つている。「機能主義には，在来の意味のない様式より脱却して知性的機能をのみ充足することである。造型表現はそれと不即不離に又は従属的に追求される。」と。即ち前者のピラミッドの例のような，権威を象徴すると云うことは政策であつて機能ではない。美的表現は前者のように機能の一つとして，機能と同格に考えるのは誤りである。——例えばプランを考えて後にエレベーションを考えると云うようなこと——。前者に対し之を狭義の機能主義と名付けることにする。

又或る人は（谷重雄氏，機能と様式について，建築雑誌，1950.1）「狭義の機能主義は様式からの脱却を云つているが，建築様式を発生的に見ると，それは元来知的機能から生まれたものであつて，様式としての存続期間が長いので機能的が忘れられただけで，機能主義が現代建築だけの特性と思われるのは，文明の発展度が大きいため，機能の変化も早く，様式としての存続期間が極めて短いからである。機能主義とは古今自明の理であり，何か我々のすべての機能を充すような新しい別の理念が必要である。」と，例えばピラミッドの巨大性も，現在の我々には，王室の権威を誇示するためと思われるが，建築当時の彼等には霊魂復帰の目じるしとして，大きく高くなくればならない知的必然性があつたに違いない。それは燈台が高くて灯をつけていることによつて其の機能を充たしているのに変りない。その機能が忘れられただけで，ピラミッドは知性的機能を充足している。

結論として第一の人は機能主義の前提の理念である科学主義（合理主義）を基盤として，第二の人のような発生時の歴史的意義を発展させ感性上の機能も追求するのが本当だと拡張解釈をしている。

第二の人は機能主義発生当時の定義を固執し，デザインの問題を不即不離に解決すると云つている。

第三の人は様式に対する第二の人の意見を正し，第一の意見の科学主義を肯定しながら古今自明の理として，機能のすべてを充たす新しい理念を必要としている。

この外，観念的「機能」を元として華々しい「機能主義」論争がいつまでも繰り返されているのは，今でも尚建築家の胸の中に機能主義が護符的存在とし神格化している証拠である。私は機能主義とは建築を良くするための一つの態度を示した歴史上の一説にすぎないものであり，又この護符があまりにも「免罪符」的に使われていることを残念に思つている。次に機能主義という護符の功罪を述べてみたいと思う。

機能主義という護符の功罪

機能主義の功績の第一は建築の諸々の機能に対し今迄の様式伝統を排除し科学的に解決をするという科学的態度を建築家に与えたこと。

第二には，以上に伴つてこの科学的態度の前提となる「たれのための機能か？」と云う階級意識がおぼろげながら出て来たこと。（所謂「ヒューマニズムの建築」浜口隆）。即ち，「ヒューマニズムに立脚した社会的見地からの，真の民衆のための機能」に重点を置く点であり，初期の善意の主唱者達は主観的ではありながら漠然と抱いていた前提の理念である。

以上二つが機能主義の特色であると共に，又誤りの元である神秘のヴェールの根源にもなつている。それを更に掘さげると，機能主義建築家の甘い夢想による錯覚に気がつくであろう。

機能主義建築運動の発生の背景として文明の発達に伴う機能の多様化によつて，今迄の様式主義建築ではその機能が包み切れなくなつたことと，建築材料及び技術の進歩によつて建築の構造，設備等あらゆる面の可能性が急激に膨脹したことが一般に云われているが，次の更に重要なことが忘れられている。

即ち，資本主義社会に於いては，建築に関しても，利潤追求の手段としての機能が，他の如何なる機能よりも優先されるということである。その機能とは即ち用有さの上にまたがる低廉さと，目新しさである。（セセッション様式は後者である。）低廉さは，感性的な機能と対立し，虚飾として，節約を強要し，ギリギリの知性的機能を追求し，無駄のない最大の効用を要求する。その結

果としての直截簡明な（裏返せば殺風景な）形の目新しさは，買手の購買慾をそそるためにより一層誇張されることになつた。

又建築家（現代的意味の）の身分関係も資本主義発生と共に封建時代の一部の貴族僧侶階級のお抱えとしてのモニュメンタル建築家から，自由職業的なブチブル以上の階級への奉仕者としての建築家とかわり，今日では低廉と斬新さを絶えず研究し売物にする商売人とさえなつてきた。此処に建築家の主観の如何に拘らず殺風景な機能主義の行詰りだとか風土主義，新古典主義等と云々される所以がある。

一方機能主義運動の精神的背景としてランジュクしたブルジョワ民主主義と芽生えたばかりの社会民主主義があつた。このプロレタリア階級の擡頭は限られた人々えの追従から民衆えの奉仕という意識を拡め，自由，民主主義的な思想と自然科学の急速な発展による科学主義の下に建築家達は，（前述の身分関係の変化による奉仕の対象の変化——貴族から市民え——によるは勿論）主観的には建築の機能を追求する前に一応民衆のためのと云う目的にそうように全力を上げ，復雑な機能を科学的に解明するという事をなさしめた。

又，時の絵画思潮が大きな精神的背景となつたことも否めないであろう。それは既成の様式主義を捨て，印象そのままをとらえ，描くものを分析解体し，とらわれない美意識の下に新しい美を創造しようとする印象派以後の絵画思潮（之には幾何学的な直線曲線のみを用いるモンドリヤン風な絵画も表われた。）であつた。簡明直截な線と面とボリュームの機能主義的建築が美しいとされる基には，これらの美意識が働いていないとは云えない。

以上を簡言すれば，資本主義社会に於ける機能主義建築は封建時代の建築が唯単に施主のために作られたものであつたのに対し，建築家の善意に関係なく第一に商品として（究極は施主のため）作られ，第二に民衆を意識して民衆のために（というのは商品としての使用価値を上げるために二義的に考えられるだけであるが）つくられるものである。

こう考えてくると機能主義という護符の合理主義と民主主義という二柱の神様は資本主義社会では美しい仇花的存在であるように。この二柱の神様のため機能主義は神聖なものとカン違いされ，魅力ある観念論となつているために致命的な誤りを犯し易い。

「機能主義あつて，後に建築あり」という倒錯的な間違い，即ち仇花を実のなる花と思いこんでいる場合——例えば，理想的にすぎて実状にあわないバタ臭い建築——又二柱の神様が少しでもお働きになれば「免罪になつた」（機能的だ）という錯覚。即ち機能の解決は二柱の神様の奮闘によつて明快にされるが，無数にある機能の内，それらの取捨選択，重点の置き方等は二柱の神の働きのかわりに，直観に置き換えられると云う矛盾。特に後者の錯誤はすべての機能主義者が陥入つて来た錯誤である。これを詳言すると，建築の無数の機能を全部同じウェイトで取上げることが（前述の第三の意見）全く不可能だと云うことは，実務についた建築家ならば自明のことである。なぜならば，機能の中には互に相反する機能があり，機能の重要性がまちまちであるからである。これらの機能のどれからとりあげるか，又それの使用者層の異る時，どの層から重点を置いて行くか，という順列の価値判断，相反する機能の取捨選択の価値判断の基になるものを，科学的に追求をしないで科学主義を標榜する機能主義論者はヒューマニテイだとか民主主義だとか，神がかり的な直観で逃げている矛盾を犯している。従つてその価値判断は非常に主観的で独善の場合が多く，現実に即さない致命的欠陥をもつのは当然である。例えば現在の資本主義社会では，商品的（利潤追求的）機能（又は経済的制約）又は階級的（差別的）機能が必然のことで，これらが第一義的な厳然たる機能となつて，機能主義者が夢想している機能と根本的に対立するときが殆んどであるが，彼等はえてしてこれらを無視した理想的機能の解決で事足れりとしている。

又機能主義建築家は，さして重要でもない機能を誇張して（他のもつと重要な機能を殺して）その形態の斬新さを求め，更にひどいのは始めに形態だけを胸に描き，その形態に機能主義的な必然性を後からコヂつければ，機能主義建築だと云う免罪意識をもつ傾向がある。このことは建築の雑誌を毎月賑わす「はじめにすがたありき」的建築の説明文に必ず言訳的言辞が見られることでも明らかである。これらは無意識的に商業主義に犯された建築家の免罪符による自慰的行為である。又スタイルだけの近代建築は機能主義の神様に，マーキュリ的御利益を望むもので，商魂逞しいその意図には唯々感服の外はない。我々は特定の温室の中でしか育たぬような，夢想を前提とした機能主義と袂別しなければならない。資本主義社会の大きな桎梏的機能，相反撥する機能の中，どれを取上げ，どう云う順位をつけるか，民主主義の前提の下に，科学的な調査をし，価値判断の材料を民衆と共に作らねばならない。

その具体策として我々建築家は，住宅，学校，病院の夫々の専門家に分業しなければならない。そしてその使用者達（学校ならば生徒，教師，使用人，父兄）と共に，建築家の指導の下に組織的に，それらの機能を調査し，価値を判断して行く必要がある。之には勿論民主的な理念（学校ならば民主教育の）の裏付けがなくてはならない。そういう組織を作り互に利用し合うのは建築家の，又相手側の多大の努力が要るが，現状では建築家がたとえ天才的才能を持つていても不可能である。



太田伝一郎

すいせんのことば

同君は在学中より設計に秀で，電々公社入社後は近畿に於ける同社の工事中主要な作品の設計に当り，現在同社の若手建築家の有力なメンバーである。電通会館は社内競技設計に当選実現した作品で，細部に雑点もあるが異色がある。その他同君の設計になるものは相当多数あり，何れも堅実で且清新な作であるから推薦する。（京都工芸繊維大学建築工芸学教室）

おことわり

京都工芸繊維大学建築工芸学教室より，太田伝一郎氏をすいせんされてこられましたので，同氏に原稿依頼状をだしたところ，出張のため，連絡がつきがたく，原稿の締切に間にあいませんでした。ここに，同氏の写真とすいせんのことばだけを記して，同氏を御紹介します。なお，太田伝一郎氏の代表作品である近畿電通会館は，昨年本誌6月号（建築と社会，1953年6月号）に紹介ずみですので，御参照下さい。（編集係）

略　歴： 大正14年生れ，
昭和22年京都工業専門学校卒
日本電信電話公社近畿電気通信局新営課勤務
代表作品：近畿電通会館　その他多数あり

無窓人工環境の事務所建築の可能性（51頁より続く）

無窓建築にあつては，停電のために人工環境が乱される事がない様に，特に強力なる自家発電設備が必要である。

以上色々と問題となる点を断片的に列記して来たが，此れらの点を考慮するならば，無窓人工環境事務所建築の実現は，さして困難な事ではない様に思われる。

建築基準法も，以上の問題点に対する，満足すべき解決があたえられるならば，当然改正されるべきものである。

無窓人工環境の事務所建築は，従来の計画学に於ける事務所建築の分野に於いて，全く想像も出来なかつた平面を可能にするであろう，例えば，外廊下式と言う様な——（中央部の大きな貸室は何ら制約なしに，全く自由に区切り得る—）。

それに外部に大きな壁を有する建物は，一つの大きな生活が行詰つて，部分的な技巧に終始して居る現在のデザインというものに対して，次の段階えの転換乃至は，発展を暗示しているのでは，なかろうか。先に述べた〻光階々は，此れが機能上からもたらされたものだけに大きな壁面に対して，必然的な美を生みだす事になるかもしれない。要するに最も理想的な事務所建築即ち，敷地を百パーセントに利用出来，貸室を如何なる要求にも応じて分割出来，貸室が常に全く均等な条件であり，室内が常に一定した健康且つ快的な状況で，しかもその建設及び維持が経済的である事務所建築を実現するためには，従来の矛盾と欠陥の少くない計画の方法ではなく，此の無窓人工環境事務所建築こそ，最現実的な，可能性を暗示して居るのではないかと思われるのである。

杭

特許　武智式鉄筋混凝土杭基礎工
日信三角型鉄筋混凝土杭基礎工
コンポジツト、パイル（長尺継杭）基礎工
測量・地質調査・地耐力測定施工

特長　砂利充填による特殊施工法
支持力強大。工事迅速。工費低廉

説明書及ビ防潮嵩上、盛土地帯に於ける実績表進呈

株式会社　武智工務所

取締役社長　福留並喜
大阪市西区西長堀北通四丁目壱〇　細野ビル三六号
電話新町㊽九九五〜九九八番

紫煙室：法隆寺鴟尾問題と建築家の自覚

小　山　連　一

「法隆寺金堂修理　暗礁へ……」これが最近の法隆寺鴟尾論争にジャーナリズムが冠したレッテルである。さきに本誌（昭和27年9月号）が「金堂はそうさせない」と五重塔の批判を特集したところであり，再びこの種問題が胎頭して来るに至つてはもう一度現代建築家の反省が必要であろうかと思われる。

金堂工事も今秋11月3日「文化の日」に落慶式を予定し，着々工事が進み一向に暗礁らしい停滞も現地には感じられないところに冒頭のレッテルの分析を試みる意義があろうかと思う。今次の解体修理も有形無形の貴重な資料を提供していることは，昭和9年より開始された法隆寺修理を通じて「法隆寺修理学」の名を高めたところである。従つてこの成果が直接昭和修理の名の下に現代建築家のプライドと共に現在の工事に還元されて然るべきものであろう。然るに今次の問題が再び現代的実践の認識に起因した問題として世に露呈されるに至つたのである。

鴟尾問題とは従来上代寺院の主要堂宇の大棟には鴟尾が載つていたとする建築史的常識に立脚し，法隆寺金堂にあつても林野全孝氏が「私たちの建築史（9）」（昭和29年3月号）で述べられた如く，古くは天沼博士，更には浅野博士が夫々復元案を提示しており，又昨今金堂周辺から発掘された鴟尾小片を基に新たな復元案を実証したのである。この成果を工事に還元するためには慶長期の現状鬼瓦を改変しなければならず，工事の責任機関たる法隆寺国宝保存委員会に諮らなければならない。昨年8月以来数度の委員会に慎重に審議されて来たのであるが未だ結論を見るに至らないのである。試みに鴟尾を採用するにあつては粘土の原型を少くとも半ケ年の乾燥期を経過した後に焼成しなければならぬ超等級の瓦製であつて見れば審議の慎重も程度問題ではなかろうか。審議の経過とは①鴟尾案（復原）②折衷案（古式の鬼瓦）③現状維持案の三案を提示し審議を進めたところ折衷案は実証的根拠なしとて却下され①，③案に集約されて，爾後両派が主張し合うところとなり再三討議されたのである。鴟尾を推す建築家と鬼瓦を主張する美学者との対決であつた。然るに去る3月末の委員会決定として②案なる古式の鬼瓦を便宜的に拡大したに過ぎない折衷案が，更に上位の審議機関としての文化財保護委員会に提示されたのである。審議は主に専門審議会第2分科会（建造物部門）が当つたのであるが当然の帰結として同案が却下されたのである。法隆寺委員会での建築対美学の論争を清算した観があつたが「建築家が結集して故意に却下したのだろう」とか「一部の分科会メンバーが法隆寺委員を兼ねているのにこの態度は遺憾だ!!」とかの憶説が流布され，更には「意見が通らなければ辞職する」と挑戦的な一部の言辞を何んでジャーナリズムが見逃す筈があろうか。実証的根拠の稀薄な折衷案が過般の屋根形式総体の復元に当り，理論的構成の主体となつた「亜創建時代」の想定とこの種，時期の屋根形式にふさわしいとするものに折衷案が迎合され古式の鬼瓦が正当づけられたとあつては，互に次元の異つた要素を便宜的に寄せ集め現代的なセンスと程遠い消極的な方法として最も排斥しなければならぬものの一つであつたろう。

従つて再び鴟尾問題は白紙から出発することになつたのである。この機会に現在までの金堂修理で現状を改変した点を振返つて見ると何ずれも既に復元案で提示された個所を創建時と現代との歴史的関連に於いて結果された建築的機能を損うことなく，殆どが旧姿を再現すべく努力されて来たと云えるであろう。復元鴟尾の実証上の当否は公正な批判に俟つとしても現代的な主流から遊離した実証方法には立脚していないと思う。この復元に要した資料は鬼瓦を否定する資料をも含めてヨリよい成果を期待して，正しく後世の研究者に伝達しなければ現代的実証と云えぬであろう。所謂個々の問題の正確さを云々するよりもヨリ昭和的な修理の水準が還元された総態的な統一が法隆寺の地に昭和の建築家群によつて再現されると云うことではなかろうか。論争の経過を通観しても議事運営者の一貫性が個々の事物を正当づけるに集中され，議案が作成されている如くに思われる。一つの建物に鴟尾か鬼かが同量のプロバリテイで同時に満足されないとは如何にしても現代の常識では考え及ばないものである。鴟尾のプロバリテイが不完全復元を理由に消極的になることはないと思う。鴟尾載上のプロバリテイと全体復元のパーセンテージとは夫々次元を異にした問題であろうに——更に消極さが高じて現状案を主張しながら昨今に至つては鬼瓦なら折衷案でも構わぬとする態度に至つたグループ及びその線で議事を提示した運営者等の心境を疑わざるを得ない。永年文化財修理に直接，間接に携わり，大きな指導力もあるこれらの人々が現代の修理学の基準が建築史家のみに規定された概念とでも考えておるのだろうか？現代の息吹きは建築であれ，美学であれ，行政道徳であれ，共通したものであろうとはご存じないのだろうか？

前掲の本誌にあつても中村綱氏が「建築家の地位と責値」で法隆寺修理の「最エキスパートは建築家でありその建築家（註）こそは最高権威者である。責任は一応委員会にあり，それを決定する権限を持つているかも知れないが，夫々工事を完成するためには，その建築家が動

かいなでどうなるであろう」とする呼びかけが更には滝沢真弓氏の「法隆寺復原外論」に至つて「19世紀の算術的加算の要素の集合」から「今世紀の函数的思考としての要素の抽象化」に発展するとき「要素が抽象化されて復原すれば，あくまで現代建築家の主体的行為だ。いかに忠実に復原したにしてもやがて数百年の後に至つて，この昭和という時代が省みられ批判せられるに至れば昭和の復原に昭和のセンスが看取せられるのは必定であろう。人間の仕事において一として時代の性格を分有せぬものがあろうか」と喝破された現代的分析が，五重塔に対する批判であつたとしても，現在の金堂にとつて尚高い批判の価値を失するものでないと思う。

最近この分析に背反した事象が，斯る社会に擡頭している。所謂鴟尾が既に粘土型に移され，建物自体の工事も進捗し，鴟尾としてのプロバリテイが具現化されていると云うこと，更に如上の最高権威者群が「素人は余り騒がんで欲しい」旨の発言をしたとするならば中村氏が指摘したエキスパートも無に等しいものであろう。寧ろエキスパートの地位と責任を自覚するならば現在までのジグザグな運営もない筈であり，建築家大衆もエキスパートとしての尊数を惜しむものではなかつたろう。更にはジャーナリズムも取上げなかつた平凡な法隆寺問題だつたかも知れない。斯く見る時，寧ろ鴟尾か，鬼かの問題が工事運営者の現代的認識の問題に集約されていると思う。文化財が大衆と共にあつても，斯る層が大衆の現代的センスから遊離しているところにこの問題がジャーナリズムから冒頭の言辞で嘲笑される所以であつたかと思われる。（1954. 5. 11）（筆者 法隆寺国宝保存工事事務所員）（註）：「工事主任」とあつたが現在の運営から，適切でないので「建築家」とし修正して引用した。

6月の「デザイナーの」でこの法隆寺問題がとりあげられ，学識者によつて，関係方面に善処をうながす予定になつている。各位の御協力をお願いします。（編）

（39頁より）

「建築様式発展に於ける自律性の問題」
井上 充夫　建築学会論文 17—167

「現代建築思潮」
神代雄一郎　建築学研究 155号

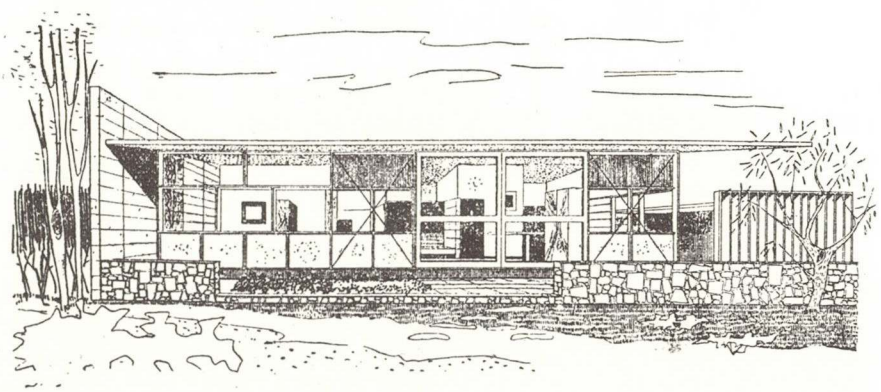
（註4）

「建築の伝統と近代主義」
ヨージェフ・レーヴァイ　Aufban 美術特集号又は「美術批評」S28—10

「現代の危機と建築思潮」
浜口 隆一 外5名　建築学会関東支部春期研究会（S27—2）

「機能主義を克服するものは何か」
平良 敬一　美術批評 S29—3

「近代化の世界的展開と近代主義の破産」
宮内 嘉久　建築雑誌 S29—1



建築世代・小林盛太案——日本建築協会主催「新時代の小住宅」懸賞一等当選案・1952年

着色オイル拭きの時代は過ぎました！
床の仕上に 艶出ケントク
日本建築協会・関西建材会・会員
株式会社 ケントク 大阪市北区櫻橋・産経ビル前
電話福島⑱1546,3507番

間仕切・天井には軽量鉄骨を・軽量鉄骨は日進式を御採用下さい・
耐震・耐火・軽量・堅牢
防錆完全・中空防音
合理的工法・責任施工
株式会社 奥村重兵衛商店
大阪市北区木幡町三一番地
電話堀川㉟四一六四番
一〇一七番

本会活動報告（会報）—4月分—

大丸家具展（研匠会）　2日　於大丸

竹腰会長外委員14名大丸側と新家具につき意見交換，本会協賛の下に5月より神戸，大阪，京都，大丸にて研匠会家具展示会開催の事を協議した。尚5月4日正午より大阪展示中製品についての批判会を催し約20余名出席した。

会計検査　13日～15日　於 分室

本会28年度収支決算につき住友信託　調査部定期の会計検査を受けた。

中国並九州支部講演会

14日午後2時広島市藤田組講堂にて約170人，15日午後2時福岡市帝国ホテル大ホール約80人，以上2個所日本レイヨンkkとタイアップ，サンライトと音響に就て講演会を開催，講師会員工博船越義房，日本レイヨン研究所長本田博士外数氏。上記の通り中国と九州支部主催で講演会を催した。本部派遣船越講師，大和常務理事同伴，両支部各般の連絡協議をなした。

尼崎兵站補給廠見学　20日 1時～3時

会執委員会主催，尼崎省線寄り但住友工場跡上記補給廠内にある居住施設並色彩調節の状況。破壊建設物の利用と復原状態を見学。会する者20余名，近畿地方建設局より案内説明等多大な便宜と御支援を頂いた。

午　餐　会　22日正午～2時

市内繊維ビル食堂開催会する者30余名，食後最近帰朝された須賀工業常務内田成之氏の欧米に於ける管工事につきスライドと共に視察談があつた。

新旧理事会　27日正午～3時，於 大阪建設会館

竹腰会長外20名。会長挨拶。伊東副会長就任挨拶，東畑前副会長挨拶後28年度決算報告，35年記念事業経過報告，事業報告，理事分掌，各部会，委員会委員委嘱等議事報告を了した。中村理事退任者代表挨拶，新理事紹介，大和常務理事辞意申出の件等あり種々懇談した。

グロピウス講演会開催に関する件

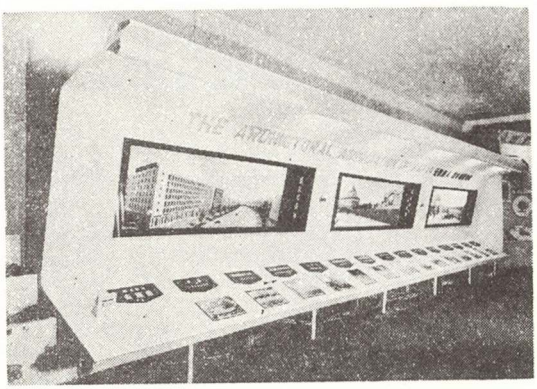
27日午後3時於大阪建設会館，6月来阪予定のグロピュース氏講演会開催につき国際文化，協会，学会，士会，朝日新聞共同主催する事となり関係団体合同打合した。

尼崎「栄える産業博覧会」

3日30日より5月19日まで尼崎において標記博覧会が朝日新聞社，尼崎市，兵庫県の主催の下に開催された本会は特に建設業10社の賛同を得て徳川，明治，現代のジオラマと各社の作品写真10点を展示し観覧者に感銘を与えた。



写真は栄える産業博



強くて優雅な

リグノイド床

テックス
フローリング
気光式通風器

責任施工

田辺工業有限會社

大阪市西区江戸堀上通一丁目五　電話土佐堀㊹7437～9

事務局職員改姓について

会合係　大藤唯美（旧姓山田）

上記の通り改姓致しました，今後共何卒よろしく御指導願います。

日本建築協会事務局

上野市慰霊塔懸賞競技設計募集規程

三重県上野市

戦歿者を敬弔供養してその霊を慰めると共に戦争の惨禍をおもい，将来再びかかる過ちを繰返さないよう，恒久平和を表象する目的をもつて，上野市慰霊塔を建設するため建設計画図書をこの規程に基き一般競技によつて募集する。

1. 建設計画の内容

1. 敷　　地　上野市白鳳公園内（但し計画上多少位置の変更は差し支えない）
2. 塔の様式は，建設目的に合し，施設の内容にふさわしい荘厳なものにして，且つ美術的価値を有するものであること。塔前の広場において各種行事を実施するものであるから設計に当つては敷地全部並に周囲の環境に充分マッチするよう考慮すること。
3. 工事費総額　130万円（植樹，環境整備費等を含む）
4. 塔の下部に，戦歿者名版（5cm×20cm）3,000名分を納める室を設備すること。

2. 所 要 図 書

1. 配置図　縮尺 600分の1，
2. 平面図　縮尺 50分の1，
3. 立面図（四面）縮尺 50分の1，
4. 断面図　縮尺 50分の1，
5. 透視図　又は模型写真，
6. 設明書　建設意匠，構造，材料等に関する簡単な説明。

3. 提 出 方 法

1. 図面の大さは，中版（80cm×55cm）大とし，透視図以外の図面はすべて青写真にすること。
2. 応募図書は，匿名で提出するものとし，図書には各葉毎に書類には表紙に暗号を記載し，それ以外に応募者を明示，暗示するような記載をしてはならない。暗号は日本文字を使用する。
3. 図面，説明書，封書（表に暗号，中に暗号，住所，氏名，勤務先又は在学校名を記入した紙片を封入）を取りまとめ提出のこと。
4. 提 出 先　三重県上野市中町　上野市役所厚生課
5. 提出期限　昭和29年6月30日午後4時30分　郵送の場合は同日の消印あるもののみを受付ける。

4. 審査及び発表

1. 審 査 員（五十音順）
   名古屋工業大学教授　城戸　久・大阪市立大学教授　滝沢真弓・上野市長　豊岡益人
2. 発　表　審査の結果は昭和29年8月までに上野市広報で発表し入選者にはそれぞれ通知する。

5. 賞　　金　金賞　1名　金5万円，　銀賞　3名　各金1万円
賞金は，審査結果の発表後1ヶ月以内に入選者に送付する。

6. そ の 他

1. 工事実施は原則として入選図書によるが，入選者と協議の上その一部を変更することがある。
2. 入選以外の図書は，応募者が希望すり場合には返還する。
3. 応募図書の保管及び返還については，充分注意を払うが不測の損害に対してはその責を負わない。
4. 応募に関する質問には一切応じない。
5. 応募希望者は前記提出先に申込すればこの募集規程及び敷地実測図を交付する。（郵送の場合は一部につき郵券8円を要する）

編　集　後　記

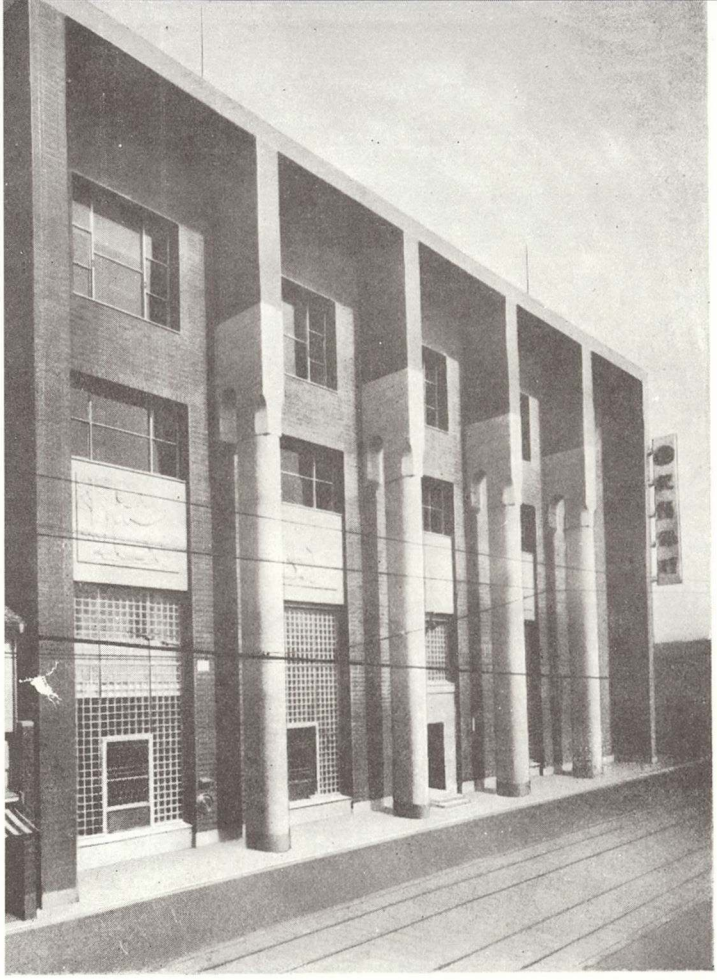
「青年建築家特集」を企画するにあたつて，まず当面した問題は，第1に青年建築家をどの層にするかという問題と，第2にそのすいせん方法をいかにするかという点でした。第1の点は，20代に限らず，30代まで含め作品と論説とを紹介することにしました。また構造家も含めるべきであつたかもしれませんが，それは実現できませんでした。第2のすいせん方法の点は，会誌に依頼文をのせると同時に，各権威者，学校，団体にすいせんを依頼することにしました。こうして，すいせんされた青年建築家は，期日までに合計17人，そのうち，20代が9名，30代が8名でした。

そのほかに，すいせんさるべき優秀な人々が多くあると信じますので，この点，次の機会でも，その人々をすいせんされんことを望みます。

こうしてできた本号は，もちろん充分なのではありません。企画上多くの不充分をもつているのではないかと恐れます。

しかし，いずれにしても，これを機会に，若い建築家が現実の悪い面に負けることなく，既成大家のよき所を吸収し，新しい創造性をつくり上げていくことができれば幸いに存じます。若いゼネレーションがつぎの日本のゼネレーションを築きあげる基礎石となつて，国民に奉仕する建築家となられるために本号を捧げるものです。

建 築 と 社 会
第35輯　第6号
売価1部100円（送料共）
昭和29年5月25日印刷・昭和29年6月1日発行
編集発行人　沖　田　誠　一
発 行 所　社団法人　日本建築協会
大阪市北区中ノ島3ノ3朝日ビル
電 話 北 浜 ㉙1334～9 番
振 替 口 座 大 阪 39975 番
大 阪 市 北 区 堂 山 町 66
印 刷 者　網　野　　栄
大 阪 市 北 区 堂 山 町 66
印 刷 所　区式会社研文社　電話豊崎㉗2056番



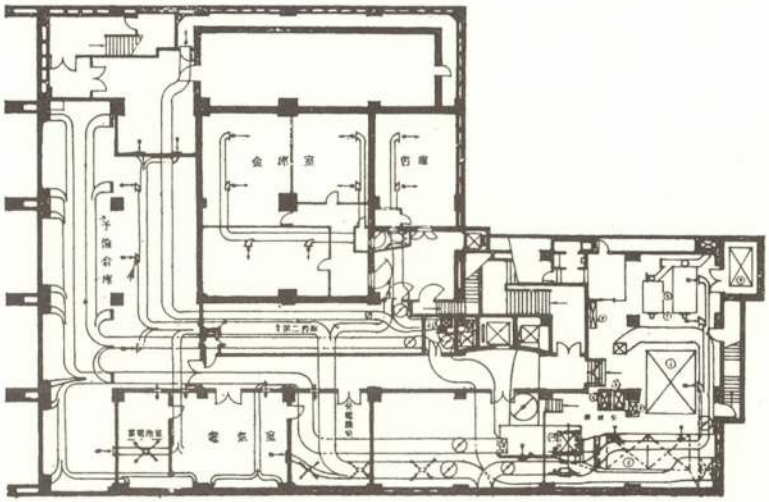
紀陽銀行本店

新築概要

位置	和歌山市本町1丁目
工期	起工昭和28年3月
	竣工昭和29年5月
敷地面積	617.315坪
建築延面積	1,728.800坪
階数	地下1階地上4階塔屋付
主体構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
軒高	21米
設計監理	日建設計工務株式会社
主体工事施工	株式会社 大林組

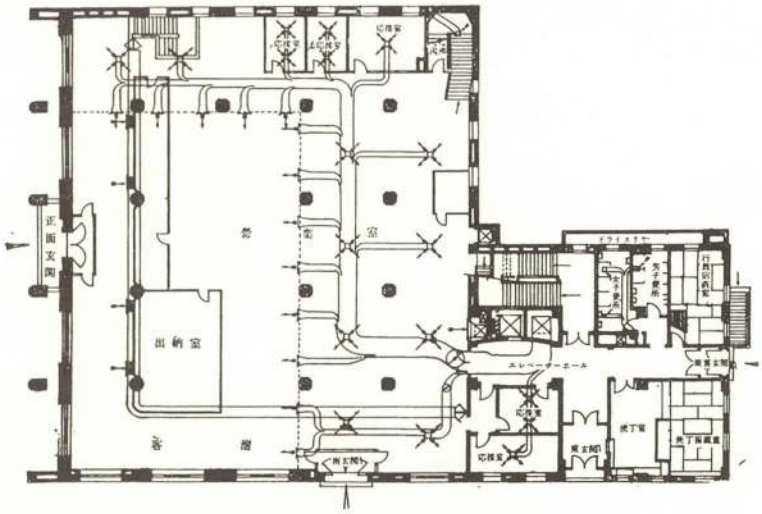
冷煖房・換気設備施工

須賀工業株式會社

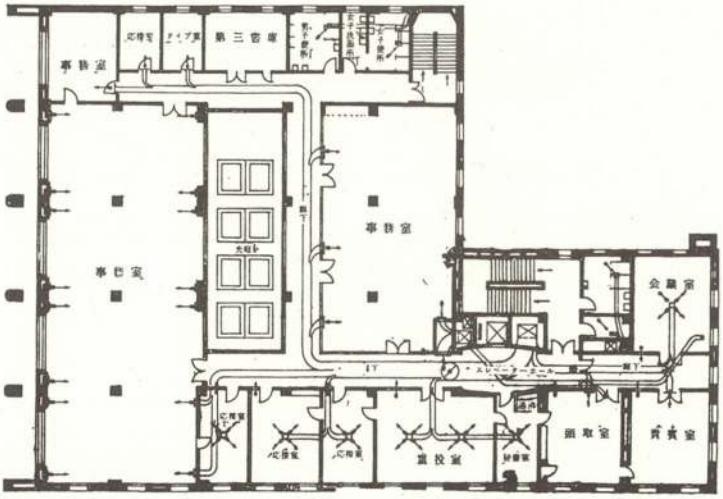


地階平面図

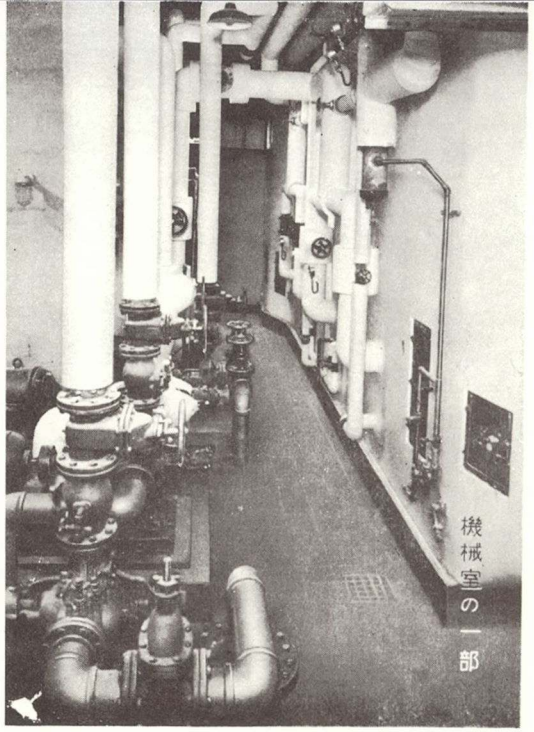
① タービン冷凍機
② 空気洗滌機
③ 凝結用水ポンプ
④ 井水噴霧ポンプ
⑤ 冷水噴霧ポンプ
⑥ 鋳鉄製セクショナルボイラー
⑦ 重油燃焼機
⑧ 貯油槽
⑨ 真空ポンプ
⑩ 送風機
⑪ 送風機



一階平面図



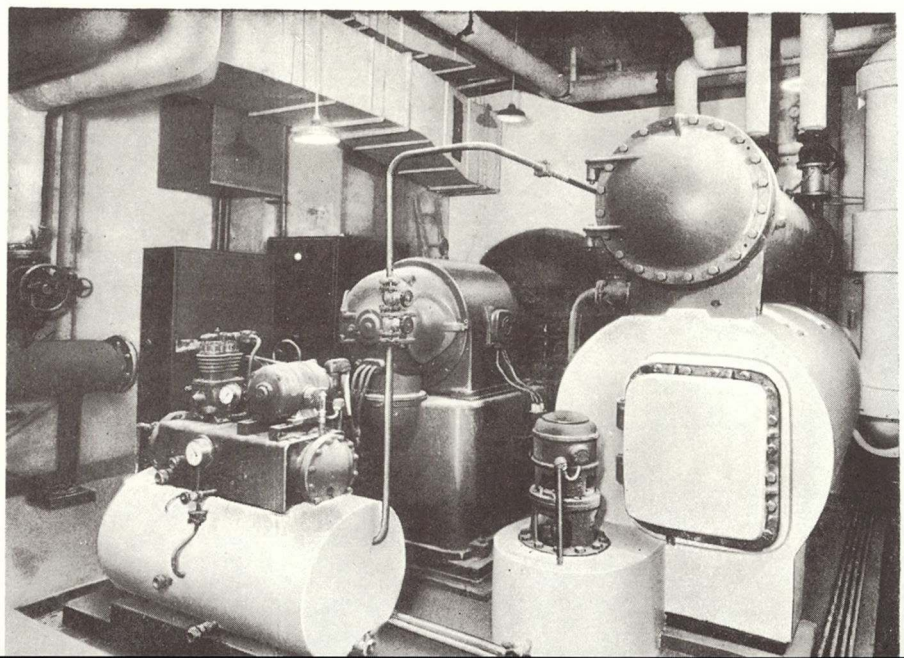
三階平面図



機械室の一部

本設備に使用の主なる機器

ターボ冷凍機	150冷凍噸×200馬力	1台
空気洗滌機		1基
凝結用水ポンプ	4″ × 10馬力	1台
井水噴霧ポンプ	5″ × 15馬力	1台
冷水噴霧ポンプ	5″ × 25馬力	1台
鑄鉄製セクショナルボイラー	S — 4 1 2	1罐
〃	S — 5 1 5	1罐
重油燃焼機	1 馬 力	1台
〃	¾ 馬 力	1台
貯油槽	8尺×4尺×高8尺	1基
眞空ポンプ	複式2馬力	1台
送風機	No. 8 × 50馬力	1台
〃	No. 4 × 5 馬力	1台
排風機	No. 6 ×7.5馬力	1台
〃	No. 3 × 2 馬力	1台
〃	No.2½×1馬力	1台
〃	No.1½×1馬力	1台



●第三五集　第六号　掲載広告一覧（掲載順）

三谷製作所
東洋リノリューム
セメダイン
三菱レイヨン
大阪金属工業
水島商店
ナショナル　コンクリート　ブロック工業
伊奈製陶
日本耐火建材
満点製作所
日本ドアーチエック製造
東洋陶器
立川ブラインド工業
オリエンタルメタル製造
伊丹木材
田中工業
久保商店
大阪城口研究所
大阪電気商会
桐田商会
斉久工業

三機工業
須賀工業
西原衛生工業所
建材社
栄興商会
三晃商会
浅海電気産業
近畿電気工事
中央電気工業
立花商会
田村商会
吉田芳雄商店
鈴木シヤタア商会
福昌
関西建材会
三高製作所
室谷商店
大和商店
松井商店
東邦商会
明青工業写真
金剛商会

織本建築設計々算事務所
大島応用化学工業
汎建製作所
三舟窯業
ナニワ瓦
大仏組
東京鋼板工業
岸田塗工店
樫野石灰工業
シフカー工業所
田中風呂製作所
川岸窯業
上沢商会
福屋工業
杉田組協栄
奥山化工業
和か山スレートブロック製造
大正鉄筋コンクリート
三幸商会
大阪建材工業
井上浄夫商店
藤森工業
玉置産業
井上工材

大新物産
内外土木建材社
岩元工業
日本金具製作所
佐渡島英禄商店
油脂化工社
大阪窯業セメント
木下謹三商店
日本セメント防水剤製造所
荏原製作所
田島応用化工